

がん診療連携拠点病院等 院内がん登録

2013年3年生存率集計 報告書

国立がん研究センター がん対策情報センター
がん登録センター 院内がん登録分析室

令和元(2019)年12月
国立がん研究センター がん対策情報センター

がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2013 年 3 年生存率集計の公表について

国立がん研究センターでは、がん対策情報センター・がん登録センターを中心に、これまで全国がん登録及び院内がん登録の標準化や体制整備に努めて参りました。院内がん登録は、2007 年診断例から全国のがん診療連携拠点病院のデータを収集し、院内がん登録全国集計として我が国のがん診療の実態把握に努めています。院内がん登録情報をもととした生存率集計としては、2007 年～2010 年診断例における 5 年生存率、そして国民の皆様により科学的根拠に基づく情報を迅速に提供するために 5 年より早い段階での生存率として、2011～2012 年診断例における 3 年生存率を公表しました。

今回、院内がん登録 3 年生存率集計として、3 回目となる 2013 年 3 年生存率集計を行いました。本生存率集計は、がん診療連携拠点病院等 369 施設、都道府県推薦病院 64 施設にご協力をいただきました。そのなかで、全がんにおいて生存状況把握割合 90%以上を満たすがん診療連携拠点病院等 294 施設、都道府県推薦病院 36 施設の合計 330 施設約 37 万件のデータを分析しました。集計では、2012 年診断例と同様に胃、大腸、肝、肺、女性乳房、食道、膵臓、子宮頸部、子宮体部、前立腺、膀胱、喉頭、胆嚢、腎、腎盂尿管について集計しました。また、特別集計として、年齢・UICC TNM 分類総合ステージ別に胃、大腸、肝、肺非小細胞癌、女性乳房の 5 つについて集計を行いました。本報告書公表を契機として、さらなるがん対策の充実へつながることを期待します。

令和元年 12 月

国立研究開発法人国立がん研究センター 理事長

中釜 斉

生存率について

がん医療を評価する重要な一つの指標として、生存率がある。伝統的に、診断後あるいは治療後 5 年経過した時の生存率が治癒の目安とされており、がん(部位)によっては 10 年生存率が治癒の目安とされることもある。この報告書では、がん診療連携拠点病院 2013 年全国集計の結果を踏まえて、2013 年に診断された例の 3 年生存率を集計した。

信頼性の高い生存率を算定するためには、患者の生存確認を行うことが重要であるため、自施設への来院情報だけにたよらずに、患者の生存状況を把握する生存確認調査(いわゆる予後調査)が必須となる。この生存状況の把握が不十分な場合には真の値よりも高い生存率となることが知られている。また、生存率は生存状況把握割合以外にも生存率を算出した対象集団の基礎疾患の頻度や年齢分布などの偏りなどによっても大きな影響が出る。このように生存率の結果の解釈には様々な要因が影響することに留意する必要がある。

1) 生存状況把握割合の意味

生存率の算出において、先行研究における試算では、生存状況把握割合によって院内のデータのみを使って計算した場合、5 年相対生存率が真の値よりも 10~15% 高く推定されてしまうことがあるとの報告がある。そのため、我が国で先行して施設別生存率の公表をしてきた全国がんセンター協議会の集計方法¹⁾を踏まえて、生存状況把握割合が 90%以上であることを基準として、この基準を全がんにおいて達成した施設のデータのみを集計の対象とした。この生存状況把握割合は国際的には 95%以上が望ましいとされており、わが国の院内がん登録でもより高い把握割合をめざすべきであると考えられる。

2) 生存率の種類

生存率には、その算出の仕方によって大きく「実測生存率」、「疾病特異的生存率」、「相対生存率」、「ネット・サバイバル(Net Survival)」に分けられる。

「実測生存率」は、死因に関係なく、全ての死亡を計算に含めた生存率で、診断例に対する～年後の生存患者の割合で示される。計算方法は複数存在するが、Kaplan-Meier 法が頻用され、医療機関の公表する生存率は Kaplan-Meier 法による実測生存率であることが多い。本報告においても、実測生存率については Kaplan-Meier 法を用いて計算している。

一方で、がんによる生存への影響を把握したいときには、「疾病特異的生存率」、「相対生存率」、「ネット・サバイバル(Net Survival)」が用いられる。「疾病特異的生存率」は、実測生存率で計算される対象にはがん以外の死因による死亡も死亡の中に含まれるため、がん以

外の死因による死亡を、「打ち切り」として計算している。この疾病特異的生存率を正確に推定するためには、がんが死因でないかどうか判定できなければならない。そのため原死因を用いて判定するか、それ以外の死因も含めて判定するかで結果が変わってくる。現在の日本の現状において、この死因の把握はかなり困難である。

これに対し、「相対生存率」、「ネット・サバイバル(Net Survival)」は、実測生存率を対象と同じ性・年齢・診断年(歴年)の一般の日本人集団で「がんではなかった場合の生存率」という考えによる期待生存率を算出し、それで、実際の生存率を割って算出する方法である。疾患特異的生存率のように個々の死因を把握する必要がないため、国際的によく用いられている。

この期待生存率の算出方法の違いから、Ederer I 法、Ederer II 法、Hakulinen 法などがこれまでに開発されてきており、それぞれ特徴があるが、相対生存率に変わる方法として、「ネット・サバイバル(Net Survival)」が目目されている。本集計においては、従来からわが国で推奨されてきた Ederer II 法を用いた。

3) 既存の生存率集計

現在までに、原則として全国を対象とし、かつ臓器別ではなく、全がんを対象として公表されてきたがんの 5 年生存率には、地域がん登録によるもの、全国がんセンター協議会によるものがあり、これらは全て相対生存率で算出されている。

本集計は、人口ベースのデータに近い、臓器別の全国データや、都道府県別データであるため、実測生存率とともに、相対生存率を算出した。

4) 生存率をどう解釈するか

本集計による生存率は、既存の地域がん登録や全国がんセンター協議会の集計結果に比べても、より広汎な集計データといえるが、それでも拠点病院と一部の都道府県推薦病院に限ってのデータであることに留意する必要がある。更に、都道府県別の集計結果を記載しているが、施設数が少ない都道府県のデータについてはかなりの偏りあるいは不正確さが存在していることを想定する必要がある。このため、ここで示した生存率が、単純に当該都道府県のがん医療の優劣ではないことに留意する必要がある。なお、本報告書では、生存率に影響を与えることが想定される情報で、かつ院内がん登録としてデータ収集されている情報として、①性、②年齢、③病期(がんの進行状況)、④観血的治療の有無(手術されたか、されなかったか)、⑤組織型(肺がんの場合)などを参考資料として併記して示している。

1) 全がん協調査などでは、消息判明率と呼ばれてきたが、本報告書ではこの呼び方で表記する。

参考資料

がん登録実務者のためのマニュアル 生存率解析 味木和喜子
2001年9月、大阪府立成人病センター調査部
がん専門施設における生存率計測の標準化 木下洋子他、
癌の臨床 第46巻第10号、2000年9月、篠原出版新社

目次

がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2013 年 3 年生存率集計の公表について	2
生存率について.....	3
I 2013 年 3 年生存率集計 調査方法	7
1. 収集の対象と方法	7
(1) 収集の対象	7
(2) 収集方法	7
(3) 収集項目と定義	7
2. 集計の対象と集計方法	8
(1) 集計の対象	8
(2) 集計の手順	8
(2) 集計項目の定義	9
(3) 集計方法	10
(4) 公表の対象	10
II 2013 年 3 年生存率集計 結果概要	13
1. 調査参加施設と登録数	13
2. 集計対象	13
3. 相対生存率集計対象者	13
III 2013 年 3 年生存率集計 結果詳細(全体) :悪性新生物<腫瘍>	26
1. 全がん	26
2. 胃(C16)	31
3. 大腸(C18-20)	33
4. 肝(C22)	39
5. 肺(C33-34)	41
6. 女性乳房(C50)	43
7. 食道(C15)	45
8. 膵臓(C25)	47
9. 子宮頸部(C53)	49
10. 子宮体部(C54)	51
11. 前立腺(C61)	53
12. 膀胱(C67)	55
13. 喉頭(C32.0, 32.1, 32.2, 10.1)	57
14. 胆嚢(C23.9)	59
15. 腎(C64.9)	61
16. 腎盂尿管(C65.9, 66.9)	63
17. 特別集計:年齢・総合病期別の生存率と精度管理指標(自施設の治療実施の有無)	65
付表(2013 年 3 年生存率集計)	77
1. 集計対象施設一覧	

I 2013 年 3 年生存率集計 調査方法

1. 収集の対象と方法

(1) 収集の対象

本集計では、平成 30 年 4 月 1 日時点のがん診療連携拠点病院 433 施設と 2013 年診断例または 2011 年診断例(2011 年 5 年予後情報付収集と同時収集のため)について院内がん登録全国集計(0 年集計)にデータ提出した都道府県推薦病院(当時)256 施設に調査を依頼した。データ収集に当たっては、院内がん登録 2013 年診断例の通年データを持ち、死亡日、最終生存確認日、生存期間等の生存状況情報を含めたデータ提出が可能と考えられる上記の調査依頼施設に、「予後情報付集計」の名称で、2013 年 3 年予後情報付登録情報の提供を依頼した。調査対象例は、平成 25 (2013)年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年間に、自施設で診断または他施設で既に診断されて自施設に初診した、全悪性新生物(がん)及び頭蓋内の良性及び良悪性不詳の腫瘍の登録患者*である。これら対象例の 3 年予後情報付の登録情報(以下「予後情報付腫瘍データ」という。)の提供を各施設に依頼した。なお、各施設における登録対象患者は、下記の通りである。

* 各施設における登録患者について

各施設における登録対象は、登録を実施する自施設での新規の診断患者または他施設で診断された初診患者であり、初発例、再発例を含む。また、治療を行わない経過観察例も含まれる。セカンドオピニオンのみを目的とした初診に関しては登録対象とすかどうかは各施設の判断に任されている。1 腫瘍 1 登録の原則に基づき、同一患者に別のがん種と判断されるがんが同時または時間をあけて(異時性に)生じた場合には、多重がんとして登録される。なお、多重がんの判断は各施設に任されている。登録済みの同じがんについて当該施設で治療中に再発した患者については登録対象ではないが、同じ患者が同じがんで複数の病院を受診した場合は、異なる施設において同じ患者の同じがんが登録されている可能性がある。(本全国集計では提供されたデータは匿名化後のデータであるため、重複の整理は行わない。)

(2) 収集方法

平成 30 年 6 月 4 日に、対象施設に、「院内がん登録予後情報付集計 手順書」を送付し、手順書に従って作成されたデータの提供を依頼した。データは、エラーチェックのための品質管理ツールを用いインターネット(ネットワーク型)を通しての提出を依頼した。データ収集期間は、平成 30 年 6 月 11 日から 7 月 4 日までとした。

提出においては、「がん診療連携拠点病院院内がん登録標準登録様式登録項目とその定義 2006 年度版修正版」において定義された標準項目(以下「標準項目」と略す。)を満たす腫瘍データを収集した。項目の品質管理(定義通りの項目・区分で登録されているか、関連する項目間の登録内容に矛盾はないか等)については、

ネットワーク型ではデータの收受の段階で品質管理を実施し、論理矛盾がない状態でのデータ提供への協力を依頼した。なお、健総発第 0907001 号「がん診療連携拠点病院で実施する院内がん登録における必須項目の標準登録様式に係る改正等」において定義された必須項目のみでのデータ提供についてはデータ精度管理上の問題から集計対象としなかった。

(3) 収集項目と定義

収集項目は、前述の診断から 3 年後の生存状況の情報を含む標準項目である。また、予後情報付腫瘍データの提出にあたり、下記の計算式に従って、追跡期間(日数)を計算し入力するよう依頼した。

* 追跡期間(日数)の計算方法

追跡期間(日数)とは、起算日から生存最終確認日もしくは死亡日までの日数とする。起算日は、後述する集計用診断日決定のルールに従って決定する。追跡終了日とは、予後調査結果が死亡であり死亡日があれば死亡日、生存の場合は生存最終確認日とする。

$$\text{追跡期間 (日)} = \text{追跡終了日} - \text{起算日} + 1$$

本集計に関連する項目について以下に記述する。その他の標準項目の定義は、2013 年全国集計報告書を参照いただきたい。

i. 診断区分

診断区分は、わが国の地域がん登録との整合性を図るために用いられている分類で、「1:初発(治療開始前)」、「2:治療開始後」に分けられる。この項目は当該腫瘍について自施設に受診する前に他施設において既に治療が開始されていたか否かを区別するもので、この項目が「1:初発(治療開始前)」であったケースでは、自施設で行われた治療は初回治療とみなす。本来であれば、一連の治療方針の下で施設を問わずに初回治療とされるべきであるが、わが国の現状では、施設が異なると、一連の治療であるかないかが判明しないことが多く、そのため、他施設での治療の情報は、初回治療であっても「初回治療なし」とするルールを定めている。

ii. 症例区分

症例区分は生存率の算定等で対象となる患者範囲を決定する重要な区分である。院内がん登録の機能の一つには、各施設の対がん医療活動の評価のための基礎資料を提供することにある。他施設と比較し自施設のがん診療実態を把握するためには、がん対象例を正しく識別する必要がある。この項目では、初回診断(登録施設での診断の有無)と初回治療(登録施設における初回治療の有無)の組み合わせにより患者を分類するための区分を登録している。本集計では、原則として「症例区分 2:診断ならびに初回治療に関する決定・施

行がなされた症例」及び「症例区分 3:他施設で診断確定され、自施設で初回治療方針に関する決定・施行が行われた症例」を分析対象とする。また、施設によっては前述の診断区分のみを入力している施設もあり、本集計では診断区分の組み合わせから症例区分を算出する対応表を用いて集計を行った。

iii. 臨床病期

治療前ステージ

UICC (International Union Against Cancer) の定める病期の分類方法に基づき、何らかの治療が行われる以前につけられたステージを指す。わが国の一般的な臨床現場で使用される癌取扱い規約に基づくステージとは若干異なる部分がある。胃、乳房、肝臓、大腸、肺についてのみ、標準項目とされているが、他のがんについては任意の登録となっている。肝臓については、取扱い規約のステージも標準項目として登録することになっている。

前医で治療がなされており治療前のステージが不明の場合などは「不明」に分類されるか、空白のままに登録される。わが国の診療情報に関わる施設間の情報交換に関する懸念からこのような方針をとっている。

術後病理学的ステージ

手術が行われた患者に対して、術後に検体が提出され病理学的に算出されたステージを登録する。手術が行われなかった場合には空欄で、術前に化学療法や放射線療法、免疫・内分泌療法などが行われた場合には、手術前の治療の影響が予想されるため、術後病理学的ステージは適応外として登録される。定義上は、原発巣に対する切除術が行われ、断片が陰性であるような治癒的な切除が行われた場合に本ステージが評価できるとされている。術後病理学的ステージは、腫瘍やリンパ節を顕微鏡的に観察して得られるステージであることから、治療前ステージと比較して、治療開始時点でのがんの状態をより正確に表しているといえる。

なお、2013年登録対象はUICC TNM 第7版準拠で登録されている。

iv. 治療の有無

院内がん登録において登録される治療は、登録対象となったがんに対する初回治療である。初回治療とは治療開始時点で計画された一連の治療のことであり、症状・治療の進行に従って後に追加された治療などは含まれない。当初経過観察が計画されていたが、病状が悪化したために治療が行われた場合なども「初回治療なし」となる。また、症状緩和的な目的で行われた手術や放射線治療は、部分的に腫瘍に対する治療であるといえることから登録対象に対する治療の一環に考えるが、腫瘍に影響のない、鎮痛剤や制吐剤などの治療は、「治療あり」としない。

現時点の院内がん登録では、「i 診断区分」で既に述べたとおり、登録施設で行われた治療のみを「初回治療あり」としている。

① 手術・体腔鏡的治療

手術とは一般に外科的治療を指し、体腔鏡とは麻酔下に行われる腹腔鏡、胸腔鏡などの手術を指す。これらには、消化管や気管支内視鏡による治療を含めない。

② 内視鏡治療

上記で除外された、消化管、気管支内視鏡などによる治療を指す。

③ 放射線治療

原発巣に対する放射線治療だけではなく転移巣に対する放射線治療も含まれる。小線源療法も放射線治療として登録される。

④ 化学療法、免疫療法・BRM、内分泌療法

症状緩和のための薬物療法(鎮痛剤、制吐剤)などは含まない。また、通常の静注・経口化学療法だけではなく、肝動脈化学塞栓療法(TACE)に含まれる化学療法や動注療法も化学療法に分類される。内分泌療法には前立腺癌における除睾術等も含まれる。

⑤外科的・体腔鏡的・内視鏡的治療の結果

当該のがんに対する外科・体腔鏡的・内視鏡的治療の根治度を登録する。ここでは、初回治療として行った総合的な結果を記載する。つまり、最初内視鏡的な治療を行ったが、その後外科的な追加切除が行われた場合は、外科的切除の根治度を登録する。

2. 集計の対象と集計方法

(1) 集計の対象

生存率集計における集計対象は、2013年に診断された例で次のiからiiiを満たす例を集計対象とした。

i. 自施設診断・自施設治療と他施設診断・自施設治療例

「症例区分 2:診断ならびに初回治療に関する決定・施行がなされた症例」及び「症例区分 3:他施設で診断確定され、自施設で初回治療方針に関する決定・施行が行われた症例」を集計対象とした。

ii. 悪性新生物<腫瘍>(一部良性の脳腫瘍)

本集計では、原則として新生物<腫瘍>の性状コード3の「悪性、原発部位(悪性新生物<腫瘍>)」の例を集計対象とした。但し、脳・中枢神経系に発生した腫瘍性疾患については、良性、良性又は悪性の別不詳の例を含めて集計対象とした。また、GISTの良性または悪性の別不詳を集計対象に含めた。

iii. 年齢

診断時の年齢が0から99歳までの例を集計対象とした。

(2) 集計の手順

①集計対象例の選定

提出されたデータから上記のiからiiiに該当する例を抽出した。

i 自施設診断・自施設治療と他施設診断・自施設治療例

集計対象施設から提供されたデータを、表1-1 集計用診断日の決定のルール、及び表1-2 集計用症例区

分の決定のルールに基づいて、「項目:集計用診断日」、「項目:集計用症例区分」を作成した。その後、集計用症例区分が2, 3であった例を集計対象とした。

ii 悪性新生物<腫瘍>(一部良性の脳腫瘍)

原則として、「項目:330 組織診断名コード」の新生物<腫瘍>の性状を表す第5桁コードが「3:悪性、原発部位」であった例を集計対象とした。但し、一部の脳・中枢神経系に発生した腫瘍性疾患、ICD-O-3の局在コードが「C70.0, C70.9, C71.0, C71.1, C71.2, C71.3, C71.4, C71.5, C71.6, C71.7, C71.8, C71.9, C72.2, C72.3, C72.4, C72.5, C72.8, C72.9, C75.1, C75.2, C75.3」の場合は、「0:良性」又は「1:良性又は悪性の別不詳」であった場合も集計対象に含めた。

iii 年齢

年齢は、生年月と集計用診断年月を用いて、院内がん登録全国集計と同様に下記の定義で求めた。

診断年月の月>=生年月日の月

⇒診断年月の年-生年

診断年月の月<生年月日の月

⇒診断年月の年-生年-1

上記で求めた年齢が0~99歳までの例を集計対象とした。

上記で選定した例から、下記の㉞~㉟に該当する場合は集計対象から除外した。

㉞性別不詳の場合

半陰陽や性同一性障害による戸籍性別の変更等のため、性別で特有の臓器に発生した腫瘍と戸籍上の性別が矛盾していないかを確認した上で、性別が不詳(項目:性別が9)であった者を除外した。性別で特有の臓器に発生した腫瘍について矛盾があった場合は、臓器に基づいて性別を修正した上で集計した(例:前立腺と登録があった場合に性別が女性として登録されていたら、男性として集計)。

㉟追跡終了日の年月が不明の場合

追跡終了日は、「項目660:予後調査結果」が死亡であった場合は死亡日、生存であった場合は最終生存確認日となる。ただし、死亡例であっても死亡日の年または月が不明の場合は、打ち切り扱いとし、生存最終確認日を追跡終了日とした。追跡終了日の年あるいは月が不明であった場合は、集計対象から除外した。

㊱UICC TNM分類総合ステージが0期の場合

病期は、患者の予後を予測する上で重要である。院内がん登録では、UICC TNM分類に基づく治療の選択と評価に不可欠である臨床分類(治療前ステージ)と、術後アジュバント療法の指針となり、予後推定や遠隔成績の計算のための追加情報を提供する術後病理学的分類ステージについて情報を収集している。本集計では、腫瘍切除例(外科的・体腔鏡的・内視鏡的治療の結果が、1:治癒切除、2:非治癒切除、3:

治癒/非治癒の別不詳)については腫瘍の縮小を目的とした化学療法や放射線療法あるいは免疫・内分泌療法などを施行後の腫瘍切除例(術後病理学的ステージ適応外例)及び術後病理学的ステージが不詳であった例を除き、UICC TNM分類術後病理学的ステージをより患者の治療前の病期を表すとしてUICC TNM分類総合ステージとして用いた。腫瘍切除例以外はUICC TNM分類治療前ステージをUICC TNM分類総合ステージとして用いた。なお、本集計では総合ステージが0期であった場合は、集計対象から除外した。

㊲追跡期間(日数)の確認

追跡期間(日数)は正確な生存率を算出するために必須の項目である。2013年診断例については、品質管理において、登録された追跡期間の確認を行っている。

㊳集計対象施設の選定

生存率の推定値は、生存状況把握割合に影響を受ける。3年生存率を計算する場合には、対象者全員の3年後の生存状況を把握することが必要となる。これまで、全国がんセンター協議会は、加盟施設の生存率を公表してきた。その中で、がんの生存率は生存状況把握割合を100%に近づけるほど、真の値に近づくこととされ、概ね95%以上の生存状況把握割合を維持する必要があるとされている。しかしながら、現在の院内がん登録における生存確認調査の実施においては、障害も多く、調査を実施しても生存状況が確認できず、生存状況把握割合が低い施設も存在する。また全国がんセンター協議会の生存率公表においても、改善が要するとされつつも生存状況把握割合が90%を超えた場合に施設の生存率が公表されてきた。これらの経緯を踏まえ、本集計では前述の集計対象例の生存状況把握割合が90%以上の施設を集計対象とした。具体的には、予後調査結果が生存であるが追跡期間(日数)が3年未満の打ち切り例が施設の生存率集計対象例の10%未満である施設を集計対象施設とした。

生存状況把握割合=(1-打ち切り例数/集計対象例数)×100

(2) 集計項目の定義

● 部位区分

表1-3 部位分類コード対応に基づき、作成した。

● 臨床病期

UICC TNM分類総合ステージ

2013年診断例では、UICC TNM分類第7版に準拠してUICC TNM分類の治療前及び術後病理学的ステージが登録されている。

本集計では、がん患者の予後に影響するステージとして、治療開始時点でのがんの状態をより正確に表している術後病理学的ステージがある場合(適応外、不詳、空欄を除く)は術後病理学的ステージを、無い場合は治療前ステージを用いて、UICC TNM分類総合ステージとして集計に用いた。なお、本集計では、各施設で

登録されたステージの値を用いて集計をしており、登録されている TNM 情報からみてステージが UICC TNM 分類のステージと一致しない場合であってもデータに修正は加えていない。

UICC TNM 分類総合ステージの対象例は、以下の組織形態コードとする。

8051-8084, 8090-8110, 8120-8131, 8140-8149,
8160-8162, 8190-8221, 8260-8337, 8350-8551,
8570-8576, 8940-8941, 8030-8046, 8150-8157,
8170-8180, 8230-8231, 8246-8247, 8250-8255,
8340-8347, 8560-8562, 8580-8671, 8010-8015,
8020-8022, 8050, 8000-8005
但し、前立腺は 8120-8131 を除く

UICC TNM 分類総合ステージ分布では、上記組織形態コードのみを集計する。

● 観血的治療

当該のがんに対する外科・体腔鏡的・内視鏡的治療の根治度について、「項目 520:外科的・体腔鏡的・内視鏡的治療の結果」に登録することとなっている。登録の際には、「1:原発巣-治癒切除」、「2:原発巣-非治癒切除」、「3:原発巣-治癒/非治癒の別不詳」、「4:姑息/対象治療、転移巣切除」、「8:その他」、「9:不詳」の中から一つを選択する。本集計では、観血的治療の有無、外科・体腔鏡的・内視鏡的治療の根治度別に生存率を集計した。

(3) 集計方法

前述のとおり選定された集計対象例・集計対象施設において、3 年後の生存状況変数を作成し生存率を推定した。追跡期間(日数)が3年未満でかつ予後調査結

果が死亡であった場合は、3 年後の生存状況＝死亡(1)とした。

生存率は、Kaplan-Meier 法を用いた実測生存率と、国立がん研究センターがん対策情報センターがん登録センターにおいて作成されたコホート生存率表(2016 年版)を用い、Ederer II 法を用いた相対生存率を推定した。なお、本報告書では StataMP 14.0 (Stata Corporation, College Station, TX, USA)を用い、Paul W. Dickman らが開発したstrsを用いて相対生存率を推定している。

(4) 公表の対象

令和元年度第 1 回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会がん登録部会での検討に基づき、以下の公表基準に沿って、生存率を公表する。

生存率の推定値は、対象例数、死亡者数等の件数に依存する。一般に対象例数が 30 例未満の場合、推定された生存率の信頼性が低くなるため、本集計では対象例数が 30 例未満の場合は、3 年生存率を公表しないこととする。なお、各集計表において、集計値が 10 未満の場合、個人が特定される可能性が高いことから、厚生労働省平成 28 年 8 月 4 日第 8 回がん診療提供体制のあり方に関する検討会での検討に従い 1-3 件、4-6 件、7-9 件といった形で公表する。

なお、都道府県別生存率については、当該都道府県で集計対象が 1 施設となる場合は表示していない。

参考資料

1)全国がんセンター協議会. 全がん協加盟施設におけるがん患者生存率公表にあたっての指針(案)
2004/11/25版 厚生労働省がん研究助成金「地域がん専門診療施設におけるソフト面の整備拡充に関する研究」班

表1-1 集計用診断日決定のルール

集計用症例区分	集計用診断日	備考
1:診断のみ	診断日2	
2:自施設診断自施設治療	診断日2	
3:他施設診断自施設治療	当該腫瘍初診日	
4:初回治療開始後の症例、 もしくは再発症例	当該腫瘍初診日	*
5:剖検	診断日2	死亡日
8:その他	診断日2、当該腫瘍初診日のいずれか	*

* 優先する集計用診断日となる日付が登録されていない場合、診断日 2、当該腫瘍初診日、診断日 1、入院日の中で、2013 年の日付の項目を用いて作成した。

表 1-2 集計用症例区分の決定のルール

診断区分	診断施設	治療方針	集計用症例区分
1:初発	1:自施設診断	1:自施設で治療	2:自施設診断自施設治療
1:初発	1:自施設診断	3:自施設で経過観察	2:自施設診断自施設治療
1:初発	1:自施設診断	4:他施設へ紹介	1:診断のみ
1:初発	1:自施設診断	8:来院中断	1:診断のみ
1:初発	1:自施設診断	9:その他	1:診断のみ
1:初発	2:他施設診断	1:自施設で治療	3:他施設診断自施設治療
1:初発	2:他施設診断	3:自施設で経過観察	3:他施設診断自施設治療
1:初発	2:他施設診断	4:他施設へ紹介	8:その他
1:初発	2:他施設診断	8:来院中断	8:その他
1:初発	2:他施設診断	9:その他	8:その他
2:治療開始後	2:他施設診断	1:自施設で治療	4:初回治療開始後の症例、 もしくは再発症例
2:治療開始後	2:他施設診断	3:自施設で経過観察	4:初回治療開始後の症例、 もしくは再発症例
2:治療開始後	2:他施設診断	4:他施設へ紹介	8:その他
2:治療開始後	2:他施設診断	8:来院中断	8:その他
2:治療開始後	2:他施設診断	9:その他	8:その他

症例区分が登録されているケースでは症例区分を優先、症例区分が登録されていない例では、診断区分・診断施設・治療方針から上記のルールで変換した集計用症例区分を用いて集計用症例区分を作成した。

表 1-3 部位分類コード対応

部位名	第 1 段階 ICD-O-3 形態コード	第 2 段階 ICD-O-3 部位コード
口腔・咽頭		C00-C14
食道		C15
胃		C16
結腸		C18
直腸		C19-C20
大腸		C18-C20
肝臓		C22
胆嚢・胆管		C23-C24
膵臓		C25
喉頭		C32
肺		C33-C34
骨・軟部		C40-C41、C47、C49
皮膚(黒色腫を含む)		C44
乳房		C50
子宮頸部		C53
子宮体部		C54
子宮		C55
卵巣		C56
前立腺		C61
膀胱		C67
腎・他の尿路		C64-C66、C68
脳・中枢神経系		C700、C71、C722-C729、C751-C753
甲状腺		C73
悪性リンパ腫	959-972 974-975	
多発性骨髄腫	973、976	
白血病	980-994	
他の造血器腫瘍	995-998	C421
その他		第 1 段階、第 2 段階で変換された以外の症例

II 2013年3年生存率集計 結果概要

1. 調査参加施設と登録数

調査を依頼した 699 施設(がん診療連携拠点病院等 433 施設、都道府県推薦病院 256 施設)のうち、433 施設(がん診療連携拠点病院等 369 施設、都道府県推薦病院 64 施設)から3年予後情報付腫瘍データが提供された(協力率61.9%、がん診療連携拠点病院等83.3%、都道府県推薦病院25.0%)。表 2-1-1 と表 2-1-2 に全登録数と集計対象を示す。

2. 集計対象

(1) 集計の対象

① 集計対象例の選定

i 自施設診断・自施設初回治療及び他施設診断・自施設初回治療

がん診療連携拠点病院等では、提出されたデータ全体で、「自施設診断・自施設初回治療(症例区分 2)」が 358,585 例(59.8%)、「他施設診断・自施設初回治療(症例区分 3)」が 123,103 例(20.5%)であり、全登録数の 80.3%を占めた。都道府県推薦病院では、提出されたデータ全体で、「自施設診断・自施設初回治療」が 34,702 例(67.6%)、「他施設診断・自施設初回治療」が 7,189 例(14.0%)を占めた。

ii 悪性新生物<腫瘍>

症例区分 2, 3(自施設診断・自施設初回治療又は他施設診断・自施設初回治療)のうち悪性新生物<腫瘍>(新生物<腫瘍>の性状コードが 3)は、がん診療連携拠点病院等が 418,835 例(87.0%)であった。脳腫瘍の良性又は良性・悪性の別不詳を合わせると集計対象腫瘍例は、429,103 例(89.1%)であった。

iii 年齢

診断時の年齢を見ると、100 歳以上が 127 例あり、生存率集計からは除外した。年齢別にみると、70 歳代が 32.3%と最も多く、次いで 60 歳代が 28.2%であった。

上記で選定した例から、性別不詳及び追跡終了日不明または UICC TNM 分類総合ステージ 0 期の合計 212 例を集計対象から除外した。

② 追跡期間(日数)の確認

3年予後情報付データ収集では、品質管理において追跡期間の確認を行った。なお、追跡終了日(死亡例の場合は、死亡日の年月、生存例の場合は、生存最終確認日の年月)が不明の場合は集計対象から除外した。但し、死亡例で死亡日の年月が不明であっても、生存最終確認日の年月が判明している場合は、生存最終確認日を追跡終了日とし、打ち切り例として集計した。

(2) 生存状況把握割合

各施設における集計対象例に対する生存状況把握割合について検討した結果、最も低かった施設の生存状況把握割合は、31.7%で、最も高かった施設は 100.0%であった。都道府県・施設別生存状況把握割合について図 2-1(25 頁)に示した。以降の集計結果では、生存状況把握割合が 90%以上であった 330 施設(がん診療連携拠点病院等 294 施設、都道府県推薦病院 36 施設)における登録例を集計対象とした。

3. 相対生存率集計対象者

全がんで生存状況把握割合が 90%以上であった 330 施設において集計対象例は、373,522 例であった。

表 2-1-1 がん診療連携拠点病院等における全登録数と集計対象

	集計対象外施設		集計対象施設		全体	
	75 施設	(%)	294 施設	(%)	369 施設	(%)
全登録数	103,018	100.0	496,548	100.0	599,566	100.0
症例区分別登録数						
1. 診断のみ	6,463	6.3	26,511	5.3	32,974	5.5
2. 自施設診断・自施設初回治療	64,249	62.4	294,336	59.3	358,585	59.8
3. 他施設診断・自施設初回治療	19,932	19.3	103,171	20.8	123,103	20.5
4. 初回治療開始後・再発	9,571	9.3	50,576	10.2	60,147	10.0
5. 剖検	52	0.1	239	0.1 未満	291	0.1 未満
6. 不明・その他	2,751	2.7	21,715	4.4	24,466	4.1
症例区分 (2, 3) (再掲)	84,181	81.7	397,507	80.1	481,688	80.3
症例区分 2, 3 のうち						
良性	1,284	1.5	5,890	1.5	7,174	1.5
良性又は悪性の別不詳	592	0.7	2,556	0.6	3,148	0.7
上皮内癌	9,785	11.6	42,746	10.8	52,531	10.9
悪性新生物<腫瘍>	72,520	86.1	346,315	87.1	418,835	87.0
集計対象腫瘍*	74,394	88.4	354,709	89.2	429,103	89.1
症例区分 2, 3、集計対象腫瘍のうち (年齢不詳除く)						
年齢 0~14 歳	276	0.4	1,177	0.3	1,453	0.3
15~39 歳	2,203	3.0	11,275	3.2	13,478	3.1
40 歳代	4,366	5.9	22,469	6.3	26,835	6.3
50 歳代	8,546	11.5	41,858	11.8	50,404	11.7
60 歳代	20,949	28.2	100,134	28.2	121,083	28.2
70 歳代	24,055	32.3	114,406	32.3	138,461	32.3
80-99 歳	13,979	18.8	63,283	17.8	77,262	18.0
100 歳以上	20	0.1 未満	107	0.1 未満	127	0.1 未満
0~99 歳 (再掲)	74,374	100.0	354,602	100.0	428,976	100.0
除外対象	24	0.1 未満	188	0.1	212	0.1 未満
集計対象例	74,350		354,414		428,764	

*症例区分 2, 3 のうち、悪性新生物<腫瘍>、脳・中枢神経系に発生した良性または良性・悪性の別不詳の腫瘍を含む

表 2-1-2 都道府県推薦病院における全登録数と集計対象

	集計対象外施設		集計対象施設		全体	
	28 施設	(%)	36 施設	(%)	64 施設	(%)
全登録数	25,366	100.0	25,941	100.0	51,307	100.0
症例区分別登録数						
1. 診断のみ	2,059	8.1	1,987	7.7	4,046	7.9
2. 自施設診断・自施設初回治療	17,349	68.4	17,353	66.9	34,702	67.6
3. 他施設診断・自施設初回治療	3,150	12.4	4,039	15.6	7,189	14.0
4. 初回治療開始後・再発	2,239	8.8	2,142	8.3	4,381	8.5
5. 剖検	20	0.1	18	0.1	38	0.1
6. 不明・その他	549	2.2	402	1.5	951	1.9
症例区分(2, 3)(再掲)	20,499	80.8	21,392	82.5	41,891	81.6
症例区分 2, 3のうち						
良性	244	1.2	171	0.8	415	1.0
良性又は悪性の別不詳	132	0.6	86	0.4	218	0.5
上皮内癌	2,410	11.8	2,257	10.6	4,667	11.1
悪性新生物<腫瘍>	17,713	86.4	18,878	88.2	36,591	87.3
集計対象腫瘍*	18,084	88.2	19,135	89.4	37,219	88.8
症例区分 2, 3、集計対象腫瘍のうち(年齢不詳除く)						
年齢 0~14 歳	37	0.2	22	0.1	59	0.2
15~39 歳	428	2.4	468	2.4	896	2.4
40 歳代	988	5.5	986	5.2	1,974	5.3
50 歳代	1,845	10.2	2,051	10.7	3,896	10.5
60 歳代	4,745	26.2	5,150	26.9	9,895	26.6
70 歳代	6,122	33.9	6,296	32.9	12,418	33.4
80-99 歳	3,904	21.6	4,149	21.7	8,053	21.6
100 歳以上	15	0.1	13	0.1	28	0.1
0~99 歳(再掲)	18,069	99.9	19,122	99.9	37,191	99.9
除外対象	(1-3)	0.0	14	0.1	17	0.0
集計対象例	18,066		19,108		37,174	

*症例区分 2, 3のうち、悪性新生物<腫瘍>、脳・中枢神経系に発生した良性または良性・悪性の別不詳の腫瘍を含む

表 2-2-1 がん診療連携拠点病院等調査参加 369 施設の全登録数及び症例区分 2, 3 の登録数

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2）	他施設 診断自 施設治 療（症 例区分 3）	自施設 治療 （症例 区分 2, 3） 登録割 合	
総数			294	599,566	358,585	123,103	80.3
北海道	北海道がんセンター	集計対象	2468	1181	631	73.4	
	JA 北海道厚生連旭川厚生病院	集計対象	1522	1009	221	80.8	
	王子総合病院	集計対象	1091	846	108	87.4	
	市立釧路総合病院		1062	745	154	84.7	
	市立札幌病院		1293	935	220	89.3	
	JA 北海道厚生連帯広厚生病院	集計対象	1521	1152	233	91.1	
	北見赤十字病院	集計対象	1410	839	268	78.5	
	社会医療法人母恋 日鋼記念病院	集計対象	648	380	65	68.7	
	函館厚生病院 函館五稜郭病院	集計対象	1583	1221	192	89.3	
	札幌医科大学附属病院		2260	992	529	67.3	
	JA 北海道厚生連札幌厚生病院	集計対象	1718	1147	311	84.9	
	手稲溪仁会病院		2180	1412	356	81.1	
	旭川医科大学病院		1620	880	431	80.9	
	独立行政法人 労働者健康安全機構 釧路労災 病院	集計対象	957	776	112	92.8	
	KKR 札幌医療センター		1025	765	57	80.2	
青森	青森県立中央病院		2071	1255	441	81.9	
	八戸市立市民病院	集計対象	1412	931	298	87.0	
	三沢市立三沢病院		427	237	70	71.9	
	十和田市立中央病院		671	418	86	75.1	
岩手	岩手県立中央病院	集計対象	1874	1369	331	90.7	
	岩手県立二戸病院	集計対象	372	207	47	68.3	
	岩手医科大学附属病院	集計対象	2877	1331	938	78.9	
	岩手県立中部病院	集計対象	1184	731	250	82.9	
	岩手県立磐井病院	集計対象	730	362	161	71.6	
	岩手県立宮古病院		453	273	58	73.1	
	岩手県立胆沢病院		960	701	151	88.8	
	岩手県立大船渡病院	集計対象	558	382	52	77.8	
	岩手県立久慈病院		449	335	38	83.1	
	岩手県立釜石病院		384	228	50	72.4	
宮城	東北大学病院	集計対象	3293	1329	877	67.0	
	宮城県立がんセンター	集計対象	1988	1074	428	75.6	
	石巻赤十字病院	集計対象	1843	1263	243	81.7	
	独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター		1597	973	309	80.3	
	大崎市民病院	集計対象	1661	1253	255	90.8	
	独立行政法人労働者健康安全機構 東北労災病 院	集計対象	1031	725	167	86.5	
秋田	秋田大学医学部附属病院	集計対象	1695	824	545	80.8	
	秋田県厚生農業協同組合連合会 由利組合総合 病院	集計対象	664	473	104	86.9	
	大曲厚生医療センター	集計対象	744	545	104	87.2	
	秋田県厚生農業協同組合連合会平鹿総合病院	集計対象	798	664	105	96.4	
	秋田県厚生農業協同組合連合会能代厚生医療セ ンター		575	395	77	82.1	
	秋田赤十字病院	集計対象	1164	866	204	91.9	
	大館市立総合病院	集計対象	661	485	112	90.3	
	秋田県厚生農業協同組合連合会 秋田厚生医療 センター	集計対象	1071	712	179	83.2	
山形	山形県立中央病院	集計対象	2173	1368	490	85.5	
	山形大学医学部附属病院	集計対象	1940	900	596	77.1	
	山形市立病院済生館	集計対象	1028	760	101	83.8	
	置賜広域病院企業団 公立置賜総合病院	集計対象	1013	729	187	90.4	

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2）	他施設 診断自 施設治 療（症 例区分 3）	自施設 治療 （症例 区分 2, 3） 登録割 合
福島	日本海総合病院	集計対象	1594	1244	177	89.1
	労働者健康安全機構 福島労災病院		1044	695	182	84.0
	一般財団法人慈山会医学研究所付属坪井病院		628	394	109	80.1
	福島県立医科大学附属病院	集計対象	2285	1007	610	70.8
	一般財団法人太田総合病院附属太田西ノ内病院	集計対象	1678	1166	333	89.3
	竹田総合病院	集計対象	1268	810	205	80.0
	一般財団法人 脳神経疾患研究所 附属 総合 南東北病院	集計対象	2163	1130	448	73.0
茨城	会津中央病院	集計対象	696	538	58	85.6
	茨城県立中央病院	集計対象	1861	1164	402	84.1
	筑波メディカルセンター病院・茨城県地域がん センター		1112	755	123	79.0
	茨城県厚生農業協同組合連合会 総合病院土浦 協同病院・茨城県地域がんセンター	集計対象	1639	1197	256	88.7
	株式会社日立製作所 日立総合病院・茨城県地 域がんセンター		1548	1166	244	91.1
	友愛記念病院	集計対象	887	538	102	72.2
	茨城県厚生農業協同組合連合会 茨城西南医療 センター病院	集計対象	669	401	61	69.1
	国立大学法人 筑波大学附属病院	集計対象	3309	1403	778	65.9
	国立病院機構水戸医療センター	集計対象	1090	786	193	89.8
	株式会社 日立製作所 ひたちなか総合病院	集計対象	711	524	84	85.5
栃木	医療法人社団善仁会小山記念病院		645	296	(7-9)	47.1
	地方独立行政法人栃木県立がんセンター	集計対象	2229	1177	616	80.4
	自治医科大学附属病院	集計対象	3344	1856	952	84.0
	栃木県済生会宇都宮病院	集計対象	1758	1363	146	85.8
	獨協医科大学病院	集計対象	2424	1629	482	87.1
	那須赤十字病院	集計対象	1002	681	155	83.4
	群馬	伊勢崎市市民病院	集計対象	1516	1056	217
群馬県立がんセンター		集計対象	2162	1011	736	80.8
国立病院機構沼田病院		集計対象	281	173	38	75.1
独立行政法人国立病院機構 渋川医療センター		集計対象	510	331	65	77.6
独立行政法人国立病院機構 高崎総合医療セン ター		集計対象	1343	942	194	84.6
公立富岡総合病院		集計対象	871	593	115	81.3
桐生厚生総合病院		集計対象	791	641	46	86.9
前橋赤十字病院		集計対象	1464	1002	265	86.5
さいたま赤十字病院		集計対象	1520	1116	225	88.2
埼玉県立がんセンター		集計対象	3731	1719	1076	74.9
埼玉	深谷赤十字病院		594	471	113	98.3
	春日部市立医療センター	集計対象	875	581	83	75.9
	埼玉医科大学総合医療センター		2644	1597	429	76.6
	獨協医科大学埼玉医療センター	集計対象	2134	1250	407	77.6
	川口市立医療センター	集計対象	1328	876	194	80.6
	埼玉医科大学国際医療センター	集計対象	4241	2197	1341	83.4
	社会福祉法人恩賜財団埼玉県済生会川口総合病 院	集計対象	1191	801	141	79.1
	医療法人社団東光会 戸田中央総合病院	集計対象	759	502	86	77.5
	自治医科大学附属さいたま医療センター	集計対象	2345	1254	549	76.9
	千葉	国立研究開発法人 国立がん研究センター東病 院	集計対象	6106	2087	1863
国保旭中央病院		集計対象	2361	1693	247	82.2
医療法人鉄蕉会 亀田総合病院		集計対象	2681	1845	438	85.2
国保直営総合病院 君津中央病院		集計対象	1375	1021	139	84.4
千葉県がんセンター		集計対象	4493	1989	1259	72.3

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2）	他施設 診断自 施設治 療（症 例区分 3）	自施設 治療 （症例 区分 2, 3） 登録割 合
	独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院		1073	790	155	88.1
	船橋市立医療センター	集計対象	1478	977	267	84.2
	千葉大学医学部附属病院	集計対象	3565	1854	844	75.7
	独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター	集計対象	937	751	82	88.9
	東京歯科大学市川総合病院	集計対象	1245	866	139	80.7
	順天堂大学医学部附属浦安病院	集計対象	1897	1317	254	82.8
	東京慈恵会医科大学附属柏病院	集計対象	1955	1323	430	89.7
	松戸市立総合医療センター	集計対象	1297	619	118	56.8
	日本医科大学千葉北総病院	集計対象	1220	932	153	88.9
東京	国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院	集計対象	6714	2454	2038	66.9
	東京都立駒込病院	集計対象	4596	2014	1193	69.8
	青梅市立総合病院	集計対象	1210	870	105	80.6
	NTT 東日本関東病院	集計対象	2125	1307	410	80.8
	日本赤十字社医療センター	集計対象	2275	931	306	54.4
	日本大学医学部附属板橋病院	集計対象	2307	1442	386	79.2
	武蔵野赤十字病院	集計対象	2356	1629	365	84.6
	がん研有明病院	集計対象	9373	3460	2828	67.1
	国立大学法人 東京大学医学部附属病院	集計対象	3703	1897	804	72.9
	日本医科大学付属病院	集計対象	3111	1690	583	73.1
	聖路加国際病院	集計対象	2442	1307	666	80.8
	帝京大学医学部附属病院	集計対象	2304	1332	426	76.3
	杏林大学医学部付属病院	集計対象	2626	1729	551	86.8
	順天堂大学医学部附属順天堂医院	集計対象	4530	2185	1041	71.2
	昭和大学病院	集計対象	2560	1513	570	81.4
	慶應義塾大学病院	集計対象	3813	1872	772	69.3
	東京都立多摩総合医療センター	集計対象	2715	1574	714	84.3
	公立昭和病院	集計対象	1600	1122	263	86.6
	東京慈恵会医科大学附属病院		3210	1850	660	78.2
	虎の門病院	集計対象	3595	1712	1003	75.5
	独立行政法人国立病院機構東京医療センター		2205	1383	419	81.7
	東京医科歯科大学医学部附属病院	集計対象	2842	1290	720	70.7
	東京都立墨東病院	集計対象	1412	996	163	82.1
	独立行政法人国立病院機構 災害医療センター		1132	710	179	78.5
神奈川	神奈川県立がんセンター	集計対象	3500	1600	1106	77.3
	国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院	集計対象	2156	1595	335	89.5
	横浜市立市民病院	集計対象	1728	1171	314	85.9
	相模原協同病院	集計対象	1135	709	111	72.2
	公立大学法人 横浜市立大学附属病院	集計対象	2248	1110	622	77.0
	聖マリアンナ医科大学病院	集計対象	2973	1607	661	76.3
	東海大学医学部付属病院	集計対象	3684	2205	709	79.1
	藤沢市民病院		1215	856	205	87.3
	北里大学病院	集計対象	1997	1385	508	94.8
	横浜労災病院		1893	1188	215	74.1
	昭和大学横浜市北部病院	集計対象	2152	1227	514	80.9
	横浜市立みなと赤十字病院	集計対象	1454	926	198	77.3
	大和市立病院	集計対象	987	711	85	80.6
	独立行政法人 労働者健康安全機構 関東労災病院	集計対象	1010	721	129	84.2
	恩賜財団済生会横浜市東部病院		1997	1213	356	78.6
	公立大学法人横浜市立大学附属市民総合医療センター		2140	1425	534	91.5
新潟	新潟県立がんセンター新潟病院	集計対象	3042	1860	964	92.8
	県立中央病院	集計対象	1377	975	266	90.1

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2）	他施設 診断自 施設治 療（症 例区分 3）	自施設 治療 （症例 区分 2, 3） 登録割 合
	新潟市民病院		1719	1187	387	91.6
	長岡赤十字病院	集計対象	1812	1330	281	88.9
	新潟県厚生農業協同組合連合会長岡中央綜合病院	集計対象	1751	1231	430	94.9
	新潟大学医歯学総合病院		2290	1012	835	80.7
	県立新発田病院	集計対象	1253	864	234	87.6
	労働者健康安全機構新潟労災病院	集計対象	420	358	40	94.8
富山	富山県立中央病院	集計対象	2568	1712	551	88.1
	黒部市民病院	集計対象	669	505	80	87.4
	富山労災病院	集計対象	316	211	14	71.2
	富山大学附属病院	集計対象	1157	726	234	83.0
	厚生連高岡病院	集計対象	1236	883	200	87.6
	高岡市民病院	集計対象	635	510	48	87.9
	市立砺波総合病院	集計対象	659	530	39	86.3
石川	国立大学法人金沢大学附属病院	集計対象	2206	1078	487	70.9
	独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター		785	624	73	88.8
	石川県立中央病院		1616	984	526	93.4
	金沢医科大学病院	集計対象	1107	742	185	83.7
	小松市民病院	集計対象	770	525	104	81.7
福井	福井県立病院	集計対象	1736	1105	319	82.0
	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 福井県済生会病院	集計対象	1454	981	270	86.0
	福井赤十字病院	集計対象	1165	909	145	90.5
	福井大学医学部附属病院	集計対象	1267	734	346	85.2
	独立行政法人国立病院機構敦賀医療センター	集計対象	159	103	19	76.7
山梨	山梨県立中央病院		1787	1130	296	79.8
	山梨大学医学部附属病院	集計対象	1845	1103	333	77.8
長野	長野県厚生農業協同組合連合会 佐久総合病院	集計対象	1861	1294	387	90.3
	佐久医療センター					
	国立大学法人 信州大学医学部附属病院	集計対象	2465	1092	644	70.4
	諏訪赤十字病院	集計対象	1169	772	171	80.7
	飯田市立病院		1047	682	174	81.8
	長野市民病院	集計対象	1807	1231	414	91.0
	長野赤十字病院	集計対象	1669	1056	343	83.8
	社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院	集計対象	1385	834	169	72.4
	伊那中央病院	集計対象	904	550	203	83.3
	長野県厚生農業協同組合連合会 北信総合病院	集計対象	603	468	68	88.9
岐阜	岐阜市民病院		749	506	83	78.6
	岐阜大学医学部附属病院	集計対象	2257	1209	656	82.6
	高山赤十字病院	集計対象	587	418	36	77.3
	岐阜県総合医療センター	集計対象	1768	1255	305	88.2
	岐阜県立多治見病院	集計対象	1542	954	287	80.5
	大垣市民病院	集計対象	2280	1878	272	94.3
	社会医療法人厚生会 木沢記念病院	集計対象	1079	611	191	74.3
静岡	静岡県立静岡がんセンター	集計対象	6806	2854	2036	71.8
	静岡県立総合病院		2496	1599	557	86.4
	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷三方原病院	集計対象	1592	1017	223	77.9
	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷浜松病院	集計対象	1820	1227	312	84.6
	順天堂大学医学部附属静岡病院	集計対象	1430	1033	173	84.3
	静岡市立静岡病院	集計対象	1219	1036	95	92.8
	藤枝市立総合病院	集計対象	1155	834	103	81.1
	浜松医科大学医学部附属病院	集計対象	1434	785	414	83.6
	浜松医療センター	集計対象	1140	840	113	83.6

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2）	他施設 診断自 施設治 療（症 例区分 3）	自施設 治療 （症例 区分 2, 3） 登録割 合	
愛知	磐田市立総合病院	集計対象	1460	961	182	78.3	
	富士市立中央病院		927	510	97	65.5	
	愛知県がんセンター中央病院	集計対象	3053	1057	1517	84.3	
	安城更生病院	集計対象	1942	1464	239	87.7	
	海南病院	集計対象	1506	987	164	76.4	
	国立病院機構 名古屋医療センター	集計対象	1902	1267	231	78.8	
	小牧市民病院		1809	1442	192	90.3	
	豊橋市民病院	集計対象	2156	1531	294	84.6	
	名古屋大学医学部附属病院		2899	1542	810	81.1	
	一宮市立市民病院	集計対象	1441	1109	218	92.1	
	公立陶生病院	集計対象	1203	923	97	84.8	
	愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院	集計対象	1498	1162	176	89.3	
	名古屋市立大学病院		1686	1035	434	87.1	
	名古屋第一赤十字病院	集計対象	2238	1659	274	86.4	
	名古屋第二赤十字病院	集計対象	2363	1531	332	78.8	
	三重	藤田保健衛生大学病院	集計対象	2965	1546	900	82.5
		日本赤十字社 伊勢赤十字病院	集計対象	1717	1196	289	86.5
松阪中央総合病院			799	558	77	79.5	
三重大学医学部附属病院			2612	1253	526	68.1	
三重県厚生農業協同組合連合会鈴鹿中央総合病院			1156	879	112	85.7	
滋賀	市立長浜病院	集計対象	701	555	67	88.7	
	滋賀県立総合病院	集計対象	1447	859	266	77.7	
	大津赤十字病院		1460	1132	155	88.2	
	公立甲賀病院	集計対象	554	480	30	92.1	
	彦根市立病院	集計対象	709	536	42	81.5	
	滋賀医科大学医学部附属病院	集計対象	1540	942	398	87.0	
京都	京都桂病院		1422	1179	124	91.6	
	京都市立病院	集計対象	1484	944	148	73.6	
	京都第一赤十字病院	集計対象	1689	1285	213	88.7	
	京都第二赤十字病院	集計対象	1733	1278	211	85.9	
	独立行政法人国立病院機構 京都医療センター	集計対象	1932	1183	322	77.9	
	市立福知山市民病院	集計対象	790	498	99	75.6	
	京都岡本記念病院		568	345	17	63.7	
	大阪	大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター		2114	1432	326	83.2
市立岸和田市民病院		集計対象	1151	823	128	82.6	
地方独立行政法人市立東大阪医療センター		集計対象	1091	872	93	88.5	
市立豊中病院		集計対象	1976	1413	268	85.1	
大阪国際がんセンター		集計対象	3453	1504	1544	88.3	
地方独立行政法人大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター		集計対象	2943	1601	725	79.0	
大阪赤十字病院		集計対象	2428	1748	397	88.3	
独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター		集計対象	889	542	182	81.4	
独立行政法人労働者健康安全機構大阪労災病院		集計対象	1714	1228	294	88.8	
大阪医科大学附属病院		集計対象	2451	1339	692	82.9	
大阪市立大学医学部附属病院		集計対象	3505	1753	965	77.5	
国立病院機構大阪医療センター		集計対象	1532	975	371	87.9	
堺市立総合医療センター		集計対象	1358	872	171	76.8	
八尾市立病院		集計対象	849	660	154	95.9	
兵庫		兵庫県立がんセンター	集計対象	4144	1825	1286	75.1
		神戸大学医学部附属病院	集計対象	3468	1565	942	72.3
		神戸市立医療センター中央市民病院	集計対象	2750	1537	530	75.2

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区 分 2）	他施設 診断自 施設治 療（症 例区 分 3）	自施設 治療 （症 例 区 分 2, 3） 登録割 合
	独立行政法人労働者健康安全機構 関西労災病院	集計対象	2030	1202	374	77.6
	公立学校共済組合近畿中央病院	集計対象	880	636	109	84.7
	姫路赤十字病院	集計対象	1753	1166	404	89.6
	赤穂市民病院	集計対象	529	399	23	79.8
	公立豊岡病院組合立豊岡病院	集計対象	1055	803	137	89.1
	兵庫県立淡路医療センター	集計対象	834	588	106	83.2
	兵庫医科大学病院	集計対象	2537	1314	556	73.7
	兵庫県立柏原病院	集計対象	378	195	63	68.3
	神戸市立西神戸医療センター	集計対象	1506	996	238	81.9
奈良	奈良県立医科大学附属病院	集計対象	2604	1440	617	79.0
	奈良県総合医療センター	集計対象	1068	624	273	84.0
	天理よろづ相談所病院	集計対象	2303	1958	210	94.1
	近畿大学医学部奈良病院	集計対象	1399	846	261	79.1
	市立奈良病院	集計対象	851	559	96	77.0
	南和広域企業団南奈良総合医療センター	集計対象	210	138	27	78.6
和歌山	紀南病院	集計対象	704	449	108	79.1
	独立行政法人国立病院機構 南和歌山医療センター	集計対象	673	390	141	78.9
	日本赤十字社和歌山医療センター	集計対象	2004	1523	265	89.2
	和歌山県立医科大学附属病院	集計対象	2806	1433	923	84.0
	橋本市市民病院	集計対象	511	372	49	82.4
	公立那賀病院	集計対象	632	378	102	75.9
鳥取	鳥取県立厚生病院	集計対象	565	397	63	81.4
	独立行政法人国立病院機構 米子医療センター	集計対象	568	380	61	77.6
	鳥取県立中央病院	集計対象	887	753	58	91.4
	鳥取市立病院	集計対象	672	534	75	90.6
	鳥取大学医学部附属病院	集計対象	1712	1115	365	86.4
島根	松江市立病院	集計対象	813	563	103	81.9
	松江赤十字病院	集計対象	1273	984	138	88.1
	島根大学医学部附属病院	集計対象	1381	808	408	88.1
	島根県立中央病院	集計対象	1120	830	135	86.2
	独立行政法人国立病院機構 浜田医療センター	集計対象	668	521	62	87.3
岡山	岡山済生会総合病院	集計対象	1641	1024	281	79.5
	岡山赤十字病院	集計対象	1110	771	133	81.4
	岡山大学病院	集計対象	3092	1409	871	73.7
	公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院	集計対象	3299	2325	500	85.6
	津山中央病院	集計対象	1286	894	129	79.5
	岡山医療センター	集計対象	1089	791	169	88.2
	川崎医科大学附属病院	集計対象	1617	983	323	80.8
	金田病院	集計対象	147	55	(7-9)	42.2
広島	県立広島病院	集計対象	1653	1003	323	80.2
	地方独立行政法人 広島市立病院機構 広島市立広島市民病院	集計対象	3100	1879	794	86.2
	広島赤十字・原爆病院	集計対象	1376	1019	205	89.0
	独立行政法人国立病院機構 呉医療センター	集計対象	1687	1019	246	75.0
	東広島医療センター	集計対象	969	507	115	64.2
	福山市市民病院	集計対象	1729	1074	340	81.8
	市立三次中央病院	集計対象	712	512	87	84.1
山口	山口県立総合医療センター	集計対象	756	525	150	89.3
	国立病院機構 岩国医療センター	集計対象	1216	764	187	78.2
	山口県厚生農業協同組合連合会	集計対象	633	443	76	82.0
	独立行政法人地域医療機能推進機構徳山中央病院	集計対象	1433	968	235	83.9

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区 分 2）	他施設 診断自 施設治 療（症 例区 分 3）	自施設 治療 （症 例区 分 2, 3） 登録割 合	
徳島	山口大学医学部附属病院		1836	963	543	82.0	
	徳島県立中央病院	集計対象	1145	810	178	86.3	
	徳島大学病院	集計対象	1899	1073	442	79.8	
	徳島赤十字病院		1189	799	229	86.5	
香川	香川県立中央病院	集計対象	1432	896	310	84.2	
	独立行政法人労働者健康安全機構香川労災病院	集計対象	1323	934	201	85.8	
	三豊総合病院	集計対象	1057	728	98	78.1	
	高松赤十字病院	集計対象	1367	923	228	84.2	
愛媛	国立大学法人 香川大学医学部附属病院	集計対象	1572	836	413	79.5	
	市立宇和島病院	集計対象	1235	803	177	79.4	
	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター	集計対象	2939	1405	860	77.1	
	住友別子病院	集計対象	590	391	41	73.2	
	愛媛大学医学部附属病院	集計対象	1834	803	557	74.2	
	愛媛県立中央病院	集計対象	2205	1423	327	79.4	
	松山赤十字病院		1478	1099	142	84.0	
	社会福祉法人恩賜財団 済生会今治病院	集計対象	688	359	101	66.9	
高知	国立大学法人 高知大学医学部附属病院	集計対象	1688	1017	441	86.4	
	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センタ	集計対象	1506	863	489	89.8	
	高知県立幡多けんみん病院	集計対象	649	396	78	73.0	
	久留米大学病院	集計対象	2853	1387	722	73.9	
福岡	公立八女総合病院	集計対象	621	437	81	83.4	
	地方独立行政法人大牟田市立病院	集計対象	800	464	139	75.4	
	社会保険田川病院	集計対象	549	386	43	78.1	
	飯塚病院	集計対象	2208	1511	324	83.1	
	独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター	集計対象	719	501	73	79.8	
	北九州市立医療センター	集計対象	2247	1380	537	85.3	
	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター	集計対象	2640	1171	679	70.1	
	九州大学病院	集計対象	3917	1804	1064	73.2	
	独立行政法人国立病院機構九州医療センター	集計対象	2171	1196	485	77.4	
	福岡県済生会福岡総合病院	集計対象	1439	787	300	75.5	
	福岡大学病院	集計対象	1967	1041	547	80.7	
	聖マリア病院	集計対象	1225	837	103	76.7	
	独立行政法人地域医療機能推進機構 九州病院	集計対象	2161	1422	403	84.5	
	産業医科大学病院	集計対象	1901	1101	478	83.1	
	佐賀	地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館	集計対象	1375	753	269	74.3
		国立大学法人 佐賀大学医学部附属病院		1943	865	625	76.7
唐津赤十字病院		集計対象	761	488	86	75.4	
独立行政法人国立病院機構 嬉野医療センター		集計対象	901	539	163	77.9	
長崎	日本赤十字社 長崎原爆病院	集計対象	1097	801	187	90.1	
	地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター		1825	1198	353	85.0	
	独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター		1655	1099	327	86.2	
	地方独立行政法人長崎市立病院機構 長崎みなとメディカルセンター		972	571	108	69.9	
	長崎大学病院		2537	1339	785	83.7	
	長崎県島原病院	集計対象	683	487	126	89.8	
熊本	熊本大学医学部附属病院	集計対象	2910	1537	795	80.1	
	独立行政法人労働者健康安全機構 熊本労災病院	集計対象	585	366	86	77.3	
	人吉医療センター	集計対象	693	410	86	71.6	
	熊本赤十字病院		1785	1141	361	84.1	
	国立病院機構 熊本医療センター	集計対象	1583	846	327	74.1	
	済生会熊本病院	集計対象	1741	1078	368	83.1	
	荒尾市民病院	集計対象	383	258	71	85.9	
	大分	大分県立病院	集計対象	1296	854	267	86.5

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2）	他施設 診断自 施設治 療（症 例区分 3）	自施設 治療 （症例 区分 2, 3） 登録割 合
	大分赤十字病院	集計対象	838	470	178	77.3
	大分大学医学部附属病院	集計対象	1552	733	458	76.7
	独立行政法人国立病院機構 別府医療センター		832	576	166	89.2
	大分県済生会日田病院	集計対象	370	197	50	66.8
	中津市立中津市民病院	集計対象	688	427	148	83.6
宮崎	宮崎県立宮崎病院	集計対象	1003	640	178	81.6
	国立病院機構 都城医療センター	集計対象	736	454	154	82.6
	国立大学法人宮崎大学医学部附属病院	集計対象	1707	836	423	73.8
鹿児島	鹿児島大学病院		2172	869	744	74.3
	国立病院機構 鹿児島医療センター		699	357	178	76.5
	鹿児島県立薩南病院	集計対象	192	109	48	81.8
	独立行政法人国立病院機構 南九州病院	集計対象	427	213	70	66.3
	県民健康プラザ 鹿屋医療センター		467	188	121	66.2
	公益社団法人昭和会 今給黎総合病院	集計対象	878	407	228	72.3
	出水郡医師会広域医療センター	集計対象	347	214	40	73.2
	社会医療法人 博愛会 相良病院	集計対象	965	187	533	74.6
沖縄	地方独立行政法人那覇市立病院	集計対象	917	517	161	73.9
	北部地区医師会病院		253	164	28	75.9
	沖縄県立中部病院	集計対象	1012	592	156	73.9
	国立大学法人 琉球大学医学部附属病院	集計対象	1342	554	463	75.8
	沖縄県立宮古病院		221	116	23	62.9
	沖縄県立八重山病院	集計対象	149	73	14	58.4

表 2-2-2 都道府県推薦病院調査参加 63 施設的全登録数及び症例区分 2, 3 の登録数

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設診断自 施設治療（症 例区分 2）	他施設診断自 施設治療（症 例区分 3）	自施設治療（症 例区分 2, 3）登 録割合	
総数			36	51,307	34,702	7,189	81.6
北海道	斗南病院			953	547	270	85.7
	社会医療法人北楡会 札幌北楡病院			371	237	101	91.1
	市立室蘭総合病院			509	375	33	80.2
	社会医療法人製鉄記念室蘭病院	集計対象		632	556	33	93.2
	苫小牧市立病院			626	516	(4-6)	83.1
	旭川赤十字病院			835	740	60	95.8
	J A 北海道厚生連遠軽厚生病院	集計対象		340	229	14	71.5
宮城	一般財団法人厚生会 仙台厚生病院			1672	1111	336	86.5
秋田	中通総合病院	集計対象		516	339	80	81.2
秋田	市立秋田総合病院	集計対象		927	707	136	90.9
茨城	水戸赤十字病院			1282	982	128	86.6
	独立行政法人国立病院機構茨城東病院	集計対象		169	138	(4-6)	84.6
群馬	群馬大学医学部附属病院	集計対象		3908	1721	1118	72.6
	公立館林厚生病院	集計対象		517	388	72	89.0
	群馬県済生会前橋病院	集計対象		647	335	137	73.0
埼玉	埼玉石心会病院			968	557	68	64.6
	秀和総合病院			441	361	32	89.1
東京	日本医科大学多摩永山病院	集計対象		859	543	148	80.4
	国家公務員共済組合連合会 立川病院			1385	767	176	68.1
	社会福祉法人 三井記念病院			1626	865	197	65.3
富山	富山赤十字病院			877	675	77	85.7
石川	社会医療法人財団董仙会恵寿総合病院	集計対象		405	289	25	77.5
	独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院	集計対象		283	199	22	78.1
	公立松任石川中央病院			499	449	40	98.0
	石川県済生会金沢病院			461	199	42	52.3
長野	JA 長野厚生連 北アルプス医療センター あづみ病院	集計対象		257	167	(1-3)	66.1
岐阜	松波総合病院	集計対象		884	755	51	91.2
静岡	国立病院機構 静岡医療センター			605	330	47	62.3
	市立島田市民病院			912	753	68	90.0
愛知	春日井市民病院			1276	975	116	85.5
	医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院			1665	1254	171	85.6
	愛知医科大学病院			1727	1143	318	84.6
三重	市立四日市病院			1802	1190	326	84.1
	松阪市民病院	集計対象		584	439	66	86.5
滋賀	社会医療法人 誠光会 草津総合病院	集計対象		686	365	90	66.3
	近江八幡市立総合医療センター	集計対象		659	497	84	88.2
京都	三菱京都（病院）	集計対象		569	389	70	80.7
	社会福祉法人 恩賜財団 済生会京都府病院			331	263	14	83.7
大阪	地方独立行政法人 市立吹田市民病院	集計対象		629	532	69	95.5
	箕面市立病院	集計対象		884	688	79	86.8
	panasonic 健康保険組合 松下記念病院			822	644	54	84.9
	医療法人徳洲会 八尾徳洲会総合病院	集計対象		884	632	57	77.9
	ベルランド総合病院	集計対象		1282	981	110	85.1
	社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会野江病院	集計対象		923	682	95	84.2
	独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院	集計対象		767	611	122	95.6
	大阪警察病院	集計対象		1775	1166	423	89.5
和歌山	和歌山労災病院			759	538	123	87.1
鳥取	鳥取生協病院			258	99	21	46.5
	鳥取赤十字病院			661	522	53	87.0
島根	松江医療センター	集計対象		104	88	(1-3)	85.6
岡山	一般財団法人 倉敷成人病センター	集計対象		626	460	87	87.4
山口	独立行政法人国立病院機構山口宇部医療センター	集計対象		367	352	0	95.9
福岡	戸畑共立病院			804	315	176	61.1

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設診断自施設治療（症例区分2）	他施設診断自施設治療（症例区分3）	自施設治療（症例区分2、3）登録割合
長崎	独立行政法人地域医療機能推進機構 早総合病院	集計対象	967	648	145	82.0
熊本	国家公務員共済組合連合会 熊本中央病院	集計対象	967	633	156	81.6
	大腸肛門病センター高野病院	集計対象	221	159	34	87.3
	天草地域医療センター	集計対象	338	240	53	86.7
大分	独立行政法人国立病院機構大分医療センター	集計対象	557	343	104	80.3
鹿児島	社会医療法人鹿児島愛心会 大隅鹿屋病院		263	148	47	74.1
	鹿児島市医師会病院	集計対象	481	250	183	90.0
沖縄	社会医療法人敬愛会 中頭病院		976	794	52	86.7
	社会医療法人仁愛会 浦添総合病院	集計対象	633	343	129	74.6
	沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院	集計対象	180	152	(4-6)	87.8
	社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院	集計対象	514	337	32	71.8

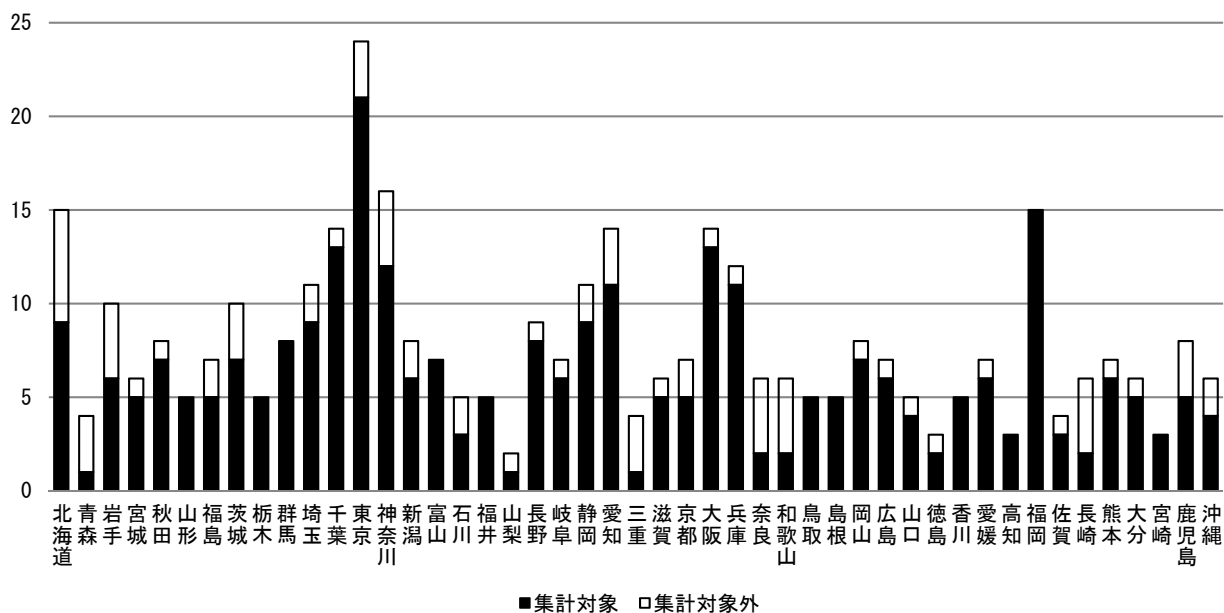


図 2-1 がん診療連携拠点病院等における都道府県・施設別生存状況把握割合（都道府県推薦病院を除く）

Ⅲ 2013年3年生存率集計 結果詳細(全体) :悪性新生物<腫瘍>

1. 全がん

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2013	330	373,522	120,316	7,838	97.9

(0) 全がんの生存率集計値

全がんでの生存率集計値の算定に当たり、特性が異なるがんの生存率算定の意義について疑問を呈する声もあったが、先行する地域がん登録、全国がんセンター協議会加盟施設における既存生存率集計と比較するため、ここでは院内がん登録3年生存率集計においても全がんでの生存率集計結果について提示する。

(1) 生存状況把握割合

対象者は373,522例で、その内3年以内に死亡していた者は120,316例、打ち切りが7,838例であった。全体として、生存状況把握割合は97.9%であった。

(2) 対象者の属性

本集計対象者の属性を表3-1-1に示す。男性が57.8%、女性が42.2%とやや男性が多かった。診断時の年齢は、男女とも70歳代が最も多く、次いで60歳代となっており、60歳代、70歳代で全体の60.5%を占めた。60.7%の対象者に観血的治療が実施されており、53.9%が原発巣・治癒切除であった。発見経緯別にみると、その他・不明が半数以上であった。部位別にみると、男性では胃、肺、前立腺、大腸の順に、女性では乳房、大腸、胃の順に多かった。

表 3-1-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	216,058	100.0	157,464	100.0	373,522	100.0
拠点病院等	204,667	94.7	149,747	95.1	354,414	94.9
都道府県推薦病院	11,391	5.3	7,717	4.9	19,108	5.1
年齢						
平均年齢(SD)	69.3	(SD:11.7)	65.8	(SD:15.0)	67.8	(SD:13.3)
0-15歳	655	0.3	544	0.3	1,199	0.3
15-39歳	4,003	1.9	7,731	4.9	11,734	3.1
40歳代	7,133	3.3	16,310	10.4	23,443	6.3
50歳代	21,304	9.9	22,587	14.3	43,891	11.8
60歳代	65,953	30.5	39,277	24.9	105,230	28.2
70歳代	78,948	36.5	41,683	26.5	120,631	32.3
80歳以上	38,062	17.6	29,332	18.6	67,394	18.0
観血的治療						
有	118,267	54.7	108,300	68.8	226,567	60.7
原発巣・治癒切除	104,702	48.5	96,508	61.3	201,210	53.9
原発巣・非治癒切除	10,361	4.8	8,646	5.5	19,007	5.1
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	3,204	1.5	3,146	2.0	6,350	1.7
無	97,791	45.3	49,164	31.2	146,955	39.3
発見経緯						
がん検診	15,056	7.0	13,991	8.9	29,047	7.8
健康診断・人間ドック	19,875	9.2	10,251	6.5	30,126	8.1
他疾患経過観察中	71,575	33.1	38,919	24.7	110,494	29.6
その他・不明	109,552	50.7	94,303	59.9	203,855	54.6
部位						
口腔咽頭	7,715	3.6	3,049	1.9	10,764	2.9
食道	10,409	4.8	1,773	1.1	12,182	3.3
胃	37,451	17.3	16,000	10.2	53,451	14.3
結腸	16,036	7.4	13,672	8.7	29,708	8.0
直腸	10,963	5.1	5,991	3.8	16,954	4.5
大腸(再掲)	26,999	12.5	19,663	12.5	46,662	12.5
肝臓	10,504	4.9	4,597	2.9	15,101	4.0
胆嚢胆管	4,289	2.0	3,542	2.2	7,831	2.1
膵臓	7,171	3.3	5,734	3.6	12,905	3.5
喉頭	2,870	1.3	194	0.1	3,064	0.8
肺	32,597	15.1	14,858	9.4	47,455	12.7
骨軟部	1,184	0.5	918	0.6	2,102	0.6
皮膚	5,085	2.4	4,868	3.1	9,953	2.7
乳房	200	0.1	32,897	20.9	33,097	8.9
子宮頸部	-		5,991	3.8	5,991	1.6
子宮体部	-		7,545	4.8	7,545	2.0
子宮	-		15	0.0	15	0.0
卵巣	-		4,784	3.0	4,784	1.3
前立腺	29,755	13.8	-		29,755	8.0
膀胱	5,490	2.5	1,637	1.0	7,127	1.9
腎尿路	7,642	3.5	3,409	2.2	11,051	3.0
脳神経	3,908	1.8	5,368	3.4	9,276	2.5
甲状腺	1,771	0.8	4,881	3.1	6,652	1.8
悪性リンパ腫	7,483	3.5	6,333	4.0	13,816	3.7
多発性骨髄腫	1,568	0.7	1,305	0.8	2,873	0.8
白血病	3,068	1.4	2,085	1.3	5,153	1.4
その他の血液	2,893	1.3	1,701	1.1	4,594	1.2
その他	6,006	2.8	4,317	2.7	10,323	2.8

参考 対象者の属性(がん診療連携拠点病院等)

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	204,667	100.0	149,747	100.0	354,414	100.0
年齢						
平均年齢(SD)	69.2	(SD:11.7)	65.7	(SD:15.0)	67.7	(SD:13.3)
0-15歳	641	0.3	536	0.4	1,177	0.3
15-39歳	3,850	1.9	7,416	5.0	11,266	3.2
40歳代	6,831	3.3	15,626	10.4	22,457	6.3
50歳代	20,264	9.9	21,577	14.4	41,841	11.8
60歳代	62,676	30.6	37,409	25.0	100,085	28.2
70歳代	74,690	36.5	39,650	26.5	114,340	32.3
80歳以上	35,715	17.5	27,533	18.4	63,248	17.8
観血的治療						
有	111,915	54.7	102,913	68.7	214,828	60.6
原発巣・治癒切除	98,994	48.4	91,632	61.2	190,626	53.8
原発巣・非治癒切除	9,786	4.8	8,195	5.5	17,981	5.1
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	3,135	1.5	3,086	2.1	6,221	1.8
無	92,752	45.3	46,834	31.3	139,586	39.4
発見経緯						
がん検診	14,285	7.0	13,385	8.9	27,670	7.8
健康診断・人間ドック	18,887	9.2	9,727	6.5	28,614	8.1
他疾患経過観察中	67,852	33.2	37,029	24.7	104,881	29.6
その他・不明	103,643	50.6	89,606	59.8	193,249	54.5
部位						
口腔咽頭	7,520	3.7	2,966	2.0	10,486	3.0
食道	10,086	4.9	1,713	1.1	11,799	3.3
胃	35,444	17.3	15,146	10.1	50,590	14.3
結腸	14,948	7.3	12,771	8.5	27,719	7.8
直腸	10,273	5.0	5,630	3.8	15,903	4.5
大腸(再掲)	25,221	12.3	18,401	12.3	43,622	12.3
肝臓	9,980	4.9	4,350	2.9	14,330	4.0
胆嚢胆管	4,037	2.0	3,306	2.2	7,343	2.1
膵臓	6,798	3.3	5,460	3.6	12,258	3.5
喉頭	2,805	1.4	191	0.1	2,996	0.8
肺	30,584	14.9	13,961	9.3	44,545	12.6
骨軟部	1,146	0.6	884	0.6	2,030	0.6
皮膚	4,882	2.4	4,675	3.1	9,557	2.7
乳房	191	0.1	31,331	20.9	31,522	8.9
子宮頸部	-		5,760	3.8	5,760	1.6
子宮体部	-		7,275	4.9	7,275	2.1
子宮	-		15	0.0	15	0.0
卵巣	-		4,595	3.1	4,595	1.3
前立腺	27,866	13.6	-		27,866	7.9
膀胱	5,106	2.5	1,512	1.0	6,618	1.9
腎尿路	7,263	3.5	3,247	2.2	10,510	3.0
脳神経	3,789	1.9	5,210	3.5	8,999	2.5
甲状腺	1,676	0.8	4,595	3.1	6,271	1.8
悪性リンパ腫	7,273	3.6	6,097	4.1	13,370	3.8
多発性骨髄腫	1,529	0.7	1,271	0.8	2,800	0.8
白血病	2,954	1.4	1,986	1.3	4,940	1.4
その他の血液	2,792	1.4	1,640	1.1	4,432	1.3
その他	5,725	2.8	4,160	2.8	9,885	2.8

参考 対象者の属性(都道府県推薦病院)

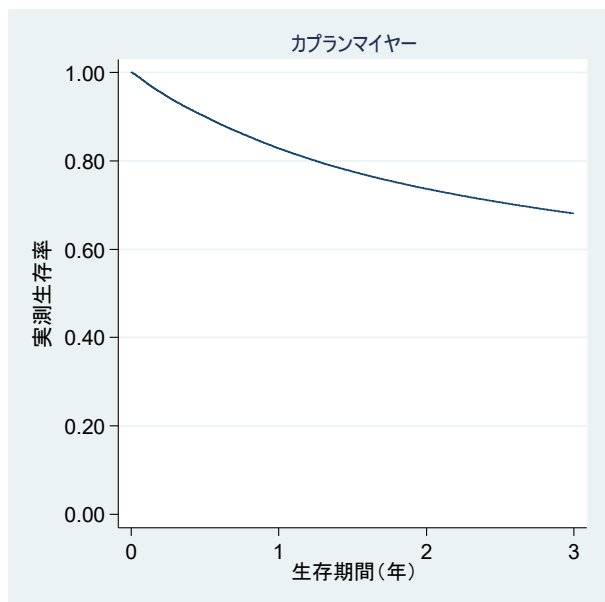
	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	11,391	100.0	7,717	100.0	19,108	100.0
年齢						
平均年齢	70.5	(SD:11.1)	67.7	(SD:14.7)	69.4	(SD:12.7)
0-15歳	14	0.1	(7-9)		22	0.1
15-39歳	153	1.3	315	4.1	468	2.4
40歳代	302	2.7	684	8.9	986	5.2
50歳代	1,040	9.1	1,010	13.1	2,050	10.7
60歳代	3,277	28.8	1,868	24.2	5,145	26.9
70歳代	4,258	37.4	2,033	26.3	6,291	32.9
80歳以上	2,347	20.6	1,799	23.3	4,146	21.7
観血的治療						
有	6,352	55.8	5,387	69.8	11,739	61.4
原発巣・治癒切除	5,708	50.1	4,876	63.2	10,584	55.4
原発巣・非治癒切除	575	5.0	451	5.8	1,026	5.4
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	69	0.6	60	0.8	129	0.7
無	5,039	44.2	2,330	30.2	7,369	38.6
発見経緯						
がん検診	771	6.8	606	7.9	1,377	7.2
健康診断・人間ドック	988	8.7	524	6.8	1,512	7.9
他疾患経過観察中	3,723	32.7	1,890	24.5	5,613	29.4
その他・不明	5,909	51.9	4,697	60.9	10,606	55.5
部位						
口腔咽頭	195	1.7	83	1.1	278	1.5
食道	323	2.8	60	0.8	383	2.0
胃	2,007	17.6	854	11.1	2,861	15.0
結腸	1,088	9.6	901	11.7	1,989	10.4
直腸	690	6.1	361	4.7	1,051	5.5
大腸(再掲)	1,778	15.6	1,262	16.4	3,040	15.9
肝臓	524	4.6	247	3.2	771	4.0
胆嚢胆管	252	2.2	236	3.1	488	2.6
膵臓	373	3.3	274	3.6	647	3.4
喉頭	65	0.6	(1-3)		68	0.4
肺	2,013	17.7	897	11.6	2,910	15.2
骨軟部	38	0.3	34	0.4	72	0.4
皮膚	203	1.8	193	2.5	396	2.1
乳房	(7-9)		1,566	20.3	1,575	8.2
子宮頸部	-		231	3.0	231	1.2
子宮体部	-		270	3.5	270	1.4
子宮	-			0.0	0	0.0
卵巣	-		189	2.4	189	1.0
前立腺	1,889	16.6	-		1,889	9.9
膀胱	384	3.4	125	1.6	509	2.7
腎尿路	379	3.3	162	2.1	541	2.8
脳神経	119	1.0	158	2.0	277	1.4
甲状腺	95	0.8	286	3.7	381	2.0
悪性リンパ腫	210	1.8	236	3.1	446	2.3
多発性骨髄腫	39	0.3	34	0.4	73	0.4
白血病	114	1.0	99	1.3	213	1.1
その他の血液	101	0.9	61	0.8	162	0.8
その他	281	2.5	157	2.0	438	2.3

(3)3年生存率

表 3-1-2 に、実測生存率及び相対生存率を示す。年齢が高いほど実測生存率と相対生存率との乖離が大きくなっているが、これは若年者と比較して高齢者ではがん以外の要因で死亡する例が多くなることが影響していると考えられる。観血的治療の実施別にみると、男女ともに観血的治療有、特に原発巣・治癒切除例において生存率が高くなっていた。

表 3-1-2 属性別3年生存率

	生存率											
	男性			女性			全体					
	実測	相対	95%信頼区間	実測	相対	95%信頼区間	実測	相対	95%信頼区間			
全体	63.3	69.2	69.0	69.5	73.2	76.6	76.4	76.8	67.5	72.4	72.2	72.6
拠点病院等	63.3	69.3	69.0	69.5	73.3	76.7	76.4	76.9	67.5	72.4	72.3	72.6
都道府県推薦病院	62.5	69.0	68.0	69.9	71.2	75.1	74.0	76.2	66.0	71.5	70.7	72.2
年齢												
0-15歳	85.6	85.6	82.6	88.1	86.8	86.8	83.7	89.4	86.1	76.2	84.1	88.0
15-39歳	82.7	82.9	81.6	84.0	89.3	89.4	88.7	90.1	87.1	87.2	86.6	87.8
40歳代	76.6	77.0	76.0	78.0	89.1	89.4	88.9	89.9	85.3	85.7	85.2	86.1
50歳代	71.8	73.0	72.3	73.6	83.9	84.5	84.0	85.0	78.1	78.9	78.6	79.3
60歳代	68.4	71.1	70.7	71.5	77.9	79.1	78.7	79.5	71.9	74.1	73.8	74.4
70歳代	63.1	69.2	68.9	69.6	69.6	72.6	72.1	73.1	65.3	70.4	70.1	70.7
80歳以上	45.0	59.8	59.2	60.5	50.5	60.8	60.1	61.5	47.4	60.3	59.8	60.7
観血的治療												
有	80.0	86.9	86.6	87.1	87.6	91.2	91.0	91.4	83.6	89.0	88.8	89.1
原発巣・治癒切除	82.9	90.1	89.8	90.3	90.3	94.0	93.8	94.2	86.5	92.0	91.8	92.1
原発巣・非治癒切除	54.2	58.6	57.5	59.6	60.8	63.1	62.1	64.2	57.2	60.7	59.9	61.4
原発巣・治癒/非治癒	68.1	74.2	72.4	75.9	78.5	81.5	79.9	82.9	73.2	77.9	76.7	79.0
の別不詳												
無	43.0	47.6	47.3	48.0	41.2	43.9	43.4	44.3	42.4	46.3	46.1	46.6



2. 胃(C16)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2013	329	53,451	15,828	1,098	97.9

(1) 生存状況把握割合

集計対象者は、53,451例で、3年以内に死亡していた者は15,828例、打ち切りが1,098例で、生存状況把握割合は、全体で97.9%であった。

70歳代が最も多く、次いで60歳代となっており、60歳代・70歳代で全体の約6割以上を占めた。UICC TNM分類総合ステージを見ると、I期が約6割、次いでIV期が15.7%を占めた。80.7%において観血的治療が実施されており、75.2%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯としては、他疾患経過観察中が32.9%であった。

(2) 対象者の属性

胃の集計対象者の属性を表3-2-1に示す。性別にみると、男性が7割以上を占めた。診断時の年齢は、

表3-2-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	37,451	100.0	16,000	100.0	53,451	100.0
拠点病院等	35,444	94.6	15,146	94.7	50,590	94.6
都道府県推薦病院	2,007	5.4	854	5.3	2,861	5.4
年齢						
平均年齢 (SD)	70.5	(SD:10.0)	70.7	(SD:12.1)	70.6	(SD:10.7)
0-15歳	(1-3)		(1-3)		(1-3)	
15-39歳	259	0.7	325	2.0	584	1.1
40歳代	896	2.4	683	4.3	1,579	3.0
50歳代	3,403	9.1	1,503	9.4	4,906	9.2
60歳代	11,319	30.2	3,962	24.8	15,281	28.6
70歳代	14,658	39.1	5,579	34.9	20,237	37.9
80歳以上	6,915	18.5	3,947	24.7	10,862	20.3
UICC TNM分類総合ステージ*						
I期	23,413	62.5	9,276	58.0	32,689	61.2
II期	3,228	8.6	1,517	9.5	4,745	8.9
III期	3,690	9.9	1,643	10.3	5,333	10.0
IV期	5,836	15.6	2,549	15.9	8,385	15.7
不詳	447	1.2	265	1.7	712	1.3
空欄	837	2.2	750	4.7	1,587	3.0
観血的治療						
有	30,290	80.9	12,847	80.3	43,137	80.7
原発巣・治癒切除	28,260	75.5	11,910	74.4	40,170	75.2
原発巣・非治癒切除	1,697	4.5	772	4.8	2,469	4.6
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	333	0.9	165	1.0	498	0.9
無	7,161	19.1	3,153	19.7	10,314	19.3
発見経緯						
がん検診	3,777	10.1	1,515	9.5	5,292	9.9
健康診断・人間ドック	4,908	13.1	1,622	10.1	6,530	12.2
他疾患経過観察中	12,859	34.3	4,706	29.4	17,565	32.9
その他・不明	15,907	42.5	8,157	51.0	24,064	45.0

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

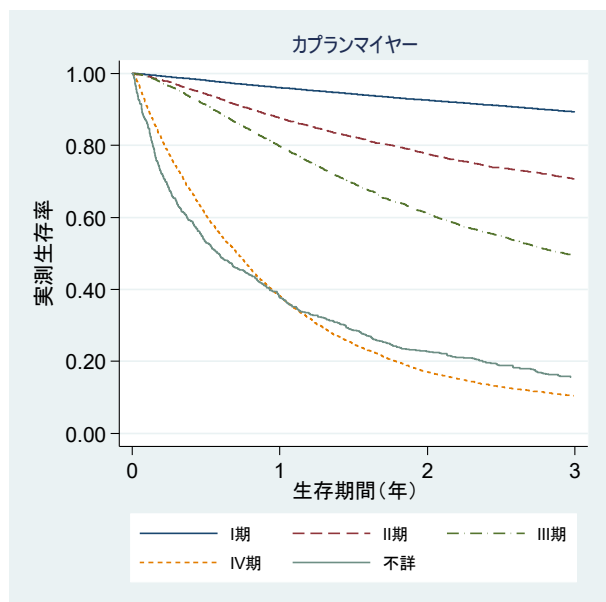
(3)3年生存率

男女別にみた3年相対生存率はほぼ同様であった。年代別にみると、80歳以上では相対生存率と実測生存率の差が広がる傾向があった。また、観血治療を受けた者では、相対生存率は全体で90%以上であった。

表 3-2-2 属性別3年生存率

	男性			女性			全体		
	実測	相対	95%信頼区間	実測	相対	95%信頼区間	実測	相対	95%信頼区間
全体	69.3	76.3	75.7 76.8	72.0	76.2	75.5 76.9	70.1	76.3	75.8 76.7
拠点病院等	69.4	76.3	75.8 76.9	72.2	76.4	75.7 77.2	70.2	76.4	75.9 76.8
都道府県推薦病院	67.6	74.9	72.6 77.1	67.5	72.3	68.8 75.6	67.6	74.1	72.2 76.0
年齢									
15-39歳	69.8	70.0	64.0 75.3	65.7	65.8	60.3 70.8	67.6	67.7	63.7 71.4
40歳代	81.1	81.6	78.8 84.0	75.5	75.7	72.3 78.8	78.7	79.0	76.9 81.0
50歳代	77.6	78.9	77.4 80.3	79.6	80.2	78.0 82.1	78.2	79.3	78.1 80.4
60歳代	75.0	77.9	77.1 78.7	77.9	79.1	77.8 80.4	75.7	78.2	77.5 78.9
70歳代	69.7	76.6	75.8 77.5	75.2	78.6	77.4 79.8	71.2	77.2	76.5 77.9
80歳以上	53.5	70.6	69.1 72.2	58.3	69.0	67.1 70.8	55.2	70.0	68.8 71.2
UICC TNM 総合ステージ*									
I期	87.7	96.7	96.2 97.2	92.6	98.1	97.5 98.6	89.1	97.1	96.7 97.5
II期	69.2	76.3	74.5 78.1	72.1	76.4	74.0 78.8	70.1	76.4	74.9 77.8
III期	48.8	53.3	51.5 55.1	50.2	52.9	50.3 55.4	49.2	53.2	51.7 54.6
IV期	9.7	10.5	9.7 11.4	10.0	10.4	9.2 11.7	9.8	10.5	9.8 11.2
不詳	16.0	19.3	15.3 23.6	14.7	17.9	13.0 23.5	15.5	18.7	15.6 22.1
観血的治療									
有	82.7	90.7	90.2 91.2	86.2	90.9	90.3 91.5	83.8	90.8	90.4 91.1
原発巣・治癒切除	85.3	93.5	93.0 93.9	89.5	94.2	93.6 94.8	86.6	93.7	93.3 94.1
原発巣・非治癒切除	42.6	47.6	44.9 50.2	40.7	43.4	39.6 47.1	42.0	46.2	44.1 48.4
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	64.0	70.8	64.8 76.2	66.7	70.4	62.1 77.4	64.9	70.7	65.9 75.1
無	12.2	13.9	13.0 14.8	13.0	14.2	13.0 15.6	12.5	14.0	13.3 14.7

*癌腫のみ対象



3. 大腸(C18-20)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2013	329	46,662	12,528	901	98.1

(1) 生存状況把握割合

集計対象 46,662 例のうち、3 年以内に死亡していた者は 12,528 例、打ち切りが 901 例で、全体として生存状況把握割合は 98.1%であった。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-3-1 に示す。性別にみると、女性より男性がやや多く男性が約 58%を占めた。診断時の年齢は、男女ともに 70 歳代が最も多く、次いで 60 歳代が

多くなっていた。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、全体では I、II、III 期ともに 25%前後にばらついていた。9 割近くの対象者がなんらかの観血的治療を受けており、78.2%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯としては、他疾患経過観察中が 23.7%、がん検診が 10.5%、健康診断・人間ドックが 8.2%であった。結腸、直腸別にみると、結腸が約 6 割を占めた。男女別にみると、男性より女性では結腸の割合が多かった。

表 3-3-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	26,999	100.0	19,663	100.0	46,662	100.0
拠点病院等	25,221	93.4	18,401	93.6	43,622	93.5
都道府県推薦病院	1,778	6.6	1,262	6.4	3,040	6.5
年齢						
平均年齢 (SD)	68.8	(SD:11.2)	70.1	(SD:12.6)	69.3	(SD:11.9)
0-14 歳	(1-3)		(1-3)			
15-39 歳	417	1.5	359	1.8	776	1.7
40 歳代	1,144	4.2	1,023	5.2	2,167	4.6
50 歳代	3,247	12.0	2,242	11.4	5,489	11.8
60 歳代	8,413	31.2	5,024	25.6	13,437	28.8
70 歳代	9,222	34.2	6,168	31.4	15,390	33.0
80 歳以上	4,554	16.9	4,846	24.6	9,400	20.1
UICC TNM 分類総合ステージ*						
I 期	7,407	27.4	4,585	23.3	11,992	25.7
II 期	6,741	25.0	5,182	26.4	11,923	25.6
III 期	6,663	24.7	5,433	27.6	12,096	25.9
IV 期	5,253	19.5	3,791	19.3	9,044	19.4
不詳	332	1.2	285	1.4	617	1.3
空欄	603	2.2	387	2.0	990	2.1
観血的治療						
有	23,380	86.6	17,171	87.3	40,551	86.9
原発巣・治癒切除	21,066	78.0	15,435	78.5	36,501	78.2
原発巣・非治癒切除	1,995	7.4	1,496	7.6	3,491	7.5
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	319	1.2	240	1.2	559	1.2
無	3,619	13.4	2,492	12.7	6,111	13.1
発見経緯						
がん検診	2,743	10.2	2,139	10.9	4,882	10.5
健康診断・人間ドック	2,415	8.9	1,407	7.2	3,822	8.2
他疾患経過観察中	6,791	25.2	4,251	21.6	11,042	23.7
その他・不明	15,050	55.7	11,866	60.3	26,916	57.7
部位						
結腸	16,036	59.4	13,672	69.5	29,708	63.7
直腸	10,963	40.6	5,991	30.5	16,954	36.3

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

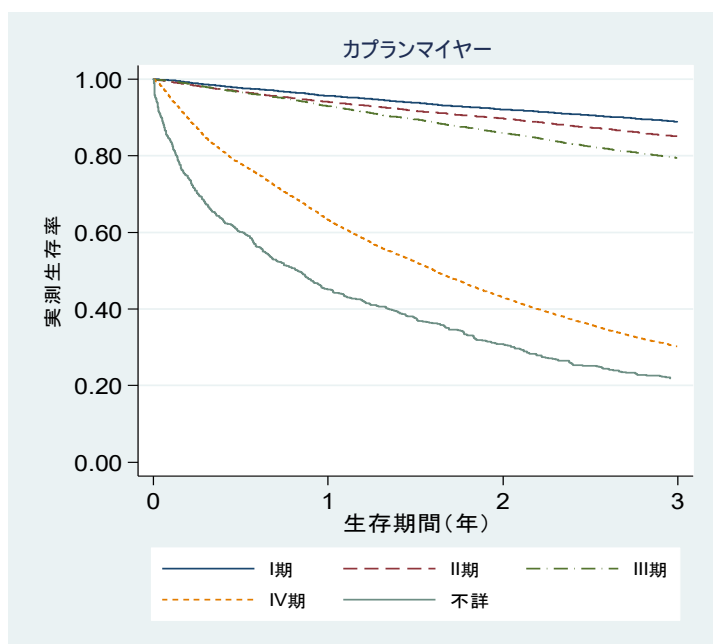
(3)3年生存率

3年生存率を表3-3-2に示す。3年相対生存率は、男女ともほぼ同様であり全体では約79%であった。他の部位と同様、年代が高くなるほど、実測生存率と相対生存率の差が大きくなるが、これは高齢者ほど他疾患で亡くなる例が少なくないためと考えられる。UICC TNM 分類総合ステージ別に相対生存率をみると、I期では約96%、II期では約93%であった。観血的治療を受けたものは、相対生存率は87.5%であり、原発巣・治癒切除例においては91.8%であった。

表 3-3-2 属性別 3年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	71.9	78.5	77.9	79.1	74.2	78.7	78.1	79.4	72.9	78.6	78.2	79.0
拠点病院等	71.8	78.4	77.8	79.0	74.1	78.6	77.9	79.3	72.8	78.5	78.0	78.9
都道府県推薦病院	73.2	80.3	78.0	82.5	75.3	80.4	77.7	82.9	74.1	80.4	78.6	82.0
年齢												
15-39歳	77.6	77.8	73.3	81.6	81.0	81.1	76.5	84.9	79.1	79.3	76.2	82.1
40歳代	83.1	83.6	81.3	85.7	83.2	83.5	81.0	85.7	83.2	83.6	81.9	85.1
50歳代	80.8	82.1	80.6	83.4	82.2	82.8	81.1	84.3	81.4	82.4	81.3	83.4
60歳代	77.5	80.5	79.5	81.4	81.4	82.6	81.5	83.7	78.9	81.3	80.6	82.0
70歳代	71.4	78.3	77.3	79.3	76.8	80.1	79.0	81.2	73.5	79.1	78.3	79.8
80歳以上	53.1	70.7	68.7	72.6	57.3	69.2	67.4	70.8	55.3	69.9	68.6	71.2
UICC TNM 総合ステージ*												
I期	86.3	94.3	93.4	95.1	92.3	97.3	96.4	98.1	88.6	95.5	94.8	96.1
II期	83.0	91.8	90.8	92.8	87.0	93.5	92.5	94.5	84.7	92.5	91.8	93.2
III期	78.0	84.7	83.6	85.8	80.3	85.0	83.8	86.1	79.0	84.8	84.0	85.6
IV期	30.6	32.9	31.5	34.2	27.7	29.0	27.5	30.6	29.4	31.3	30.3	32.3
不詳	20.0	23.0	18.2	28.2	21.8	25.3	19.9	31.3	20.8	24.1	20.4	28.0
観血的治療												
有	80.2	87.4	86.9	88.0	82.8	87.5	86.9	88.1	81.3	87.5	87.2	87.9
原発巣・治癒切除	84.1	91.7	91.1	92.2	86.9	92.0	91.4	92.5	85.3	91.8	91.4	92.2
原発巣・非治癒切除	40.7	44.0	41.6	46.3	42.5	44.7	42.0	47.3	41.5	44.3	42.5	46.0
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	71.5	77.7	71.9	82.8	65.3	69.4	62.5	75.5	68.9	74.1	69.8	78.1
無	17.8	19.7	18.3	21.1	14.8	16.2	14.7	17.8	16.6	18.3	17.2	19.3

*癌腫のみ対象



以降、結腸(C18)と直腸(C19)別での結果を示す。

結腸(C18)

(1) 生存状況把握割合

対象数は、29,708 例、うち死亡数が 8,356 例、打ち切り数が 550 例で生存状況把握割合は 98.1%であった。

(2) 対象者の属性

男性が約 54%、女性が約 46%を占め、平均年齢は、70.7 歳であった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、I～III 期が約 25%前後であった。約 88%になんらかの観血的治療が実施されていた。

表 3-3-1 結腸 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	16,036	100.0	13,672	100.0	29,708	100.0
拠点病院等	14,948	93.2	12,771	93.4	27,719	93.3
都道府県推薦病院	1,088	6.8	901	6.6	1,989	6.7
年齢						
平均年齢 (SD)	70.2	(SD:11.0)	71.3	(SD:12.3)	70.7	(SD:11.6)
0-14 歳	(1-3)		(1-3)		(1-3)	
15-39 歳	210	1.3	205	1.5	415	1.4
40 歳代	519	3.2	575	4.2	1,094	3.7
50 歳代	1,569	9.8	1,333	9.7	2,902	9.8
60 歳代	4,606	28.7	3,338	24.4	7,944	26.7
70 歳代	5,905	36.8	4,440	32.5	10,345	34.8
80 歳以上	3,226	20.1	3,780	27.6	7,006	23.6
UICC TNM 分類総合ステージ*						
I 期	4,607	28.7	3,063	22.4	7,670	25.8
II 期	4,358	27.2	3,895	28.5	8,253	27.8
III 期	3,679	22.9	3,721	27.2	7,400	24.9
IV 期	3,145	19.6	2,758	20.2	5,903	19.9
不詳	200	1.2	203	1.5	403	1.4
空欄	47	0.3	32	0.2	79	0.3
観血的治療						
有	14,079	87.8	12,011	87.9	26,090	87.8
原発巣・治癒切除	12,691	79.1	10,762	78.7	23,453	78.9
原発巣・非治癒切除	1,211	7.6	1,083	7.9	2,294	7.7
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	177	1.1	166	1.2	343	1.2
無	1,957	12.2	1,661	12.1	3,618	12.2
発見経緯						
がん検診	1,671	10.4	1,559	11.4	3,230	10.9
健康診断・人間ドック	1,420	8.9	1,002	7.3	2,422	8.2
他疾患経過観察中	4,742	29.6	3,312	24.2	8,054	27.1
その他・不明	8,203	51.2	7,799	57.0	16,002	53.9

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

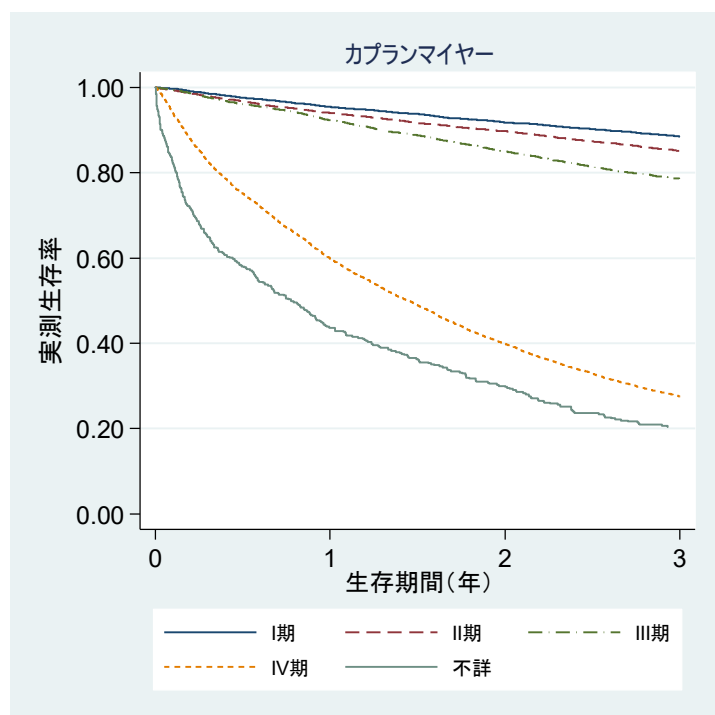
(3)3年生存率

表 3-3-1 結腸に、属性別 3 年実測生存率と相対生存率を示す。年齢が高くなるほど実測生存率と相対生存率の差に乖離が大きくなる傾向にあった。これは年齢が高いほどがん以外の死因で亡くなる確率が高くなることが影響していると考えられる。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、I 期、II 期では相対生存率は 90%以上であった。

表 3-3-1 結腸 属性別 3 年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	70.5	77.8	77.1	78.6	72.9	77.8	76.9	78.5	71.6	77.8	77.2	78.4
拠点病院等	70.4	77.7	76.9	78.5	72.8	77.6	76.8	78.5	71.5	77.7	77.1	78.2
都道府県推薦病院	72.0	79.9	76.8	82.8	74.1	79.4	76.2	82.4	73.0	79.7	77.5	81.8
年齢												
15-39 歳	75.3	75.5	69.0	80.9	79.5	79.6	73.4	84.6	77.4	77.6	73.2	81.3
40 歳代	79.3	79.8	76.0	83.1	81.0	81.3	77.8	84.3	80.2	80.6	78.1	82.9
50 歳代	80.3	81.6	79.5	83.5	80.0	80.6	78.3	82.7	80.2	81.1	79.6	82.6
60 歳代	76.9	79.9	78.6	81.1	80.1	81.3	79.9	82.7	78.2	80.5	79.5	81.4
70 歳代	71.1	78.1	76.8	79.3	76.2	79.6	78.3	80.9	73.3	78.7	77.8	79.7
80 歳以上	53.9	72.1	69.7	74.4	58.5	70.4	68.5	72.3	56.4	71.2	69.7	72.7
UICC TNM 総合ステージ*												
I 期	85.6	94.0	92.9	95.1	92.0	97.3	96.2	98.2	88.1	95.3	94.5	96.1
II 期	82.4	92.2	90.9	93.4	87.4	94.3	93.1	95.4	84.7	93.2	92.3	94.0
III 期	76.7	84.3	82.8	85.8	79.5	84.6	83.2	86.0	78.1	84.5	83.4	85.5
IV 期	27.8	30.2	28.5	31.9	25.8	27.1	25.3	28.8	26.8	28.7	27.5	29.9
不詳	19.5	22.4	16.4	29.2	20.4	24.1	17.8	31.1	19.9	23.3	18.8	28.1
観血的治療												
有	78.4	86.3	85.6	87.1	81.3	86.5	85.8	87.3	79.7	86.4	85.9	86.9
原発巣・治癒切除	82.6	91.0	90.3	91.7	85.9	91.5	90.7	92.1	84.1	91.2	90.7	91.7
原発巣・非治癒切除	35.7	38.9	35.9	41.8	38.7	40.8	37.7	43.9	37.1	39.8	37.7	41.9
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	67.7	74.1	65.9	81.1	60.3	64.9	56.3	72.5	64.1	69.6	63.8	74.9
無	13.7	15.5	13.8	17.2	11.3	12.4	10.7	14.1	12.6	14.0	12.8	15.3

*癌腫のみ対象



直腸(C19-20)

(1) 生存状況把握割合

対象数は、16,954 例、うち死亡数が 4,172 例、打ち切り数が 351 例で生存状況把握割合は 97.9%であった。

(2) 対象者の属性

男性が約 65%、女性が約 35%を占め、平均年齢は、66.9 歳であった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、I～III 期が約 25%前後であった。約 85%になんらかの観血的治療が実施されていた。

表 3-3-1 直腸 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	10,963	100.0	5,991	100.0	16,954	100.0
拠点病院等	10,273	93.7	5,630	94.0	15,903	93.8
都道府県推薦病院	690	6.3	361	6.0	1,051	6.2
年齢						
平均年齢 (SD)	66.7	(SD:11.2)	67.3	(SD:13.0)	66.9	(SD:11.9)
0-14 歳	(1-3)		0	0.0	(1-3)	
15-39 歳	207	1.9	154	2.6	361	2.1
40 歳代	625	5.7	448	7.5	1,073	6.3
50 歳代	1,678	15.3	909	15.2	2,587	15.3
60 歳代	3,807	34.7	1,686	28.1	5,493	32.4
70 歳代	3,317	30.3	1,728	28.8	5,045	29.8
80 歳以上	1,328	12.1	1,066	17.8	2,394	14.1
UICC TNM 分類総合ステージ*						
I 期	2,800	25.5	1,522	25.4	4,322	25.5
II 期	2,383	21.7	1,287	21.5	3,670	21.6
III 期	2,984	27.2	1,712	28.6	4,696	27.7
IV 期	2,108	19.2	1,033	17.2	3,141	18.5
不詳	132	1.2	82	1.4	214	1.3
空欄	556	5.1	355	5.9	911	5.4
観血的治療						
有	9,301	84.8	5,160	86.1	14,461	85.3
原発巣・治癒切除	8,375	76.4	4,673	78.0	13,048	77.0
原発巣・非治癒切除	784	7.2	413	6.9	1,197	7.1
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	142	1.3	74	1.2	216	1.3
無	1,662	15.2	831	13.9	2,493	14.7
発見経緯						
がん検診	1,072	9.8	580	9.7	1,652	9.7
健康診断・人間ドック	995	9.1	405	6.8	1,400	8.3
他疾患経過観察中	2,049	18.7	939	15.7	2,988	17.6
その他・不明	6,847	62.5	4,067	67.9	10,914	64.4

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

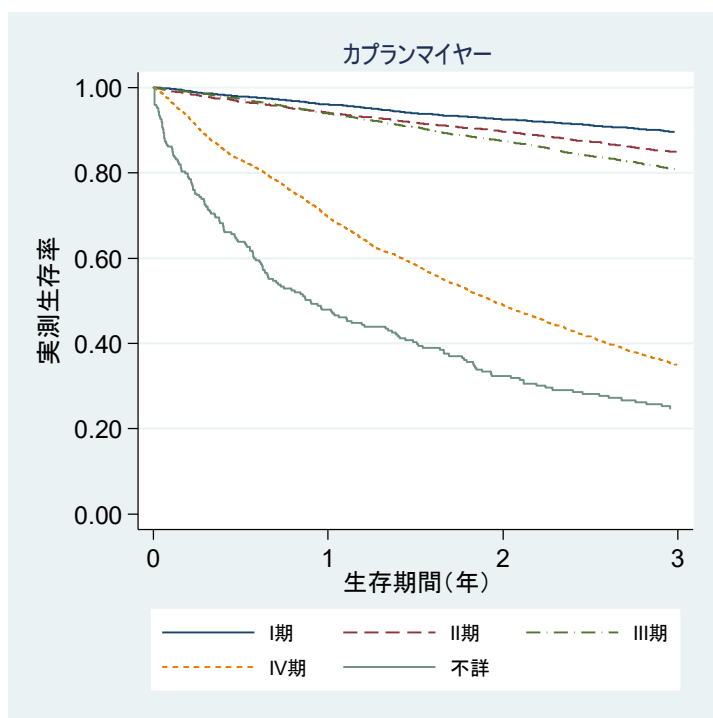
(3)3年生存率

表 3-3-1 直腸に、属性別 3 年実測生存率と相対生存率を示す。年齢が高くなるほど実測生存率と相対生存率の差に乖離が大きくなる傾向にあった。これは年齢が高いほどがん以外の死因で亡くなる確率が高くなることが影響していると考えらる。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、全体では I 期、II 期では相対性生存率は 90%以上であった。

表 3-3-1 直腸 属性別 3 年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	74.0	79.5	78.6	80.3	77.2	80.9	79.8	82.0	75.1	80.0	79.3	80.7
拠点病院等	73.9	79.4	78.4	80.3	77.2	80.8	79.6	81.9	75.0	79.9	79.2	80.6
都道府県推薦病院	75.1	81.0	77.3	84.3	78.4	82.8	77.9	86.9	76.2	81.6	78.7	84.3
年齢												
15-39 歳	79.9	80.1	73.7	85.1	82.9	83.0	75.8	88.2	81.2	81.3	76.7	85.1
40 歳代	86.2	86.7	83.7	89.2	86.0	86.3	82.7	89.2	86.1	86.5	84.3	88.5
50 歳代	81.2	82.5	80.5	84.3	85.4	86.0	83.5	88.2	82.7	83.7	82.2	85.2
60 歳代	78.2	81.2	79.8	82.6	83.9	85.2	83.4	86.9	80.0	82.5	81.3	83.5
70 歳代	71.9	78.8	77.1	80.4	78.2	81.6	79.5	83.5	74.1	79.8	78.4	81.1
80 歳以上	50.9	67.4	63.8	70.9	53.4	64.5	60.8	68.1	52.0	66.1	63.5	68.6
UICC TNM 総合ステージ*												
I 期	87.6	94.7	93.4	96.0	93.1	97.3	95.9	98.6	89.5	95.7	94.7	96.6
II 期	84.0	91.0	89.3	92.5	86.0	91.3	89.1	93.2	84.7	91.1	89.8	92.3
III 期	79.6	85.2	83.6	86.7	82.1	85.7	83.7	87.5	80.5	85.4	84.1	86.5
IV 期	34.7	36.9	34.7	39.1	32.9	34.3	31.3	37.3	34.1	36.0	34.3	37.8
不詳	20.9	23.9	16.4	32.4	25.5	28.3	18.3	39.5	22.6	25.6	19.4	32.3
観血的治療												
有	83.0	89.1	88.2	89.9	86.1	89.8	88.8	90.8	84.1	89.3	88.7	90.0
原発巣・治癒切除	86.4	92.6	91.8	93.4	89.2	93.1	92.1	94.0	87.4	92.8	92.2	93.4
原発巣・非治癒切除	48.5	51.8	48.0	55.6	52.4	54.6	49.4	59.5	49.8	52.8	49.7	55.8
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	76.4	82.3	73.7	89.0	76.6	79.4	67.4	87.8	76.5	81.3	74.5	86.7
無	22.6	24.6	22.4	26.8	21.8	23.8	20.7	26.9	22.3	24.3	22.5	26.1

*癌腫のみ対象



4. 肝(C22)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2013	327	15,101	7,485	308	98.0

(1) 生存状況把握割合

対象者は、15,101例で、そのうち3年以内に死亡していたのは7,485例、打ち切りが308例であった。全体として、生存状況把握割合は98.0%であった。

性が約70%を占めた。年代をみると、70歳代が最も多く男性で約37%、女性は約43%を占めた。UICC TNM総合ステージ別にみると、全体でI期が約40%、II期が約28%、III期が約15%となっていた。29.0%に観血的治療が実施されていた。発見経緯としては、他疾患経過観察中が約65%を占めた。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表3-4-1に示す。性別にみると、男

表3-4-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	10,504	100.0	4,597	100.0	15,101	100.0
拠点病院等	9,980	95.0	4,350	94.6	14,330	94.9
都道府県推薦病院	524	5.0	247	5.4	771	5.1
年齢						
平均年齢 (SD)	69.9	(SD:10.3)	73.3	(SD:10.1)	71.0	(SD:10.4)
0-15歳	17	0.2	(7-9)		25	0.2
15-39歳	54	0.5	25	0.5	79	0.5
40歳代	272	2.6	79	1.7	351	2.3
50歳代	1,127	10.7	257	5.6	1,384	9.2
60歳代	3,242	30.9	977	21.3	4,219	27.9
70歳代	3,922	37.3	1,976	43.0	5,898	39.1
80歳以上	1,870	17.8	1,275	27.7	3,145	20.8
UICC TNM 分類総合ステージ						
I期	3,939	37.5	2,090	45.5	6,029	39.9
II期	3,007	28.6	1,189	25.9	4,196	27.8
III期	1,719	16.4	533	11.6	2,252	14.9
IV期	1,514	14.4	621	13.5	2,135	14.1
不詳	219	2.1	95	2.1	314	2.1
空欄	106	1.0	69	1.5	175	1.2
取扱い規約治療前ステージ						
I期	1,802	17.2	1,142	24.8	2,944	19.5
II期	3,606	34.3	1,569	34.1	5,175	34.3
III期	2,329	22.2	831	18.1	3,160	20.9
IV期	2,240	21.3	814	17.7	3,054	20.2
不詳	363	3.5	157	3.4	520	3.4
空欄	163	1.6	84	1.8	247	1.6
観血的治療						
有	3,248	30.9	1,126	24.5	4,374	29.0
原発巣・治癒切除	2,950	28.1	1,012	22.0	3,962	26.2
原発巣・非治癒切除	222	2.1	83	1.8	305	2.0
原発巣・治癒/非治癒	76	0.7	31	0.7	107	0.7
の別不詳						
無	7,256	69.1	3,471	75.5	10,727	71.0
発見経緯						
がん検診	67	0.6	17	0.4	84	0.6
健康診断・人間ドック	501	4.8	128	2.8	629	4.2
他疾患経過観察中	6,691	63.7	3,189	69.4	9,880	65.4
その他・不明	3,245	30.9	1,263	27.5	4,508	29.9

取扱い規約治療前ステージが0期の者を若干名含む

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

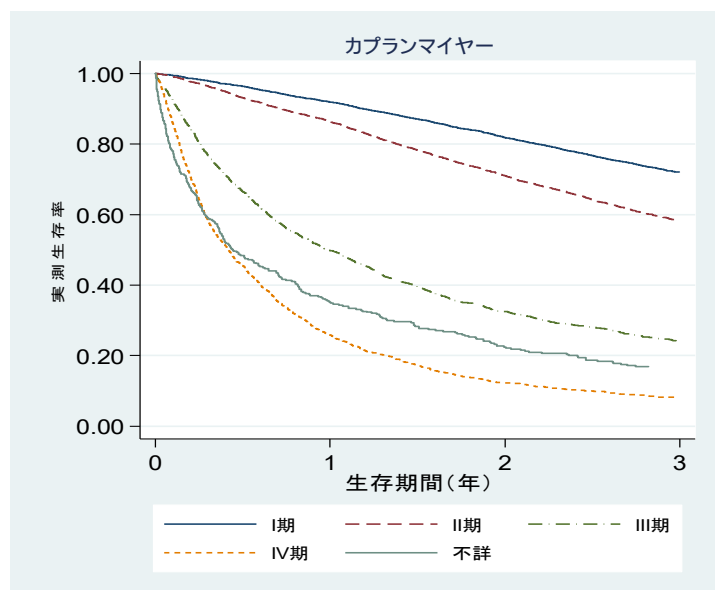
(3)3年生存率

2013年診断例の3年生存率を表3-4-2に示す。全体として、相対生存率は男女ともに約54%であった。他の部位と比較して、年代による実測生存率と相対生存率の差はやや小さくなっており、予後があまり良くないことを示唆している。UICC TNM 分類別にみると、I期では相対生存率は全体で約77%である。観血的治療を受けたものの割合は約3割であるが、観血的治療を受けたものの相対生存率は約78%であった。

表 3-4-2 属性別 3年生存率

	男性			女性			全体		
	実測	相対	95%信頼区間	実測	相対	95%信頼区間	実測	相対	95%信頼区間
全体	49.3	54.1	53.0 55.2	51.0	54.3	52.7 55.8	49.8	54.2	53.3 55.0
拠点病院等	49.5	54.3	53.2 55.4	51.4	54.7	53.1 56.3	50.1	54.4	53.5 55.3
都道府県推薦病院	44.9	49.6	44.8 54.3	43.7	46.9	40.2 53.5	44.5	48.8	44.8 52.6
年齢									
15-39歳	56.9	57.0	42.6 69.0	76.0	76.1	54.3 88.5	62.9	63.0	51.3 72.7
40歳代	50.9	51.2	45.0 57.1	57.8	58.0	46.2 68.1	52.4	52.7	47.3 57.9
50歳代	54.2	55.0	52.0 58.0	57.5	58.0	51.6 63.8	54.8	55.6	52.9 58.2
60歳代	53.4	55.5	53.7 57.3	56.4	57.3	54.1 60.5	54.1	56.0	54.4 57.5
70歳代	50.3	55.3	53.6 57.0	55.1	57.6	55.3 59.9	51.9	56.1	54.7 57.5
80歳以上	36.4	47.5	44.6 50.4	38.1	44.4	41.3 47.6	37.1	46.2	44.1 48.3
UICC TNM 総合ステージ*									
I期	71.6	78.8	77.2 80.3	70.5	75.0	72.9 77.0	71.2	77.4	76.2 78.7
II期	58.2	63.5	61.5 65.4	56.4	59.8	56.7 62.7	57.7	62.4	60.8 64.0
III期	23.6	26.0	23.8 28.3	21.0	22.5	18.9 26.4	23.0	25.2	23.3 27.2
IV期	7.8	8.5	7.1 10.1	8.4	8.9	6.7 11.4	8.0	8.6	7.4 9.9
不詳	16.8	18.9	13.6 24.9	9.9	10.8	5.3 18.7	14.7	16.4	12.3 21.1
取扱い規約治療前ステージ									
I期	76.1	82.4	80.2 84.5	75.9	80.2	77.5 82.7	76.0	81.6	79.9 83.2
II期	66.3	73.3	71.6 75.0	64.4	68.8	66.2 71.3	65.7	71.9	70.5 73.3
III期	42.2	46.2	44.0 48.4	39.3	41.9	38.3 45.5	41.4	45.1	43.2 47.0
IV期	11.5	12.6	11.1 14.1	8.3	8.7	6.8 10.9	10.7	11.5	10.3 12.8
不詳	31.2	34.6	29.3 40.0	23.8	25.4	18.5 32.9	29.0	31.8	27.5 36.2
観血的治療									
有	72.4	78.3	76.6 79.9	74.0	77.4	74.6 80.0	72.8	78.1	76.6 79.4
原発巣・治癒切除	75.2	81.3	79.5 82.9	75.8	79.3	76.4 81.9	75.4	80.8	79.3 82.2
原発巣・非治癒切除	43.4	46.5	39.4 53.4	53.7	55.8	44.0 66.2	46.2	49.1	43.0 54.9
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	50.2	54.8	41.9 66.5	71.0	74.0	53.8 87.3	56.3	60.6	49.8 70.1
無	38.9	43.1	41.8 44.3	43.5	46.7	44.9 48.4	40.4	44.3	43.2 45.3

*癌腫のみ対象



5. 肺(C33-34)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2013	329	47,455	24,495	792	98.3

(1) 生存状況把握割合

対象者は、47,455 例で、そのうち 3 年以内に死亡していた者は、24,495 例、打ち切りが 792 例で、全体として生存状況把握割合は 98.3%であった。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-5-1 に示す。対象者は、男性が約 69%を占め、70 歳代が最も多かった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、全体として I 期が約

39%、次いでIV期が約 33%、III期が約 18%であった。観血的治療実施を受けた者の割合は、胃や大腸と比較してやや低く、約 45%であった。観血的治療有で、原発巣・治癒切除例が約 43%であった。発見経緯をみると、他疾患経過観察中が約 39%、健康診断・人間ドックが約 13%、がん検診が約 7%であった。組織形態でみると、小細胞癌が約 9%含まれていた。

表 3-5-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	32,597	100.0	14,858	100.0	47,455	100.0
拠点病院等	30,584	93.8	13,961	94.0	44,545	93.9
都道府県推薦病院	2,013	6.2	897	6.0	2,910	6.1
年齢						
平均年齢 (SD)	70.8	(SD:9.7)	70.1	(SD:10.6)	70.6	(SD:10.0)
0-14 歳	(1-3)		(1-3)		(1-3)	
15-39 歳	160	0.5	149	1.0	309	0.7
40 歳代	715	2.2	462	3.1	1,177	2.5
50 歳代	2,795	8.6	1,487	10.0	4,282	9.0
60 歳代	10,141	31.1	4,578	30.8	14,719	31.0
70 歳代	12,463	38.2	5,336	35.9	17,799	37.5
80 歳以上	6,322	19.4	2,845	19.1	9,167	19.3
UICC TNM 分類総合ステージ*						
I 期	10,998	33.7	7,327	49.3	18,325	38.6
II 期	3,176	9.7	938	6.3	4,114	8.7
III 期	6,457	19.8	1,934	13.0	8,391	17.7
IV 期	11,284	34.6	4,386	29.5	15,670	33.0
不詳	527	1.6	170	1.1	697	1.5
空欄	155	0.5	103	0.7	258	0.5
観血的治療						
有	13,242	40.6	8,272	55.7	21,514	45.3
原発巣・治癒切除	12,404	38.1	7,924	53.3	20,328	42.8
原発巣・非治癒切除	631	1.9	248	1.7	879	1.9
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	207	0.6	100	0.7	307	0.6
無	19,355	59.4	6,586	44.3	25,941	54.7
発見経緯						
がん検診	2,074	6.4	1,357	9.1	3,431	7.2
健康診断・人間ドック	3,995	12.3	2,103	14.2	6,098	12.9
他疾患経過観察中	12,560	38.5	5,837	39.3	18,397	38.8
その他・不明	13,968	42.9	5,561	37.4	19,529	41.2
組織形態						
小細胞癌	3,421	10.5	655	4.4	4,076	8.6
非小細胞癌	29,176	89.5	14,203	95.6	43,379	91.4

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

(3)3年生存率

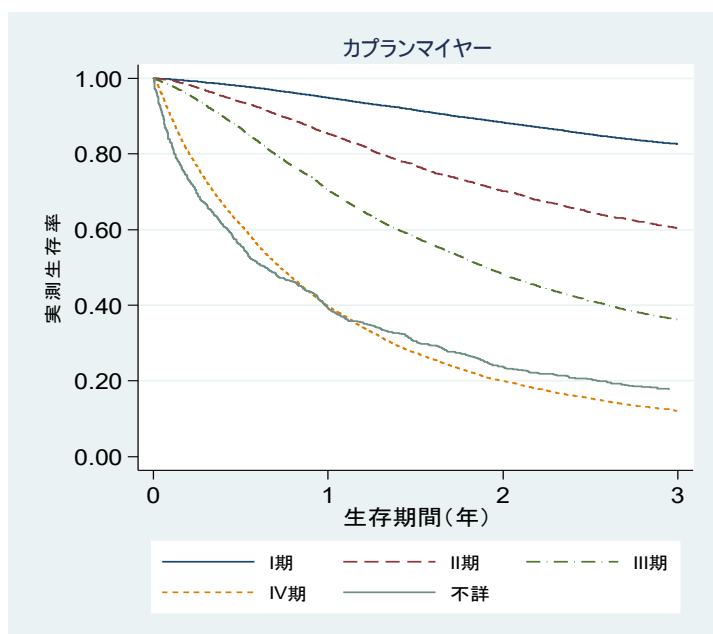
3年生存率を表3-5-2に示す。全体での3年相対生存率は、約52%、男性が約45%、女性が約66%であった。男性と比較して女性では、UICC TNM分類総合ステージのI期の割合が多かった。しかしUICC TNM分類総合ステージ別にみても、男性より女性において実測生存率、相対生存率ともにやや高くなっていた。年代による実測生存率と相対生存率の差は、肝と同様、胃や大腸と比較して小さかった。

UICC TNM分類総合ステージ別に相対生存率をみると、全体でI期が約89%であるのに対し、II期以降では65%未満と低くなっている。観血的治療の実施割合は、全体で45%程度であるが、相対生存率は約87%であった。また、組織形態別にみると、小細胞癌では非小細胞癌と比較して相対生存率が低い傾向が認められた。

表3-5-2 属性別3年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	41.0	45.0	44.4	45.6	63.0	65.9	65.1	66.8	47.9	51.7	51.2	52.1
拠点病院等	41.2	45.2	44.6	45.8	63.2	66.1	65.3	66.9	48.1	51.9	51.4	52.4
都道府県推薦病院	37.8	41.7	39.4	44.1	60.1	63.4	59.9	66.7	44.7	48.5	46.5	50.5
年齢												
15-39歳	57.5	57.6	49.4	65.0	73.9	74.0	66.0	80.3	65.4	65.5	59.8	70.6
40歳代	55.0	55.3	51.5	58.9	70.6	70.8	66.4	74.8	61.1	61.4	58.5	64.2
50歳代	51.6	52.4	50.5	54.3	73.5	74.0	71.7	76.2	59.2	60.0	58.4	61.4
60歳代	46.3	48.1	47.1	49.1	70.2	71.3	69.9	72.6	53.7	55.4	54.6	56.2
70歳代	40.7	44.6	43.7	45.6	63.4	66.2	64.8	67.5	47.5	51.2	50.4	52.0
80歳以上	26.5	34.7	33.3	36.1	43.2	50.4	48.2	52.5	31.7	39.8	38.6	41.0
UICC TNM 総合ステージ*												
I期	76.1	84.1	83.2	84.9	92.0	96.1	95.4	96.7	82.5	89.0	88.4	89.6
II期	54.7	59.8	57.9	61.7	75.7	79.5	76.5	82.3	59.5	64.4	62.8	66.1
III期	32.0	34.6	33.4	35.9	47.8	49.9	47.5	52.2	35.7	38.2	37.1	39.3
IV期	8.5	9.2	8.6	9.8	19.4	20.3	19.1	21.6	11.5	12.3	11.8	12.9
不詳	16.3	19.4	15.8	23.3	20.0	22.5	16.0	29.7	17.2	20.1	16.9	23.6
観血的治療												
有	76.1	82.4	81.6	83.1	91.5	95.0	94.3	95.6	82.0	87.3	86.7	87.8
原発巣・治癒切除	78.0	84.4	83.6	85.2	92.5	95.9	95.3	96.5	83.6	89.0	88.4	89.5
原発巣・非治癒切除	46.2	49.6	45.4	53.8	68.4	71.4	64.9	77.1	52.4	55.9	52.2	59.3
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	53.6	58.3	50.6	65.5	72.8	75.1	64.9	83.1	59.9	64.0	57.8	69.6
無	16.7	18.6	18.0	19.2	26.7	28.5	27.3	29.6	19.3	21.2	20.6	21.7
組織形態												
小細胞癌	15.5	16.9	15.6	18.2	19.7	20.4	17.3	23.7	16.2	17.4	16.2	18.7
非小細胞癌	44.0	48.3	47.6	48.9	65.0	68.0	67.2	68.9	50.9	54.9	54.4	55.4

*癌腫のみ対象



6. 女性乳房(C50)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2013	329	32,897	2,358	579	98.2

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、32,897 例で、3 年以内に亡くなっていたのが 2,358 例、打ち切りが 579 例であった。集計対象全体での生存状況把握割合は 98.2%であった。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-6-1 に示す。診断時の年齢をみると、60 歳代が最も多く、次いで 40、50 歳代であった。また、35 歳未満は、629 例であった (1.9%)。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、I 期が最も多く約 45%、次いで II 期が約 37%であった。観血的治療の実施割合は、約 89%であった。発見経緯を見ると、大腸や肺と比較してがん検診、健康診断・人間ドックがやや多かった。

表 3-6-1 対象者の属性

	対象数	(%)
全体	32,897	100.0
拠点病院等	31,331	95.2
都道府県推薦病院	1,566	4.8
年齢		
平均年齢 (SD)	59.7	(SD:13.7)
15-39 歳	1,947	5.9
40 歳代	7,095	21.6
50 歳代	6,857	20.8
60 歳代	8,585	26.1
70 歳代	5,698	17.3
80 歳以上	2,715	8.3
35 歳未満 (再掲)	629	1.9
UICC TNM 分類総合ステージ*		
I 期	14,694	44.7
II 期	12,010	36.5
III 期	4,051	12.3
IV 期	1,894	5.8
不詳	148	0.4
空欄	100	0.3
観血的治療		
有	29,383	89.3
原発巣・治癒切除	27,404	83.3
原発巣・非治癒切除	1,419	4.3
原発巣・治癒/非治癒	560	1.7
癒の別不詳		
無	3,514	10.7
発見経緯		
がん検診	6,816	20.7
健康診断・人間ドック	1,841	5.6
他疾患経過観察中	4,421	13.4
その他・不明	19,819	60.2

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

(3) 3 年生存率

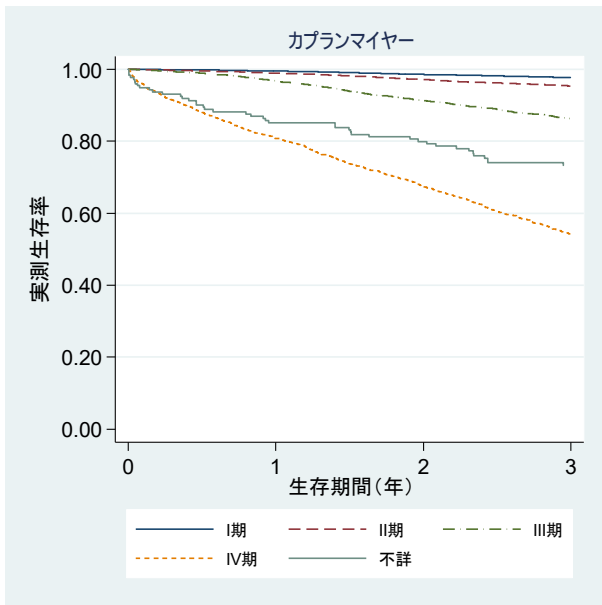
3 年生存率を表 3-6-2 に示す。全体として、相対生存

率は 95.3%であり、どの年代においても相対生存率は 90%を超えていた。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、I 期、II 期では相対生存率は 95%以上であるが、IV 期では約 56%にとどまった。なお、観血的治療実施を受けた者では、治癒切除・非治癒切除に関わらず相対生存率は約 90%を超えていた。

表 3-6-2 属性別 3 年相対生存率

	女性			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	92.8	95.3	95.0	95.6
拠点病院等	92.8	95.3	95.0	95.6
都道府県推薦病院	93.0	96.1	94.7	97.3
年齢				
15-39 歳	94.2	94.3	93.2	95.3
40 歳代	96.3	96.6	96.1	97.0
50 歳代	93.6	94.2	93.6	94.8
60 歳代	93.7	95.1	94.6	95.6
70 歳代	92.0	95.8	95.0	96.5
80 歳以上	79.3	95.3	93.4	97.1
35 歳未満 (再掲)	91.7	91.8	89.4	93.8
UICC TNM 総合ステージ*				
I 期	97.6	100.0	99.9	100.0
II 期	95.3	98.0	97.6	98.4
III 期	86.2	88.8	87.7	89.9
IV 期	54.7	56.0	53.7	58.3
不詳	71.9	80.5	71.2	88.0
観血的治療				
有	96.3	98.6	98.4	98.8
原発巣・治癒切除	96.6	99.0	98.7	99.2
原発巣・非治癒切	91.6	94.0	92.4	95.4
除				
原発巣・治癒/非治癒	92.3	94.5	91.9	96.5
癒の別不詳				
無	63.0	66.7	64.9	68.4

*癌腫のみ対象



7. 食道(C15)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2013	328	12, 182	5, 879	251	97. 9

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、12, 182 例で、3 年以内に亡くなっていたのが 5, 879 例、打ち切りが 251 例であった。全体として生存状況把握割合は、97. 9%であった。

(2) 対象者の属性

集計対象の属性を表 3-7-1 に示す。集計対象のうち男性が約 85%、女性が約 15%であった。年齢分布をみると、60 歳代、70 歳代が約 36%と多かった。UICC TNM 分類総合ステージをみると、I 期が最も多く約 40%、次いでⅢ期が約 29%、Ⅳ期が約 16%、Ⅱ期が約 13%であった。観血的治療の実施割合は全体で約 52%であり、約 46%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯を見ると、他疾患経過観察中が約 26%であった。

表 3-7-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	10, 409	100. 0	1, 773	100. 0	12, 182	100. 0
拠点病院等	10, 086	96. 9	1, 713	96. 6	11, 799	96. 9
都道府県推薦病院	323	3. 1	60	3. 4	383	3. 1
年齢						
平均年齢 (SD)	69. 1	(SD: 8. 6)	68. 9	(SD: 11. 1)	69. 0	(SD: 9. 3)
15-39 歳	18	0. 2	14	0. 8	32	0. 3
40 歳代	194	1. 9	73	4. 1	267	2. 2
50 歳代	1, 210	11. 6	246	13. 9	1, 456	12. 0
60 歳代	3, 843	36. 9	544	30. 7	4, 387	36. 0
70 歳代	3, 896	37. 4	565	31. 9	4, 461	36. 6
80 歳以上	1, 248	12. 0	331	18. 7	1, 579	13. 0
UICC TNM 分類総合ステージ*						
I 期	4, 195	40. 3	657	37. 1	4, 852	39. 8
Ⅱ期	1, 310	12. 6	245	13. 8	1, 555	12. 8
Ⅲ期	3, 006	28. 9	536	30. 2	3, 542	29. 1
Ⅳ期	1, 627	15. 6	267	15. 1	1, 894	15. 5
不詳	184	1. 8	38	2. 1	222	1. 8
空欄	87	0. 8	30	1. 7	117	1. 0
観血的治療						
有	5, 364	51. 5	919	51. 8	6, 283	51. 6
原発巣・治癒切除	4, 761	45. 7	824	46. 5	5, 585	45. 8
原発巣・非治癒切除	458	4. 4	74	4. 2	532	4. 4
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	145	1. 4	21	1. 2	166	1. 4
無	5, 045	48. 5	854	48. 2	5, 899	48. 4
発見経緯						
がん検診	425	4. 1	56	3. 2	481	3. 9
健康診断・人間ドック	981	9. 4	111	6. 3	1, 092	9. 0
他疾患経過観察中	2, 828	27. 2	381	21. 5	3, 209	26. 3
その他・不明	6, 175	59. 3	1, 225	69. 1	7, 400	60. 7

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

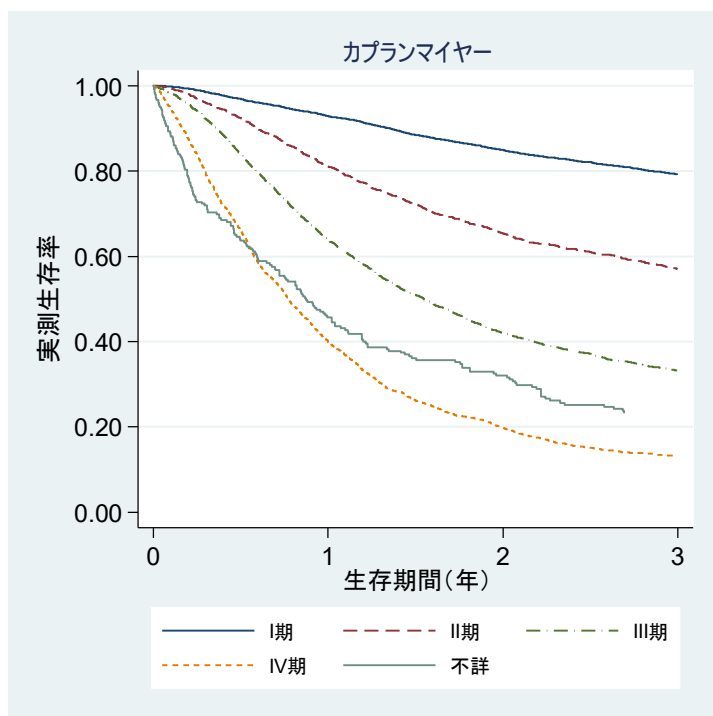
(3) 3年生存率

2013年診断例の3年生存率を表3-7-2に示す。全体での相対生存率は、55.0%であり、男性が約55%、女性が約58%であった。UICC TNM分類総合ステージ別にみると、3年相対生存率はⅠ期が約85%、Ⅱ期が約61%、Ⅲ期が約35%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、約79%であり、その内原発巣・治癒切除例の相対生存率は約81%であった。男女における併存症など対象者の個人属性の違いが定かではないが、UICC TNM分類総合ステージ別にみるとⅣ期を除き男性より女性で若干相対生存率が高い傾向が認められた。

表 3-7-2 属性別 3年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	50.5	54.5	53.5	55.6	55.1	57.5	55.1	59.9	51.2	55.0	54.0	55.9
拠点病院等	50.7	54.7	53.6	55.8	54.9	57.2	54.7	59.7	51.3	55.1	54.1	56.0
都道府県推薦病院	45.4	49.4	43.4	55.2	63.8	67.1	52.1	78.9	48.1	52.0	46.4	57.4
年齢												
15-39歳	-	-			-	-			58.2	58.3	39.2	73.3
40歳代	59.8	60.1	52.8	66.7	59.5	59.7	47.4	70.1	59.7	60.0	53.8	65.7
50歳代	55.7	56.6	53.7	59.4	57.0	57.5	50.9	63.5	55.9	56.7	54.1	59.3
60歳代	54.6	56.7	55.1	58.4	64.9	65.9	61.6	69.8	55.9	57.9	56.3	59.4
70歳代	49.7	54.4	52.7	56.1	56.9	59.3	54.9	63.4	50.6	55.0	53.4	56.6
80歳以上	34.1	44.4	41.0	47.9	33.8	39.4	33.4	45.4	34.0	43.3	40.3	46.3
UICC TNM 分類総合ステージ*												
Ⅰ期	78.2	84.6	83.2	85.9	82.9	86.7	83.4	89.5	78.8	84.9	83.6	86.1
Ⅱ期	56.0	60.5	57.5	63.3	61.3	64.1	57.3	70.2	56.9	61.0	58.3	63.7
Ⅲ期	31.3	33.6	31.8	35.4	40.8	42.3	37.9	46.6	32.8	35.0	33.3	36.6
Ⅳ期	13.1	14.0	12.3	15.8	13.8	14.4	10.3	19.1	13.2	14.0	12.4	15.7
不詳	23.6	26.9	20.1	34.2	20.4	22.6	10.4	38.1	23.0	26.1	20.0	32.7
観血的治療												
有	73.0	78.1	76.8	79.4	79.2	81.9	79.0	84.4	73.9	78.7	77.5	79.8
原発巣・治癒切除	75.6	80.8	79.5	82.1	81.1	83.8	80.8	86.4	76.4	81.2	80.0	82.4
原発巣・非治癒切除	51.6	55.7	50.6	60.6	61.5	64.1	51.4	74.6	53.0	56.9	52.2	61.4
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	56.6	60.2	51.2	68.3	-	-			57.8	61.3	53.0	68.8
無	26.4	28.9	27.6	30.3	28.8	30.5	27.2	33.8	26.7	29.1	27.9	30.4

*癌腫が対象



8. 膵臓(C25)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2013	327	12,905	10,608	214	98.3

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、12,905例で、3年以内に亡くなっていたのが10,608例、打ち切りが214例であった。集計対象全体で生存状況把握割合は98.3%であった。

(2) 対象者の属性

集計対象の属性を表3-8-1に示す。集計対象者は、男性が約56%、女性が約44%であった。診断時の年齢分布は、70歳代が約36%と最も多く、次いで60歳代が約30%、80歳以上が約21%であった。UICC TNM分類総合ステージの分布をみると、Ⅳ期が最も多く47.0%、次いでⅡ期が28.6%、Ⅲ期が14.1%であった。観血的治療の実施割合は、男女ともに28~30%であった。全体で24.0%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯を見ると、他疾患経過観察中が約29%であった。

表3-8-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	7,171	100.0	5,734	100.0	12,905	100.0
拠点病院等	6,798	94.8	5,460	95.2	12,258	95.0
都道府県推薦病院	373	5.2	274	4.8	647	5.0
年齢						
平均年齢 (SD)	69.5	(SD:10.5)	72.0	(SD:11.0)	70.6	(SD:10.8)
15-39歳	64	0.9	46	0.8	110	0.9
40歳代	245	3.4	170	3.0	415	3.2
50歳代	792	11.0	451	7.9	1,243	9.6
60歳代	2,311	32.2	1,499	26.1	3,810	29.5
70歳代	2,529	35.3	2,069	36.1	4,598	35.6
80歳以上	1,230	17.2	1,499	26.1	2,729	21.1
UICC TNM分類総合ステージ*						
Ⅰ期	444	6.2	391	6.8	835	6.5
Ⅱ期	2,066	28.8	1,623	28.3	3,689	28.6
Ⅲ期	970	13.5	849	14.8	1,819	14.1
Ⅳ期	3,438	47.9	2,628	45.8	6,066	47.0
不詳	116	1.6	129	2.2	245	1.9
空欄	137	1.9	114	2.0	251	1.9
観血的治療						
有	2,175	30.3	1,614	28.1	3,789	29.4
原発巣・治癒切除	1,746	24.3	1,355	23.6	3,101	24.0
原発巣・非治癒切除	353	4.9	220	3.8	573	4.4
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	76	1.1	39	0.7	115	0.9
無	4,996	69.7	4,120	71.9	9,116	70.6
発見経緯						
がん検診	43	0.6	22	0.4	65	0.5
健康診断・人間ドック	358	5.0	215	3.7	573	4.4
他疾患経過観察中	2,165	30.2	1,530	26.7	3,695	28.6
その他・不明	4,605	64.2	3,967	69.2	8,572	66.4

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

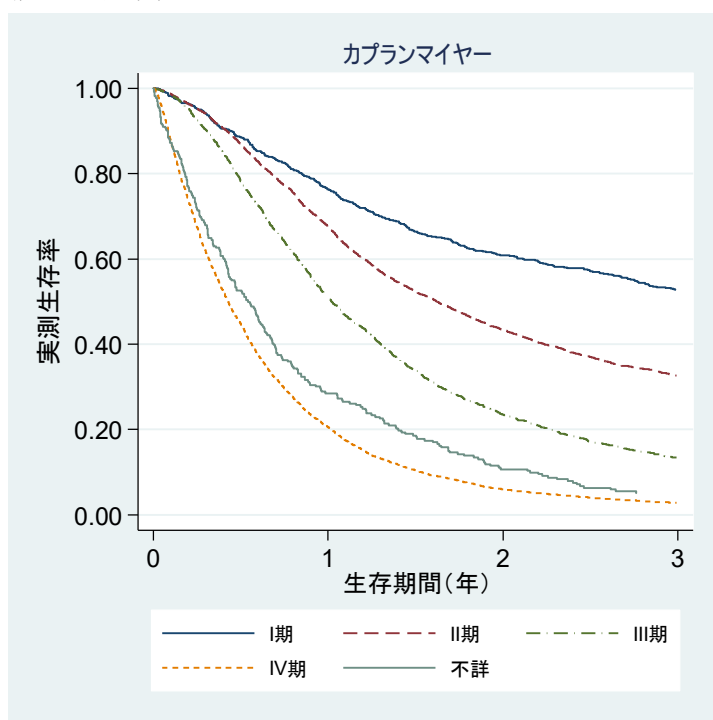
(3) 3年生存率

2013年診断例の3年生存率を表3-8-2に示す。3年相対生存率は、全体で約18%であった。肝や肺と同様、実測生存率と相対生存率の差は他の部位と比較して小さく、予後があまり良くないがんと考えられる。年代別にみても、実測生存率、相対生存率はほぼ同程度であった。但し、15-39歳、40歳代では対象者数がやや少なく95%信頼区間の幅が広がっている点に留意する必要がある。UICC TNM分類総合ステージ別にみると、相対生存率はⅠ期が約56%、Ⅱ期が約34%、Ⅲ期が約13%、Ⅳ期が約3%であった。観血治療を受けた者の相対生存率は約49%であり、原発巣・治癒切除例のみをみても相対生存率は約54%にとどまった。

表 3-8-2 属性別 3年生存率

	男性			女性			全体		
	実測	相対	95%信頼区間	実測	相対	95%信頼区間	実測	相対	95%信頼区間
全体	16.8	18.2	17.3 19.2	16.9	17.7	16.7 18.8	16.9	18.0	17.3 18.7
拠点病院等	17.0	18.5	17.5 19.4	17.0	17.9	16.8 18.9	17.0	18.2	17.5 18.9
都道府県推薦病院	13.2	14.5	10.9 18.6	14.2	15.1	11.0 19.9	13.7	14.8	12.0 17.8
年齢									
15-39歳	42.7	42.8	30.3 54.6	41.1	41.2	26.9 54.9	42.0	42.0	32.6 51.2
40歳代	23.7	23.9	18.7 29.5	38.3	38.4	31.0 45.8	29.7	29.9	25.5 34.4
50歳代	22.7	23.1	20.1 26.1	24.8	25.0	21.1 29.2	23.5	23.8	21.4 26.2
60歳代	17.8	18.5	16.9 20.1	21.0	21.3	19.2 23.5	19.0	19.6	18.3 20.9
70歳代	17.4	19.1	17.5 20.8	17.0	17.8	16.1 19.5	17.2	18.5	17.3 19.7
80歳以上	7.5	9.8	8.0 11.9	7.0	8.2	6.8 9.9	7.2	8.9	7.8 10.2
UICC TNM 分類総合ステージ*									
Ⅰ期	53.1	58.6	53.3 63.6	50.7	54.1	48.7 59.2	52.0	56.4	52.7 60.1
Ⅱ期	31.5	34.2	32.0 36.4	32.0	33.5	31.1 35.9	31.7	33.9	32.3 35.5
Ⅲ期	12.7	13.7	11.5 16.1	11.0	11.5	9.4 13.9	11.9	12.7	11.1 14.3
Ⅳ期	2.8	3.0	2.4 3.6	2.2	2.3	1.8 3.0	2.5	2.7	2.3 3.2
不詳	4.4	5.0	1.9 10.6	4.7	5.2	2.2 10.4	4.5	5.1	2.7 8.7
観血的治療									
有	44.7	47.8	45.6 50.1	48.6	50.4	47.8 52.9	46.3	48.9	47.2 50.6
原発巣・治癒切除	49.7	53.2	50.6 55.7	52.8	54.7	51.9 57.4	51.1	53.9	52.0 55.7
原発巣・非治癒切除	25.1	27.0	22.2 32.0	24.1	25.0	19.3 31.1	24.7	26.2	22.5 30.1
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	19.7	21.3	12.6 31.7	41.0	42.4	26.5 57.6	27.0	28.7	20.4 37.5
無	4.6	5.0	4.4 5.7	4.3	4.6	3.9 5.3	4.4	4.8	4.3 5.3

*癌腫のみ対象



9. 子宮頸部(C53)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2013	312	5,991	1,339	193	96.8

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、5,991例で、3年以内に亡くなっていたのは1,339例、打ち切りが193例であった。集計対象全体の生存状況把握割合は96.8%であった。

(2) 対象者の属性

集計対象の属性を表3-9-1に示す。診断時の年齢を見ると、40歳代、15～39歳と比較的若い年代が多かった。UICC TNM分類総合ステージの分布をみると、Ⅰ期が約44%と最も多く、次いでⅢ期が約23%、Ⅱ期が約17%であった。観血的治療の実施割合は約57%であった。発見経緯を見ると、がん検診が約16%、健康診断・人間ドックが約3%であった。

表3-9-1 対象者の属性

	全体	
	症例数	(%)
全体	5,991	100.0
拠点病院等	5,760	96.1
都道府県推薦病院	231	3.9
年齢		
平均年齢 (SD)	54.7	(SD:16.3)
0-14歳	(1-3)	
15-39歳	1,197	20.0
40歳代	1,441	24.1
50歳代	995	16.6
60歳代	1,084	18.1
70歳代	759	12.7
80歳以上	514	8.6
UICC TNM分類総合ステージ*		
Ⅰ期	2,625	43.8
Ⅱ期	989	16.5
Ⅲ期	1,400	23.4
Ⅳ期	908	15.2
不詳	45	0.8
空欄	24	0.4
観血的治療		
有	3,402	56.8
原発巣・治癒切除	3,078	51.4
原発巣・非治癒切除	238	4.0
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	86	1.4
無	2,589	43.2
発見経緯		
がん検診	965	16.1
健康診断・人間ドック	184	3.1
他疾患経過観察中	639	10.7
その他・不明	4,203	70.2

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

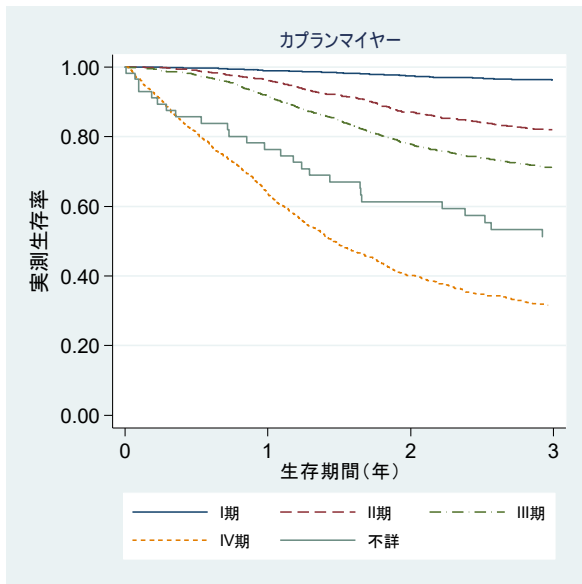
(3) 3年生存率

3年生存率を表3-9-2に示す。全体として、実測生存率が約77%、相対生存率が約79%であった。UICC TNM分類総合ステージ別に相対生存率をみると、Ⅰ期が約97%、Ⅱ期が約83%、Ⅲ期が約73%、Ⅳ期が約32%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は約93%であり、その内、原発巣・治癒切除例では約94%であった。

表3-9-2 属性別3年生存率

	女性			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	77.3	79.0	77.9	80.1
拠点病院等	77.2	78.9	77.8	80.0
都道府県推薦病院	79.2	80.9	74.9	85.8
年齢				
15-39歳	89.6	89.7	87.8	91.3
40歳代	83.8	84.1	82.1	85.9
50歳代	77.9	78.5	75.8	81.0
60歳代	76.4	77.5	74.8	80.0
70歳代	67.7	70.6	66.9	73.9
80歳以上	44.7	53.6	48.3	58.7
UICC TNM分類総合ステージ*				
Ⅰ期	96.0	97.2	96.4	97.9
Ⅱ期	80.7	83.4	80.7	85.8
Ⅲ期	71.1	73.0	70.5	75.4
Ⅳ期	30.4	31.5	28.4	34.7
不詳	45.9	49.4	33.2	64.2
観血的治療				
有	92.3	93.0	92.0	93.9
原発巣・治癒切除	93.5	94.3	93.3	95.1
原発巣・非治癒切除	77.5	78.2	72.2	83.1
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	87.7	88.8	79.3	94.3
無	57.5	60.1	58.1	62.1

*癌腫のみ対象



10. 子宮体部(C54)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2013	312	7,545	1,212	112	98.5

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、7,545例で、3年以内に亡くなっていたのが1,212例、打ち切りが112例であった。集計対象全体として、生存状況把握割合は98.5%であった。

(2) 対象者の属性

集計対象の属性を表3-10-1に示す。診断時の年齢を見ると、50歳代が約3割と最も多く、次いで60歳代が約27%、70歳代が約15%であった。UICC TNM分類総合ステージの分布をみると、I期が約64%、II期が約5%、III期が約12%、IV期が約8%であった。観血的治療の実施割合は、約91%であり、約82%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯をみると、他疾患経過観察中が約15%であった。

表3-10-1 対象者の属性

	全体	
	対象数	(%)
全体	7,545	100.0
拠点病院等	7,275	96.4
都道府県推薦病院	270	3.6
年齢		
平均年齢 (SD)	59.5	(SD:12.5)
15-39歳	408	5.4
40歳代	1,203	15.9
50歳代	2,231	29.6
60歳代	2,059	27.3
70歳代	1,164	15.4
80歳以上	480	6.4
UICC TNM分類総合ステージ*		
I期	4,832	64.0
II期	411	5.4
III期	923	12.2
IV期	601	8.0
不詳	56	0.7
空欄	722	9.6
観血的治療		
有	6,847	90.7
原発巣・治癒切除	6,153	81.6
原発巣・非治癒切除	391	5.2
原発巣・治癒/非治癒	303	4.0
癒の別不詳		
無	698	9.3
発見経緯		
がん検診	469	6.2
健康診断・人間ドック	157	2.1
他疾患経過観察中	1,155	15.3
その他・不明	5,764	76.4

*癌腫のみ対象(子宮内膜)、癌腫以外は空欄へ変換

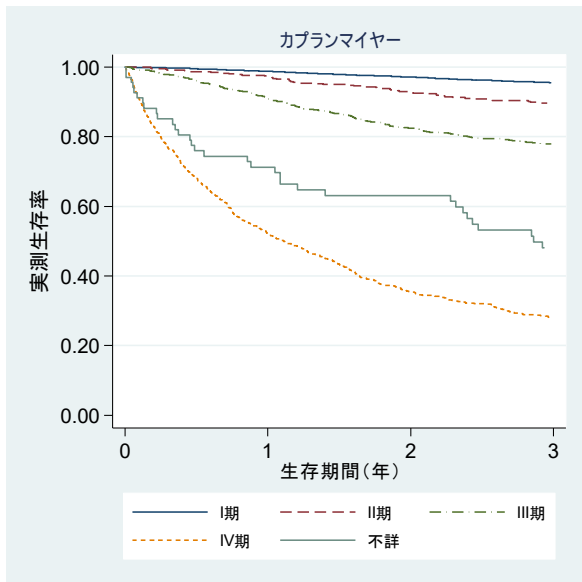
(3) 3年生存率

3年生存率を表3-10-2に示す。全体での3年実測生存率は約84%、相対生存率が約86%であった。UICC TNM分類総合ステージ別に相対生存率をみると、I期が約98%、II期が約92%、III期が約78%、IV期が約28%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、約90%であり、原発巣・治癒切除例では93%を超えていた。

表3-10-2 属性別3年生存率

	全体			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	83.8	85.6	84.8	86.5
拠点病院等	83.8	85.6	84.7	86.4
都道府県推薦病院	85.5	87.3	82.4	91.1
年齢				
15-39歳	93.1	93.2	90.2	95.3
40歳代	91.9	92.2	90.5	93.6
50歳代	88.8	89.5	88.1	90.7
60歳代	83.7	85.0	83.3	86.5
70歳代	75.8	79.0	76.3	81.4
80歳以上	52.8	61.7	56.3	66.8
UICC TNM分類総合ステージ*				
I期	95.6	97.5	96.9	98.1
II期	89.9	91.7	88.3	94.3
III期	76.7	78.3	75.4	81.0
IV期	27.3	28.0	24.4	31.7
不詳	49.8	53.8	39.1	67.0
観血的治療				
有	88.7	90.4	89.6	91.2
原発巣・治癒切除	91.9	93.7	92.9	94.3
原発巣・非治癒切除	43.3	44.2	39.1	49.2
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	82.3	84.0	79.1	88.0
無	35.4	37.4	33.6	41.2

*癌腫のみ対象(子宮内膜)



11. 前立腺(C61)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2013	325	29,755	2,867	515	98.3

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、29,755 例で、3 年以内に亡くなっていたのが 2,867 例、打ち切りが 515 例であった。集計対象全体で生存状況把握割合は 98.3%であった。

(2) 対象者の属性

集計対象の属性を表 3-11-1 に示す。診断時の年齢は、70 歳代が約 45%、80 歳以上が約 15%で、70 歳以上が半数以上を占めた。UICC TNM 分類総合ステージの分布をみると、I 期が最も多く約 40%であった。観血的治療の実施割合は、約 31%であった。発見経緯を見ると、がん検診が約 19%、健康診断・人間ドックが約 12%であった。

表 3-11-1 対象者の属性

	全体	
	症例数	(%)
全体	29,755	100.0
拠点病院等	27,866	93.7
都道府県推薦病院	1,889	6.3
年齢		
平均年齢 (SD)	71.4	(SD: 7.8)
15-39 歳	(4-6)	
40 歳代	58	0.2
50 歳代	1,751	5.9
60 歳代	10,166	34.2
70 歳代	13,339	44.8
80 歳以上	4,437	14.9
UICC TNM 分類総合ステージ*		
I 期	11,759	39.5
II 期	8,518	28.6
III 期	4,494	15.1
IV 期	4,524	15.2
不詳	376	1.3
空欄	84	0.3
観血的治療		
有	9,142	30.7
原発巣・治癒切除	7,539	25.3
原発巣・非治癒切除	1,331	4.5
原発巣・治癒/非治癒	272	0.9
癒の別不詳		
無	20,613	69.3
発見経緯		
がん検診	5,505	18.5
健康診断・人間ドック	3,418	11.5
他疾患経過観察中	11,029	37.1
その他・不明	9,803	32.9

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

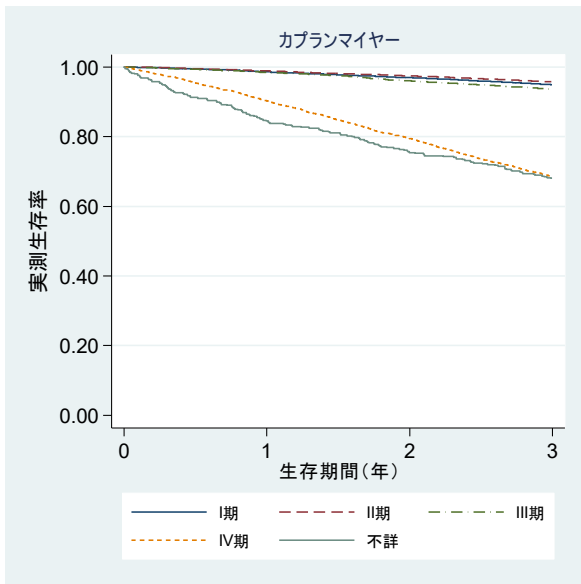
(3) 3 年生存率

3 年生存率を表 3-11-2 に示す。全体として、3 年実測生存率は、約 90%、相対生存率が約 99%であった。年代が高くなるほど、実測生存率と相対生存率の差が大きくなり、高齢になるほど前立腺がん以外の要因で死亡させている例が多いと考えられた。3 年相対生存率は、どの年代も 95%以上と高い。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、I 期から III 期では、相対生存率は 100%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、治癒切除、非治癒切除例に関わらずほぼ 100%であった。

表 3-11-2 属性別 3 年生存率

	全体			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	90.3	99.1	98.8	99.5
拠点病院等	90.3	99.1	98.7	99.5
都道府県推薦病院	90.4	99.9	98.4	100.0
年齢				
40 歳代	96.6	97.3	87.5	99.8
50 歳代	97.0	98.6	97.7	99.4
60 歳代	95.6	99.5	99.0	99.9
70 歳代	91.5	100.0	99.7	100.0
80 歳以上	71.7	94.8	93.0	96.5
UICC TNM 総合ステージ*				
I 期	94.8	100.0	100.0	100.0
II 期	95.6	100.0	100.0	100.0
III 期	93.3	100.0	100.0	100.0
IV 期	67.9	76.7	75.2	78.3
不詳	67.0	82.2	76.0	87.7
観血的治療				
有	97.7	100.0	100.0	100.0
原発巣・治癒切除	97.9	100.0	100.0	100.0
原発巣・非治癒切除	97.5	100.0	100.0	100.0
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	94.0	100.0	96.8	100.0
無	87.0	97.3	96.8	97.8

*癌腫のみ対象



12. 膀胱(C67)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2013	322	7,127	2,521	154	97.8

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、7,127例で、3年以内に亡くなっていた者が2,521例、打ち切りが154例であった。集計対象全体で生存状況把握割合は、97.8%であった。

(2) 対象者の属性

集計対象の属性を表3-12-1に示す。性別で見ると、男性が約77%、女性が約23%であった。診断時の年齢分布をみると、70歳代が最も多く約34%、80歳以上が約32%、6割以上が70歳以上であった。UICC TNM分類総合ステージの分布をみると、I期が約55%と半数以上を占めた。観血的治療の実施割合は、約85%であった。発見経緯を見ると、他疾患経過観察中が約24%であった。

表3-12-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	5,490	100.0	1,637	100.0	7,127	100.0
拠点病院等	5,106	93.0	1,512	92.4	6,618	92.9
都道府県推薦病院	384	7.0	125	7.6	509	7.1
年齢						
平均年齢 (SD)	72.8	(SD:10.4)	75.4	(SD:11.5)	73.4	(SD:10.8)
0-14歳	(1-3)		(1-3)		(1-3)	
15-39歳	27	0.5	14	0.9	41	0.6
40歳代	103	1.9	36	2.2	139	2.0
50歳代	392	7.1	83	5.1	475	6.7
60歳代	1,425	26.0	312	19.1	1,737	24.4
70歳代	1,952	35.6	497	30.4	2,449	34.4
80歳以上	1,589	28.9	694	42.4	2,283	32.0
UICC TNM分類総合ステージ*						
I期	3,138	57.2	747	45.6	3,885	54.5
II期	1,000	18.2	352	21.5	1,352	19.0
III期	500	9.1	195	11.9	695	9.8
IV期	639	11.6	267	16.3	906	12.7
不詳	183	3.3	59	3.6	242	3.4
空欄	30	0.5	17	1.0	47	0.7
観血的治療						
有	4,754	86.6	1,330	81.2	6,084	85.4
原発巣・治癒切除	3,561	64.9	961	58.7	4,522	63.4
原発巣・非治癒切除	620	11.3	197	12.0	817	11.5
原発巣・治癒/非治癒	573	10.4	172	10.5	745	10.5
の別不詳						
無	736	13.4	307	18.8	1,043	14.6
発見経緯						
がん検診	43	0.8	0	0.0	43	0.6
健康診断・人間ドック	165	3.0	29	1.8	194	2.7
他疾患経過観察中	1,326	24.2	355	21.7	1,681	23.6
その他・不明	3,956	72.1	1,253	76.5	5,209	73.1

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

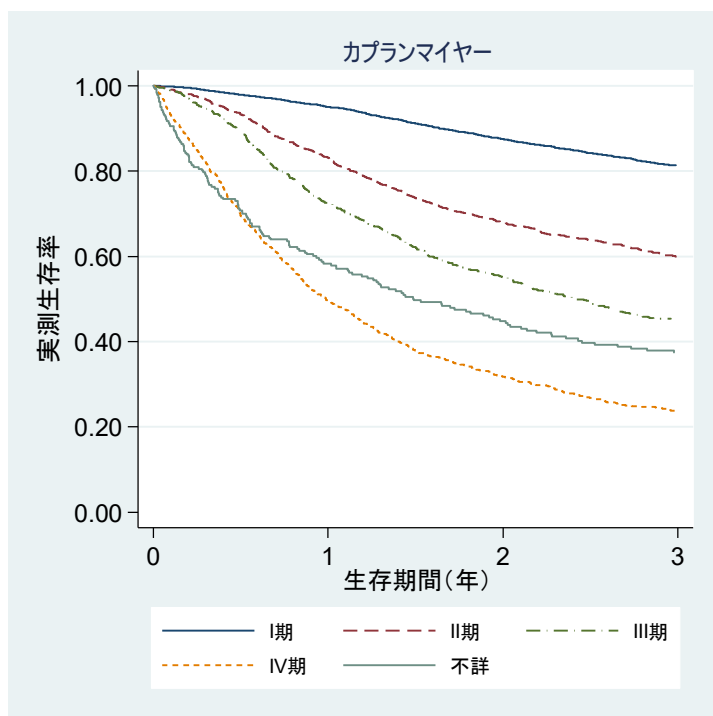
(3) 3年生存率

3年生存率を表3-12-2に示す。全体の3年実測生存率は約64%、相対生存率が約72%であった。70歳代以上では、実測生存率と相対生存率の差が大きくなっていた。年代別にみた相対生存率は、全体としては70歳代まで70%以上であるが、80歳以上では約61%であった。UICC TNM分類総合ステージ別に相対生存率をみると、全体でI期が約91%、II期が約67%、III期が約51%、IV期が約25%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は約80%で、その内原発巣・治癒切除例では約86%であった。

表3-12-2 属性別3年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	66.1	74.9	73.5	76.3	57.9	63.6	60.9	66.2	64.2	72.3	71.0	73.5
拠点病院等	66.1	74.9	73.4	76.3	58.4	64.0	61.2	66.7	64.3	72.4	71.1	73.7
都道府県推薦病院	66.8	75.4	69.7	80.5	51.7	57.9	47.6	67.4	63.1	71.1	66.1	75.7
年齢												
15-39歳	-	-			-	-			76.7	76.9	60.1	87.3
40歳代	84.3	84.8	76.1	90.7	74.1	74.3	56.2	85.9	81.7	82.2	74.5	87.7
50歳代	86.6	88.0	84.1	91.0	80.6	81.2	70.8	88.3	85.5	86.8	83.2	89.7
60歳代	76.6	79.6	77.2	81.8	72.6	73.8	68.3	78.4	75.9	78.5	76.4	80.6
70歳代	68.5	75.5	73.1	77.7	62.8	65.7	61.0	70.0	67.3	73.4	71.3	75.4
80歳以上	47.3	64.5	61.1	67.8	43.6	53.5	48.9	58.0	46.2	61.1	58.3	63.8
UICC TNM 分類総合ステージ*												
I期	81.0	92.02	90.4	93.53	79.4	86.97	83.58	89.98	80.7	91.0	89.6	92.4
II期	61.7	69.95	66.4	73.29	52.2	58	51.98	63.7	59.2	66.8	63.8	69.8
III期	46.5	52.13	47.1	56.97	43.5	47.77	39.96	55.34	45.6	50.9	46.7	55.0
IV期	23.2	25.41	21.9	29.08	21.8	23.27	18.11	28.86	22.8	24.8	21.8	27.8
不詳	37.9	45.13	36.6	53.57	27.9	33.59	20.59	47.85	35.5	42.4	35.1	49.7
観血的治療												
有	72.2	81.4	79.9	82.8	66.7	72.8	69.9	75.5	71.0	79.5	78.2	80.8
原発巣・治癒切除	77.3	86.7	85.1	88.2	74.5	80.8	77.7	83.7	76.7	85.5	84.0	86.8
原発巣・非治癒切除	45.3	52.4	47.7	56.9	36.0	40.2	32.7	47.7	43.0	49.4	45.4	53.3
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	69.8	79.1	74.6	83.2	58.2	64.2	55.5	72.0	67.2	75.7	71.7	79.4
無	26.5	31.5	27.7	35.3	18.6	21.6	16.7	27.0	24.2	28.6	25.5	31.7

*癌腫のみ対象



13. 喉頭(C32.0, 32.1, 32.2, 10.1)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2013	286	3,047	659	73	97.6

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、3,047例で、3年以内に亡くなっていたのが659例、打ち切りが73例であった。集計対象全体で生存状況把握割合は、97.6%であった。

(2) 対象者の属性

集計対象の属性を表3-13-1に示す。性別で見ると、男性が約93%、女性が約7%であった。診断時の年齢分布をみると、70歳代・60歳代で7割以上を占めた。UICC TNM分類総合ステージの分布をみると、I期が約40%を占めた。観血的治療の実施割合は、約29%であった。発見経緯を見ると、他疾患経過観察中が約15%であった。

表3-13-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	2,847	100.0	200	100.0	3,047	100.0
拠点病院等	2,783	97.8	197	98.5	2,980	97.8
都道府県推薦病院	64	2.2	(1-3)	1.5	67	2.2
年齢						
平均年齢 (SD)	70.4	9.5	69.2	10.7	70.4	9.5
15-39歳	(4-6)		(4-6)		10	0.3
40歳代	48	1.7	(1-3)		51	1.7
50歳代	264	9.3	24	12.0	288	9.5
60歳代	1,004	35.3	63	31.5	1,067	35.0
70歳代	1,021	35.9	76	38.0	1,097	36.0
80歳以上	504	17.7	30	15.0	534	17.5
UICC TNM分類総合ステージ*						
I期	1,144	40.2	70	35.0	1,214	39.8
II期	655	23.0	40	20.0	695	22.8
III期	429	15.1	30	15.0	459	15.1
IV期	570	20.0	48	24.0	618	20.3
不詳	27	0.9	(4-6)		32	1.1
空欄	22	0.8	(7-9)		29	1.0
観血的治療						
有	831	29.2	59	29.5	890	29.2
原発巣・治癒切除	691	24.3	51	25.5	742	24.4
原発巣・非治癒切除	73	2.6	(7-9)		80	2.6
原発巣・治癒/非治癒	67	2.4	(1-3)		68	2.2
の別不詳						
無	2,016	70.8	141	70.5	2,157	70.8
発見経緯						
がん検診	(4-6)		0	0.0	(4-6)	
健康診断・人間ドック	27	0.9	0	0.0	27	0.9
他疾患経過観察中	412	14.5	31	15.5	443	14.5
その他・不明	2,403	84.4	169	84.5	2,572	84.4

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

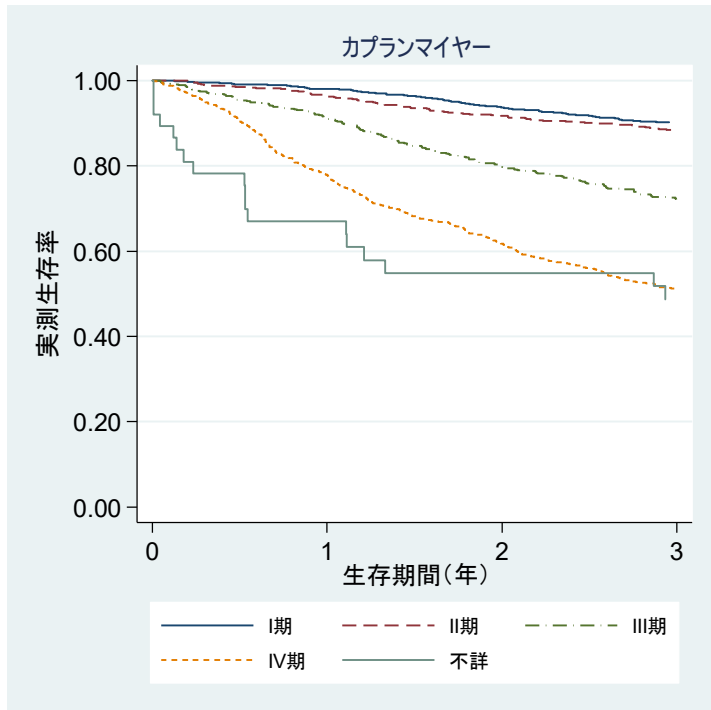
(3) 3年生存率

2013年診断例の3年生存率を表3-13-2に示す。全体の3年実測生存率は約78%、相対生存率が約86%であった。70歳代以上では、実測生存率と相対生存率の差が大きくなっていた。年代別にみた相対生存率は、どの年代においても80%以上であった。UICC TNM分類総合ステージ別に相対生存率をみると、全体でI期が約99%、II期が約96%、III期が約78%、IV期が約54%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、約85%で、その内原発巣・治癒切除例では約86%であった。

表 3-13-2 属性別 3年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	77.5	85.3	83.5	86.9	86.3	90.1	84.2	94.4	78.1	85.6	84.0	87.2
拠点病院等	77.5	85.2	83.5	86.9	86.1	89.9	84.0	94.3	78.0	85.6	83.9	87.2
都道府県推薦病院	79.5	87.7	74.3	96.6	-	-	-	-	80.5	88.4	75.5	96.8
年齢												
40歳代	93.7	94.3	82.3	98.6					92.1	92.7	80.8	97.6
50歳代	86.2	87.6	82.7	91.3					87.3	88.7	84.2	92.1
60歳代	81.6	84.8	82.2	87.2	92.1	93.5	83.3	98.1	82.2	85.4	82.8	87.6
70歳代	78.2	85.7	82.7	88.3	87.9	91.6	81.3	97.5	78.8	86.1	83.3	88.6
80歳以上	61.7	83.4	77.3	89.0	61.4	72.7	48.7	90.6	61.7	82.7	76.9	88.1
UICC TNM 分類総合ステージ*												
I期	89.4	98.9	96.8	100.0	94.3	98.4	89.1	100.0	89.7	98.9	96.8	100.0
II期	87.4	95.4	92.3	98.0	97.5	100.0	87.2	100.0	87.9	95.8	92.9	98.2
III期	69.7	77.3	72.2	81.9	86.1	90.7	70.6	99.6	70.7	78.2	73.3	82.6
IV期	48.8	53.1	48.5	57.5	67.7	69.7	53.7	81.4	50.3	54.4	50.0	58.7
不詳	54.2	61.3	38.0	80.1	-	-	-	-	52.0	58.4	37.6	76.1
観血的治療												
有	76.5	84.3	81.0	87.4	89.7	93.0	81.4	98.8	77.3	84.9	81.7	87.8
原発巣・治癒切除	77.2	85.2	81.5	88.5	88.0	91.4	78.1	98.1	77.9	85.7	82.2	88.8
原発巣・非治癒切除	69.1	74.8	61.7	84.9	-	-	-	-	71.9	77.5	65.2	86.8
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	77.4	85.3	72.0	94.5	-	-	-	-	77.7	85.5	72.4	94.6
無	78.0	85.7	83.6	87.6	84.9	88.9	81.4	94.1	78.4	85.9	83.9	87.8

*癌腫のみ対象



14. 胆嚢(C23.9)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2013	326	2,832	1,943	47	98.3

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、2,832例で、3年以内に亡くなっていたのが1,943例、打ち切りが47例であった。集計対象全体で生存状況把握割合は、98.3%であった。

(2) 対象者の属性

集計対象の属性を表3-14-1に示す。性別で見ると、男性が約45%、女性が約55%であった。診断時の年齢分布をみると、70歳代が約35%、80歳以上が約34%であった。UICC TNM分類総合ステージの分布をみると、IV期が約49%を占めた。観血的治療の実施割合は、約44%であった。発見経緯を見ると、他疾患経過観察中が約38%であった。

表3-14-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	1,276	100.0	1,556	100.0	2,832	100.0
拠点病院等	1,212	95.0	1,457	93.6	2,669	94.2
都道府県推薦病院	64	5.0	99	6.4	163	5.8
年齢						
平均年齢 (SD)	74	10.1	75	10.8	74	10.5
15-39歳	(1-3)		(4-6)		(7-9)	0.2
40歳代	25	2.0	22	1.4	47	1.7
50歳代	80	6.3	106	6.8	186	6.6
60歳代	304	23.8	323	20.8	627	22.1
70歳代	464	36.4	537	34.5	1,001	35.3
80歳以上	401	31.4	563	36.2	964	34.0
UICC TNM分類総合ステージ*						
I期	195	15.3	192	12.3	387	13.7
II期	193	15.1	213	13.7	406	14.3
III期	244	19.1	295	19.0	539	19.0
IV期	603	47.3	788	50.6	1,391	49.1
不詳	35	2.7	51	3.3	86	3.0
空欄	(7-9)		17	1.1	23	0.8
観血的治療						
有	589	46.2	660	42.4	1,249	44.1
原発巣・治癒切除	491	38.5	541	34.8	1,032	36.4
原発巣・非治癒切除	83	6.5	105	6.7	188	6.6
原発巣・治癒/非治癒	15	1.2	14	0.9	29	1.0
の別不詳						
無	687	53.8	896	57.6	1,583	55.9
発見経緯						
がん検診	10	0.8	(7-9)		19	0.7
健康診断・人間ドック	70	5.5	67	4.3	137	4.8
他疾患経過観察中	505	39.6	570	36.6	1,075	38.0
その他・不明	691	54.2	910	58.5	1,601	56.5

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

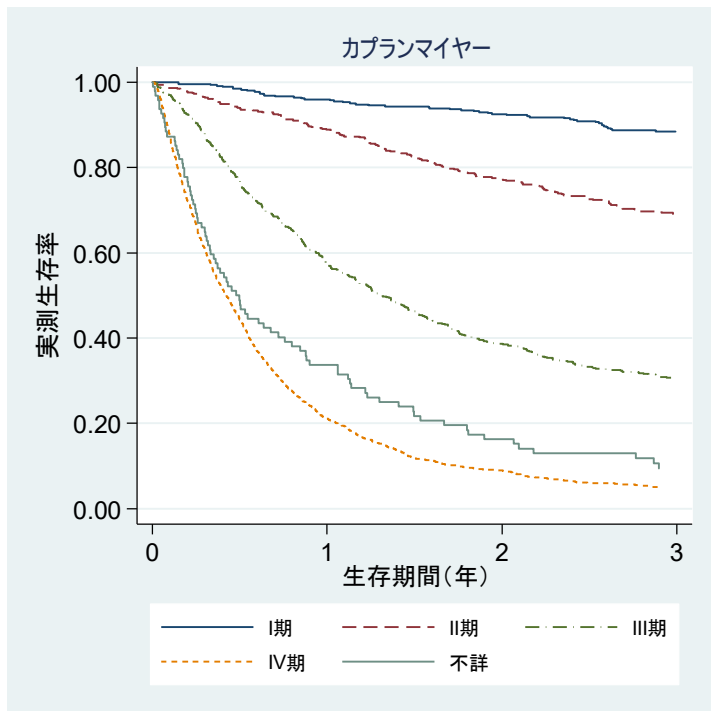
(3) 3年生存率

2013年診断例の3年生存率を表3-14-2に示す。全体の3年実測生存率は約31%、相対生存率が約34%であった。年代別にみた相対生存率は、40歳代と80歳以上を除き30%台であった。UICC TNM分類総合ステージ別に相対生存率をみると、全体でI期が約96%、II期が約75%、III期が約34%、IV期が約6%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、約70%で、その内原発巣・治癒切除例では約78%であった。

表 3-14-2 属性別 3年生存率

	男性			女性			全体					
	実測	相対	95%信頼区間	実測	相対	95%信頼区間	実測	相対	95%信頼区間			
全体	31.7	35.9	33.0	38.8	30.0	32.5	30.0	35.0	30.8	34.0	32.1	35.9
拠点病院等	31.6	35.7	32.8	38.7	29.2	31.6	29.1	34.2	30.3	33.5	31.6	35.4
都道府県推薦病院	33.7	38.0	25.2	51.2	42.1	45.3	34.6	55.6	38.8	42.5	34.2	50.7
年齢												
15-39歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	40.1	40.3	26.2	53.9
50歳代	39.0	39.6	28.7	50.4	36.7	37.0	27.8	46.2	37.7	38.1	31.0	45.1
60歳代	37.7	39.2	33.5	44.9	31.3	31.8	26.7	36.9	34.4	35.3	31.5	39.2
70歳代	33.9	37.4	32.7	42.2	33.7	35.2	31.0	39.5	33.8	36.2	33.1	39.4
80歳以上	21.5	28.8	23.6	34.4	24.7	29.8	25.6	34.2	23.4	29.4	26.1	32.8
UICC TNM分類総合ステージ*												
I期	84.9	95.2	88.6	100.0	89.5	96.8	91.0	100.0	87.2	96.0	91.8	99.3
II期	63.6	73.3	65.0	80.6	71.0	76.6	69.4	82.7	67.5	75.0	69.7	79.9
III期	30.0	33.8	27.4	40.4	31.5	34.3	28.5	40.1	30.9	34.0	29.7	38.4
IV期	5.6	6.2	4.4	8.6	5.0	5.3	3.9	7.2	5.3	5.7	4.5	7.1
不詳	12.1	14.5	4.6	30.5	12.2	14.6	5.9	27.3	12.1	14.5	7.5	24.1
観血的治療												
有	62.8	70.4	65.9	74.7	65.1	69.7	65.6	73.4	64.0	70.0	67.0	72.9
原発巣・治癒切除	69.6	78.0	73.2	82.3	72.7	77.8	73.5	81.6	71.2	77.9	74.7	80.8
原発巣・非治癒切除	26.5	29.5	19.5	40.3	28.8	30.6	21.7	40.2	27.7	30.1	23.3	37.2
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無	4.6	5.3	3.6	7.3	4.0	4.5	3.2	6.1	4.3	4.8	3.8	6.1

*癌腫のみ対象



15. 腎(C64.9)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2013	325	7,903	1,528	194	97.5

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、7,903例で、3年以内に亡くなっていたのが1,528例、打ち切りが194例であった。集計対象全体で生存状況把握割合は、97.5%であった。

(2) 対象者の属性

集計対象の属性を表3-15-1に示す。性別で見ると、男性が70.6%、女性が29.4%であった。診断時の年齢分布をみると、60歳代が約31%、70歳代が約30%であった。UICC TNM分類総合ステージの分布をみると、I期が約68%を占めた。観血的治療の実施割合は、約83%であった。発見経緯を見ると、他疾患経過観察中が約51%であった。

表3-15-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	5,577	100.0	2,326	100.0	7,903	100.0
拠点病院等	5,315	95.3	2,237	96.2	7,552	95.6
都道府県推薦病院	262	4.7	89	3.8	351	4.4
年齢						
平均年齢 (SD)	65.5	12.3	66.7	13.4	65.8	12.6
0-14歳	(7-9)		(7-9)		16	0.2
15-39歳	139	2.5	74	3.2	213	2.7
40歳代	471	8.4	150	6.4	621	7.9
50歳代	921	16.5	360	15.5	1,281	16.2
60歳代	1,767	31.7	665	28.6	2,432	30.8
70歳代	1,631	29.2	705	30.3	2,336	29.6
80歳以上	641	11.5	363	15.6	1,004	12.7
UICC TNM分類総合ステージ*						
I期	3,784	67.9	1,567	67.4	5,351	67.7
II期	233	4.2	139	6.0	372	4.7
III期	684	12.3	253	10.9	937	11.9
IV期	755	13.5	303	13.0	1,058	13.4
不詳	41	0.7	19	0.8	60	0.8
空欄	80	1.4	45	1.9	125	1.6
観血的治療						
有	4,640	83.2	1,906	81.9	6,546	82.8
原発巣・治癒切除	4,331	77.7	1,808	77.7	6,139	77.7
原発巣・非治癒切除	192	3.4	62	2.7	254	3.2
原発巣・治癒/非治癒	117	2.1	36	1.5	153	1.9
の別不詳						
無	937	16.8	420	18.1	1,357	17.2
発見経緯						
がん検診	75	1.3	28	1.2	103	1.3
健康診断・人間ドック	833	14.9	286	12.3	1,119	14.2
他疾患経過観察中	2,904	52.1	1,156	49.7	4,060	51.4
その他・不明	1,765	31.6	856	36.8	2,621	33.2

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

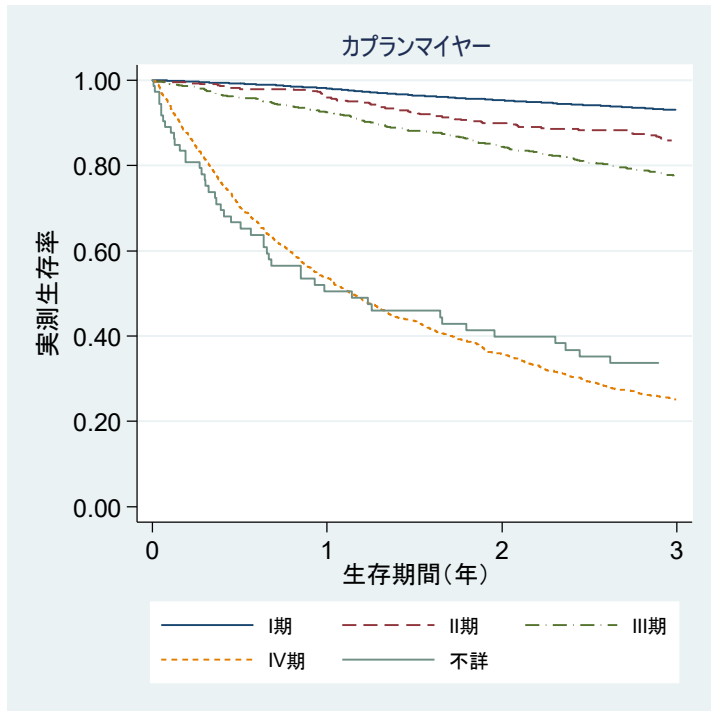
(3) 3年生存率

2013年診断例の3年生存率を表3-15-2に示す。全体の3年実測生存率は約80%、相対生存率が約86%であった。年代別にみた相対生存率は、80歳以上を除き80%以上であった。UICC TNM分類総合ステージ別に相対生存率をみると、全体でI期が約98%、II期が約90%、III期が約83%、IV期が約26%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、約94%で、その内原発巣・治癒切除例では約96%であった。

表3-15-2 属性別3年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	79.9	85.6	84.4	86.7	81.8	85.3	83.6	86.9	80.4	85.5	84.6	86.4
拠点病院等	79.8	85.5	84.3	86.7	82.1	85.6	83.8	87.2	80.5	85.6	84.6	86.5
都道府県推薦病院	80.8	86.9	81.1	91.6	75.8	78.8	67.9	86.8	79.6	84.8	79.9	89.0
年齢												
15-39歳	92.5	92.8	86.8	96.2	90.2	90.3	80.6	95.3	91.7	91.9	87.2	95.0
40歳代	89.7	90.2	87.0	92.6	93.3	93.6	88.2	96.7	90.5	91.0	88.4	93.1
50歳代	86.0	87.3	84.8	89.4	87.9	88.6	84.7	91.6	86.5	87.7	85.6	89.5
60歳代	82.6	85.7	83.8	87.5	83.4	84.7	81.5	87.3	82.8	85.4	83.8	86.9
70歳代	76.7	84.2	81.9	86.4	81.9	85.6	82.4	88.4	78.3	84.7	82.8	86.4
80歳以上	61.6	80.3	75.2	85.1	65.8	77.4	71.3	82.8	63.2	79.2	75.4	82.9
UICC TNM分類総合ステージ*												
I期	92.1	98.3	97.4	99.2	94.1	97.9	96.5	99.0	92.7	98.2	97.4	98.9
II期	82.2	88.2	82.2	92.9	91.2	94.1	87.7	97.9	85.6	90.4	86.2	93.8
III期	77.7	84.3	80.7	87.5	74.7	78.8	72.6	84.0	76.9	82.8	79.7	85.6
IV期	23.6	25.4	22.2	28.7	24.9	26.2	21.2	31.6	24.0	25.6	22.9	28.5
不詳	32.7	37.4	21.6	54.1	-	-			32.3	37.0	23.9	50.7
観血的治療												
有	88.2	93.7	92.7	94.7	91.6	94.7	93.4	96.0	89.2	94.0	93.2	94.8
原発巣・治癒切除	90.7	96.3	95.3	97.2	93.1	96.3	95.0	97.4	91.4	96.3	95.5	97.0
原発巣・非治癒切除	44.4	47.1	39.5	54.5	50.0	51.8	38.4	63.8	45.8	48.3	41.7	54.7
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	68.1	73.1	63.1	81.3	-	-			73.1	77.4	69.1	84.1
無	38.5	43.9	40.3	47.4	37.3	41.0	35.8	46.1	38.1	43.0	40.0	45.9

*癌腫のみ対象



16. 腎盂尿管(C65.9, 66.9)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2013	319	3,080	1,505	66	97.9

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、3,080例で、3年以内に亡くなっていたのが1,505例、打ち切りが66例であった。集計対象全体で生存状況把握割合は、97.9%であった。

(2) 対象者の属性

集計対象の属性を表3-16-1に示す。性別で見ると、男性が約66%、女性が約34%であった。診断時の年齢分布をみると、70歳代が最も多く約37%、80歳以上が約31%であった。UICC TNM分類総合ステージの分布をみると、IV期が約34%を占めた。観血的治療の実施割合は、約66%であった。発見経緯を見ると、他疾患経過観察中が約33%であった。

表3-16-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	2,036	100.0	1,044	100.0	3,080	100.0
拠点病院等	1,923	94.4	975	93.4	2,898	94.1
都道府県推薦病院	113	5.6	69	6.6	182	5.9
年齢						
平均年齢 (SD)	72.8	9.5	75.7	9.6	73.8	9.6
15-39歳	(4-6)		(4-6)		(7-9)	
40歳代	25	1.2	(4-6)		31	1.0
50歳代	138	6.8	43	4.1	181	5.9
60歳代	537	26.4	204	19.5	741	24.1
70歳代	788	38.7	363	34.8	1,151	37.4
80歳以上	543	26.7	424	40.6	967	31.4
UICC TNM分類総合ステージ*						
I期	408	20.0	173	16.6	581	18.9
II期	302	14.8	138	13.2	440	14.3
III期	577	28.3	271	26.0	848	27.5
IV期	640	31.4	393	37.6	1,033	33.5
不詳	96	4.7	63	6.0	159	5.2
空欄	13	0.6	(4-6)		19	0.6
観血的治療						
有	1,389	68.2	649	62.2	2,038	66.2
原発巣・治癒切除	1,215	59.7	562	53.8	1,777	57.7
原発巣・非治癒切除	126	6.2	61	5.8	187	6.1
原発巣・治癒/非治癒	48	2.4	26	2.5	74	2.4
の別不詳						
無	647	31.8	395	37.8	1,042	33.8
発見経緯						
がん検診	(7-9)		(4-6)		12	0.4
健康診断・人間ドック	64	3.1	34	3.3	98	3.2
他疾患経過観察中	699	34.3	306	29.3	1,005	32.6
その他・不明	1,265	62.1	700	67.0	1,965	63.8

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

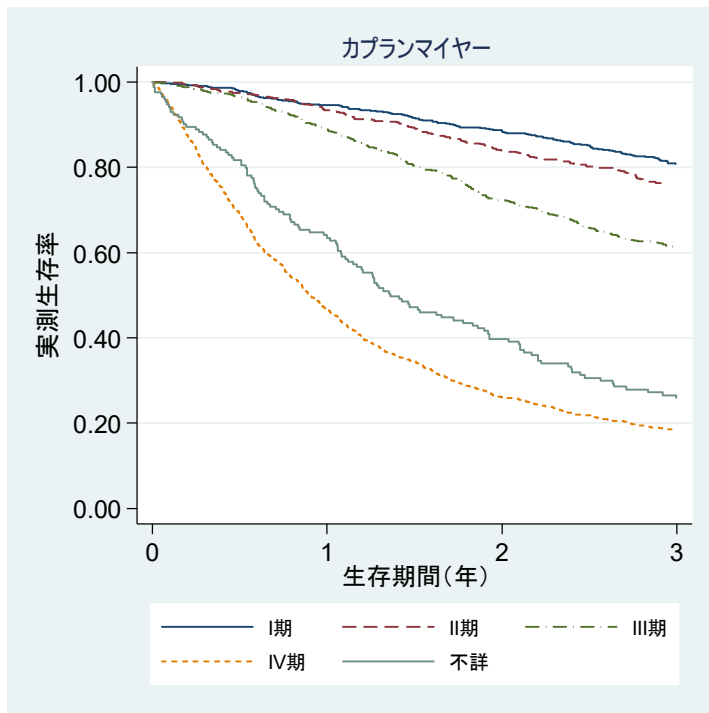
(3) 3年生存率

2013年診断例の3年生存率を表3-16-2に示す。全体の3年実測生存率は約51%、相対生存率が約56%であった。年代別にみた相対生存率は、50、60歳代では60%台、70歳代は50%台であった。UICC TNM分類総合ステージ別に相対生存率をみると、全体でⅠ期が約88%、Ⅱ期が約85%、Ⅲ期が約69%、Ⅳ期が約19%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、約75%で、その内原発巣・治癒切除例では約80%であった。

表3-16-2 属性別3年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	52.5	59.0	56.5	61.4	46.9	50.9	47.6	54.2	50.6	56.2	54.2	58.2
拠点病院等	52.2	58.7	56.1	61.2	46.4	50.3	46.9	53.7	50.2	55.8	53.8	57.9
都道府県推薦病院	57.2	64.2	53.2	73.9	54.9	59.7	45.8	71.7	56.4	62.5	54.0	70.2
年齢												
40歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	73.6	74.0	54.4	86.3
50歳代	66.8	67.9	59.1	75.2	62.4	62.9	46.5	75.6	65.8	66.7	59.1	73.2
60歳代	61.2	63.7	59.2	67.8	63.5	64.5	57.3	70.8	61.8	63.9	60.2	67.4
70歳代	52.9	58.4	54.5	62.2	50.3	52.6	47.1	57.9	52.1	56.5	53.3	59.6
80歳以上	38.6	51.2	45.8	56.7	33.4	39.7	34.4	45.1	36.4	46.0	42.1	49.9
UICC TNM分類総合ステージ*												
Ⅰ期	77.3	87.6	82.6	91.9	83.2	89.7	82.8	94.9	79.1	88.2	84.3	91.7
Ⅱ期	77.4	87.0	81.2	91.9	72.2	79.0	69.9	86.3	75.8	84.5	79.6	88.6
Ⅲ期	65.4	73.3	68.8	77.5	56.6	60.8	54.2	66.9	62.6	69.2	65.5	72.7
Ⅳ期	16.4	17.9	14.9	21.3	19.2	20.5	16.5	24.9	17.4	18.9	16.5	21.6
不詳	29.8	36.6	25.7	48.2	16.9	20.5	10.6	33.3	24.8	30.3	22.3	39.0
観血的治療												
有	69.4	76.9	74.1	79.6	66.6	71.3	67.2	75.0	68.5	75.1	72.8	77.3
原発巣・治癒切除	73.8	81.8	78.9	84.5	70.7	75.6	71.4	79.4	72.8	79.8	77.4	82.0
原発巣・非治癒切除	31.0	34.1	25.4	43.1	34.2	36.6	24.2	49.3	32.0	34.9	27.7	42.3
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	59.0	65.9	48.6	80.0	-	-	-	-	57.2	63.2	49.7	74.8
無	16.0	19.0	15.7	22.5	13.9	15.7	12.0	19.9	15.2	17.7	15.2	20.4

*癌腫のみ対象



17. 特別集計：年齢・総合病期別の生存率と精度管理指標（自施設の治療実施の有無）

1) 年齢・総合病期別の生存率（胃、大腸、肝、肺非小細胞癌、女性乳房）

生存率は、対象者の年齢が大きく影響することから、今回特別集計として、胃、大腸、肝、肺非小細胞、女性乳房について年齢・UICC TNM 分類総合ステージ別の生存率の集計を行った。対象は、自施設初回治療開始例、悪性新生物＜腫瘍＞、診断時の年齢が0～99歳である。UICC TNM 分類総合ステージⅠ～Ⅳ期別に算出していることから、組織型は癌腫のみを対象に集計した。なお、年齢・UICC TNM 分類総合ステージ別登録数では、癌腫以外は病期がその他に分類されている。

胃

2013年診断例において、70歳代が37.9%を占めていた。年齢階級によって総合ステージの分布には若干の差があり、70歳代ではⅠ期が64.0%と他の年代よりも多かった。年齢・総合ステージ別に生存率をみると、Ⅰ期では他死因を調整した相対生存率はどの年代においても95%を超えていた。Ⅱ期では、70歳未満では相対生存率が80%を超えているのに対し、70歳以降で相対生存率がやや低い傾向にあった。Ⅲ期では、70歳未満では相対生存率は60%を超えていた。Ⅳ期では、40～80歳未満において相対生存率は10～14%であった。

表 17-1-1 年齢・UICC TNM 分類総合ステージ別登録数：胃

	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期	不明	その他	総数
0～40歳未満	254	63	67	164	(1-3)	35	586
40～50歳未満	866	164	155	287	(7-9)	98	1,579
50～60歳未満	2,930	431	497	823	32	193	4,906
60～70歳未満	9,298	1,281	1,558	2,534	99	511	15,281
70～80歳未満	12,949	1,685	1,919	2,945	185	554	20,237
80歳以上	6,392	1,121	1,137	1,632	384	196	10,862

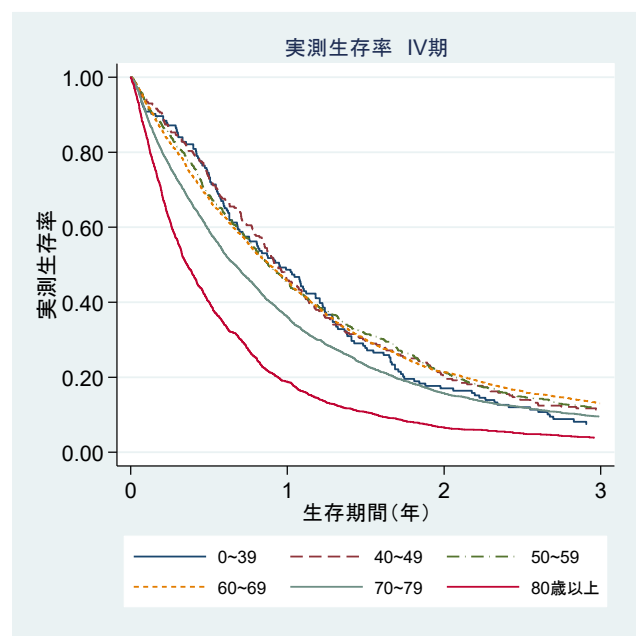
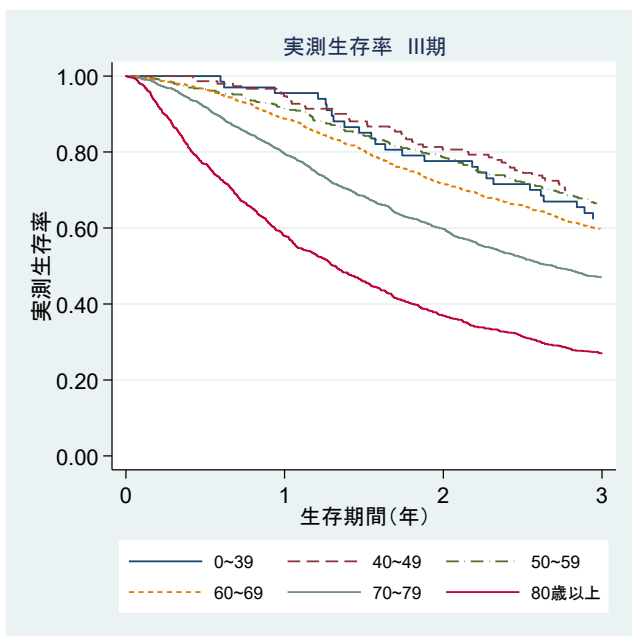
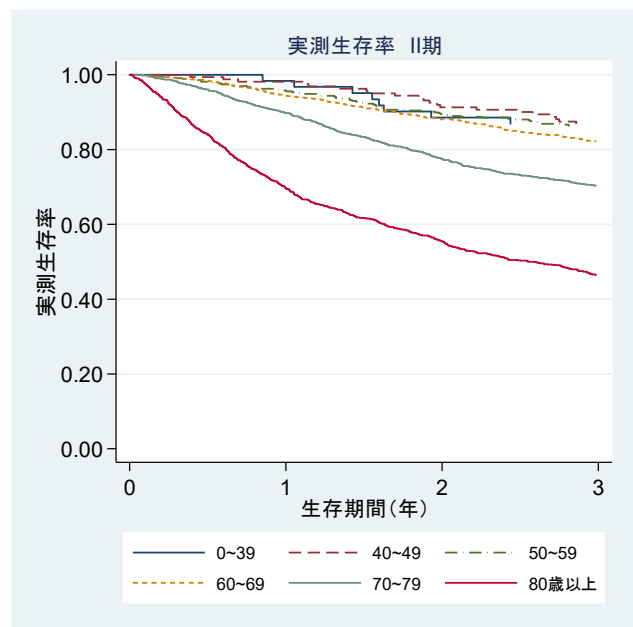
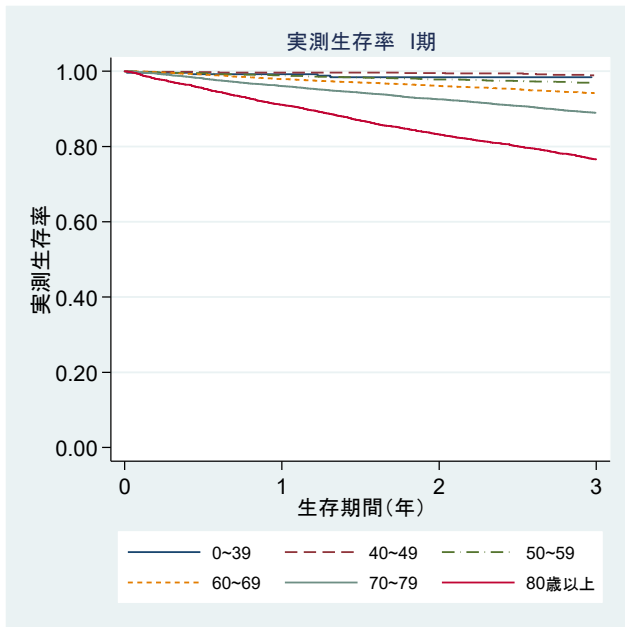
表 17-1-2 年齢・UICC TNM 分類総合ステージ別実測生存率と相対生存率：胃

Ⅰ期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0～40歳未満	254	98.4	98.6	96.0	99.6
40～50歳未満	866	99.0	99.4	98.5	99.9
50～60歳未満	2,930	97.0	98.3	97.6	98.9
60～70歳未満	9,298	94.2	97.4	96.9	97.9
70～80歳未満	12,949	89.0	96.5	95.9	97.1
80歳以上	6,392	76.6	97.0	95.6	98.3

Ⅱ期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0～40歳未満	63	86.9	87.1	75.7	93.4
40～50歳未満	164	86.9	87.3	81.0	91.7
50～60歳未満	431	86.2	87.3	83.7	90.3
60～70歳未満	1,281	82.1	84.8	82.5	86.9
70～80歳未満	1,685	70.3	76.3	73.8	78.6
80歳以上	1,121	46.5	58.7	55.0	62.4

Ⅲ期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0～40歳未満	67	62.5	62.7	49.9	73.1
40～50歳未満	155	69.7	70.1	61.9	76.8
50～60歳未満	497	66.4	67.3	62.8	71.3
60～70歳未満	1,558	59.8	61.7	59.2	64.2
70～80歳未満	1,919	47.0	50.9	48.5	53.3
80歳以上	1,137	27.1	34.1	30.8	37.4

IV期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0~40歳未満	164	7.5	7.5	4.1	12.4
40~50歳未満	287	11.2	11.2	7.8	15.3
50~60歳未満	823	12.0	12.1	10.0	14.5
60~70歳未満	2,534	13.1	13.5	12.2	14.9
70~80歳未満	2,945	9.6	10.3	9.2	11.5
80歳以上	1,632	4.0	5.0	3.9	6.3



大腸

胃と同様 70 歳代が 33.0%と最も多かった。年齢階級別の総合ステージの分布は大きな差がないが 80 歳代で II 期が 30.9%とやや多い傾向にあった。年齢・総合ステージ別に生存率をみると、I 期では、相対生存率はどの年代においても 93%を超えていた。II 期では、80 歳以上では相対生存率がやや低く 87.3%であった。III 期では、80 歳未満では相対生存率は 84%を超えていた。IV 期では、実測生存率と相対生存率との差が縮まり相対生存率は、70 歳未満でも 30~40%台であった。

表 17-2-1 年齢・UICC TNM 分類総合ステージ別登録数：大腸

	I 期	II 期	III 期	IV 期	不明	その他	総数
0~40 歳未満	145	146	204	185	(4-6)	95	779
40~50 歳未満	535	431	593	450	(7-9)	150	2,167
50~60 歳未満	1,422	1,146	1,522	1,181	27	191	5,489
60~70 歳未満	3,512	3,161	3,578	2,773	111	302	13,437
70~80 歳未満	4,205	4,137	3,949	2,711	178	210	15,390
80 歳以上	2,173	2,902	2,250	1,744	289	42	9,400

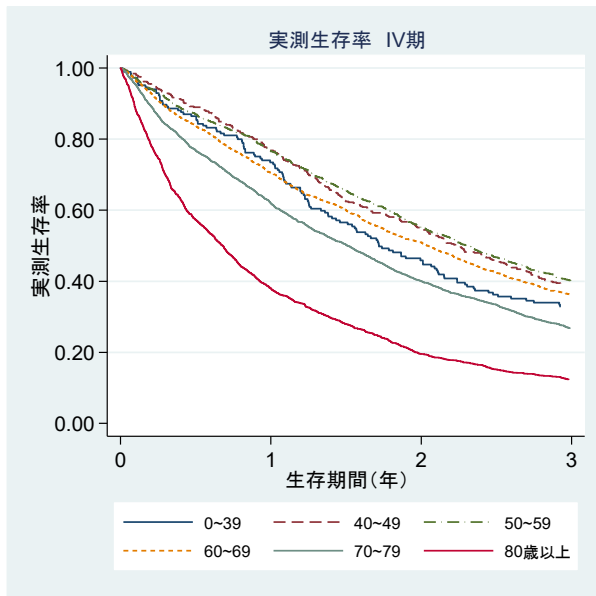
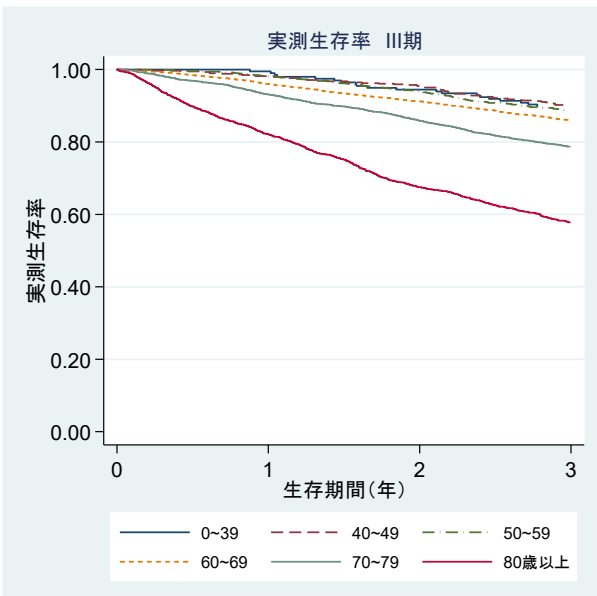
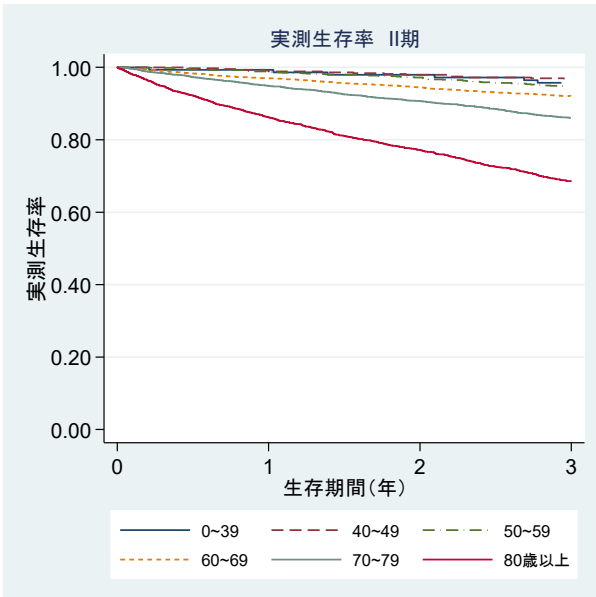
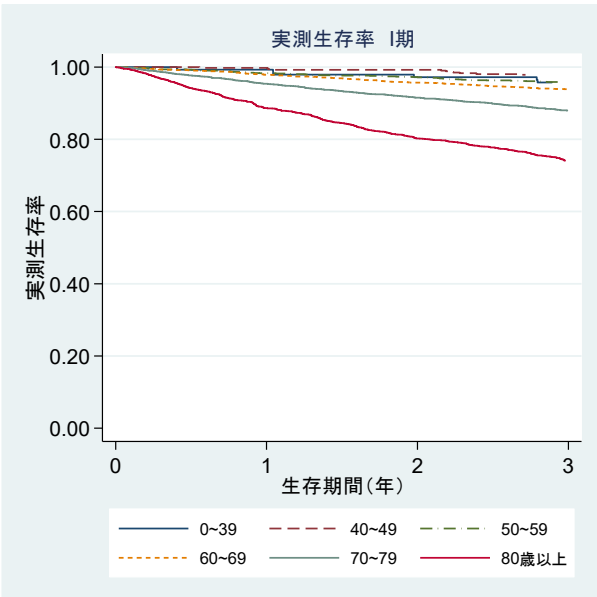
表 17-2-2 年齢・UICC TNM 分類総合ステージ別実測生存率と相対生存率：大腸

I 期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0~40 歳未満	145	95.8	96.0	91.0	98.3
40~50 歳未満	535	97.9	98.4	96.7	99.3
50~60 歳未満	1,422	95.8	97.0	95.8	97.9
60~70 歳未満	3,512	93.8	96.7	95.8	97.5
70~80 歳未満	4,205	88.0	94.7	93.6	95.7
80 歳以上	2,173	74.1	93.0	90.6	95.3

II 期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0~40 歳未満	146	95.7	95.9	90.8	98.2
40~50 歳未満	431	96.7	97.2	95.0	98.5
50~60 歳未満	1,146	94.5	95.7	94.2	96.9
60~70 歳未満	3,161	92.1	94.8	93.8	95.8
70~80 歳未満	4,137	86.0	92.6	91.4	93.7
80 歳以上	2,902	68.6	87.3	85.1	89.4

III 期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0~40 歳未満	204	89.9	90.0	84.9	93.5
40~50 歳未満	593	90.0	90.5	87.7	92.6
50~60 歳未満	1,522	88.7	89.7	88.0	91.3
60~70 歳未満	3,578	86.0	88.6	87.3	89.7
70~80 歳未満	3,949	78.7	84.6	83.1	85.9
80 歳以上	2,250	57.8	72.8	70.1	75.3

IV 期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0~40 歳未満	185	32.8	32.9	26.1	39.8
40~50 歳未満	450	38.9	39.0	34.5	43.6
50~60 歳未満	1,181	40.0	40.5	37.7	43.4
60~70 歳未満	2,773	36.0	37.1	35.3	39.0
70~80 歳未満	2,711	26.8	28.8	27.0	30.6
80 歳以上	1,744	12.5	15.7	13.8	17.8



肝

肝臓では、70歳代が39.1%を占めた。年齢階級別に総合ステージの分布をみると、大きな差はなかった。年齢・総合ステージ別に生存率をみると、I期では70歳未満では相対生存率は80%を超えていた。II期では、80歳未満では相対生存率は60%を超えていたが、80歳以上では54.7%にとどまった。III期では、相対生存率と実測生存率との差が縮まり、80歳未満であっても相対生存率は24～34%程度であった。IV期では、その年代においても低い傾向にあった。

表 17-3-1 年齢・UICC TNM 分類総合ステージ別登録数：肝

	I 期	II 期	III 期	IV 期	不明	その他	総数
0～40 歳未満	25	21	11	17	(1-3)	28	104
40～50 歳未満	99	96	67	74	(4-6)	11	351
50～60 歳未満	511	376	220	242	20	15	1,384
60～70 歳未満	1,658	1,206	611	639	65	40	4,219
70～80 歳未満	2,438	1,727	809	772	105	47	5,898
80 歳以上	1,298	770	534	391	118	34	3,145

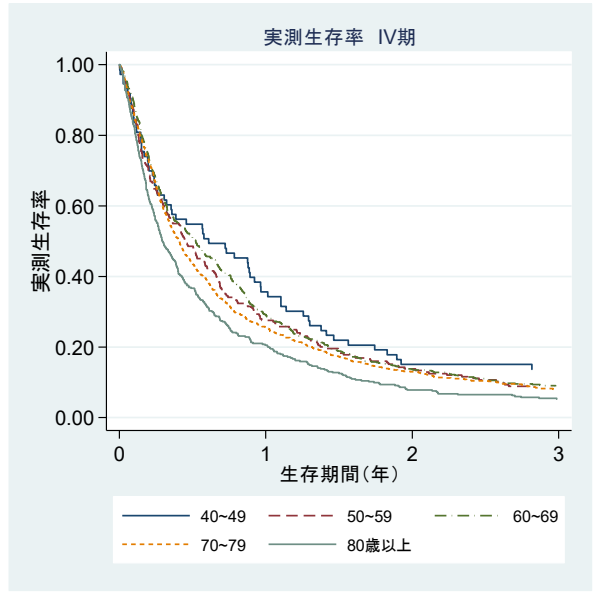
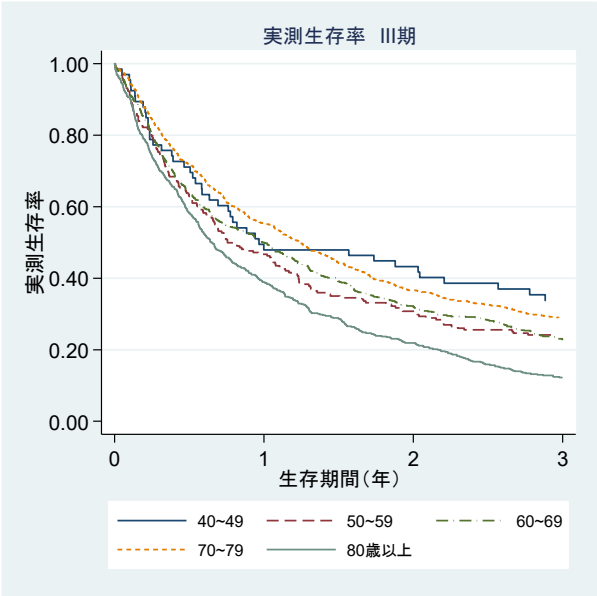
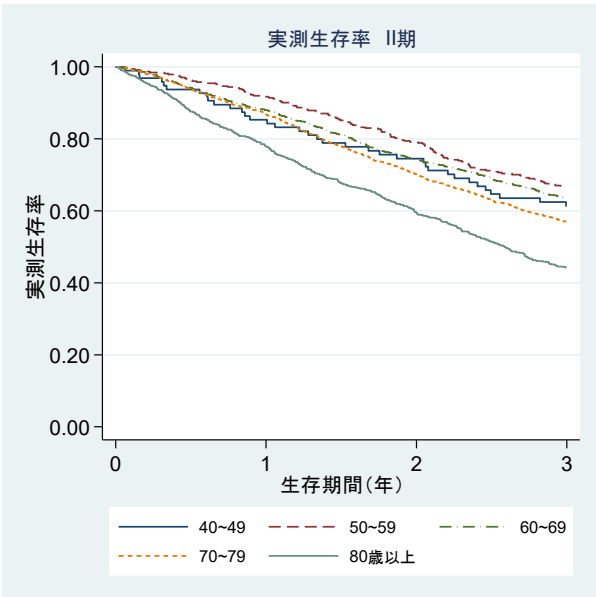
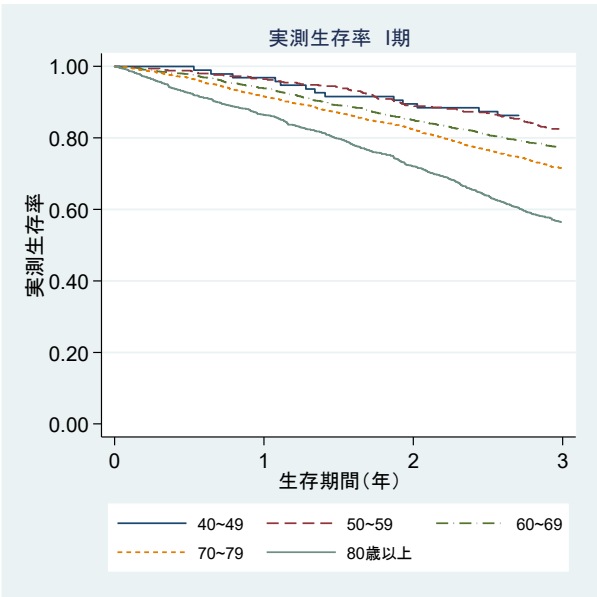
表 17-3-2 年齢・UICC TNM 分類総合ステージ別実測生存率と相対生存率：肝

I 期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0～40 歳未満	25	-	-	-	-
40～50 歳未満	99	86.4	86.8	78.1	92.4
50～60 歳未満	511	82.3	83.5	79.8	86.6
60～70 歳未満	1,658	77.4	80.0	77.8	82.0
70～80 歳未満	2,438	71.5	77.2	75.2	79.1
80 歳以上	1,298	56.5	70.1	66.6	73.4

II 期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0～40 歳未満	21	-	-	-	-
40～50 歳未満	96	61.4	61.8	51.1	70.9
50～60 歳未満	376	66.8	67.7	62.6	72.4
60～70 歳未満	1,206	63.5	65.6	62.7	68.4
70～80 歳未満	1,727	57.0	61.7	59.1	64.2
80 歳以上	770	44.2	54.7	50.3	59.1

III 期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0～40 歳未満	11	-	-	-	-
40～50 歳未満	67	34.2	34.4	23.2	46.0
50～60 歳未満	220	23.8	24.2	18.6	30.1
60～70 歳未満	611	22.8	23.7	20.2	27.3
70～80 歳未満	809	29.0	31.5	28.1	35.0
80 歳以上	534	12.3	15.6	12.2	19.4

IV 期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0～40 歳未満	17	-	-	-	-
40～50 歳未満	74	13.9	13.9	7.2	22.9
50～60 歳未満	242	8.8	8.9	5.6	13.1
60～70 歳未満	639	9.1	9.4	7.2	11.9
70～80 歳未満	772	7.9	8.6	6.6	10.8
80 歳以上	391	5.3	6.5	4.1	9.6



肺非小細胞

肺非小細胞癌では、70歳代が最も多かった。年齢階級別に総合ステージの分布をみると、若干ではあるが70歳代においてI期が44.4%と高かった。年齢・総合ステージ別に生存率をみると、I期では、70歳未満では相対生存率は93%を超えていた。II期では、60歳未満では相対生存率が80%を超えているのに対し、年代が高くなるほど低くなり80歳代では47.6%であった。III期でも、II期と同様60歳未満では相対生存率が54%を超えているのに対し、60歳以降では徐々に低下する傾向にあった。IV期では、50歳未満で25~26%、80歳未満では10数%であった。

表 17-4-1 年齢・UICC TNM 分類総合ステージ別登録数：肺非小細胞

	I 期	II 期	III 期	IV 期	不明	その他	総数
0~40 歳未満	110	18	52	100	(1-3)	22	304
40~50 歳未満	374	81	221	406	(1-3)	29	1,114
50~60 歳未満	1,606	321	755	1,217	25	38	3,962
60~70 歳未満	5,462	1,153	2,413	4,157	98	76	13,359
70~80 歳未満	7,148	1,550	2,644	4,519	186	68	16,115
80 歳以上	3,293	710	1,241	2,920	338	23	8,525

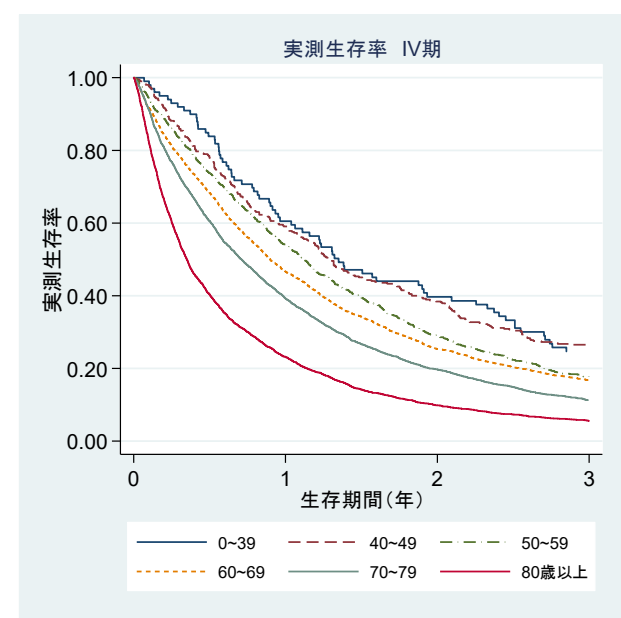
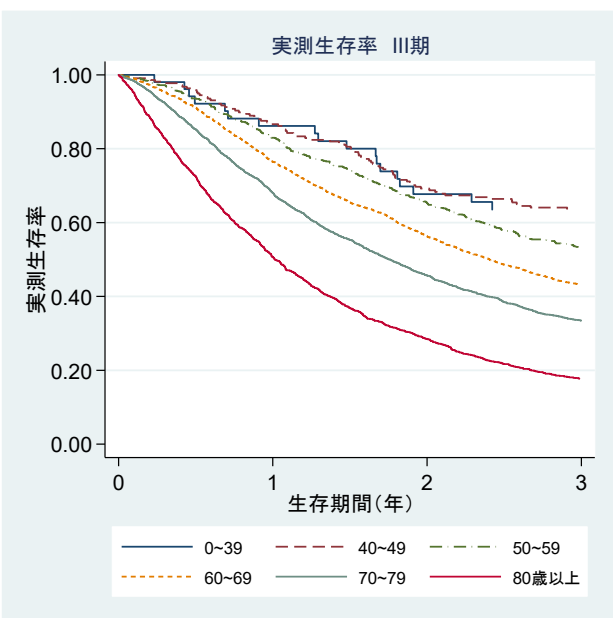
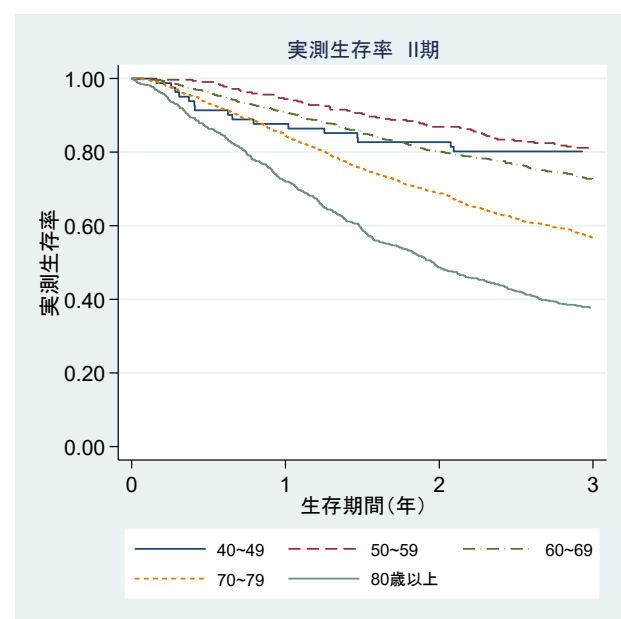
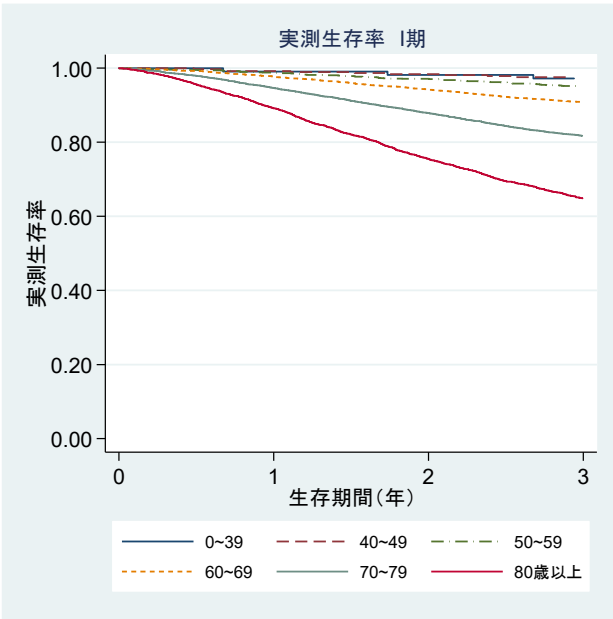
表 17-4-2 年齢・UICC TNM 分類総合ステージ別実測生存率と相対生存率：肺非小細胞

I 期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0~40 歳未満	110	97.2	97.4	91.8	99.3
40~50 歳未満	374	97.3	97.7	95.5	99.0
50~60 歳未満	1,606	95.2	96.3	95.1	97.3
60~70 歳未満	5,462	90.8	93.5	92.7	94.3
70~80 歳未満	7,148	81.7	88.0	87.0	88.9
80 歳以上	3,293	64.8	80.8	78.7	82.8

II 期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0~40 歳未満	18	-	-	-	-
40~50 歳未満	81	80.1	80.6	70.0	87.8
50~60 歳未満	321	80.9	82.0	77.2	85.9
60~70 歳未満	1,153	72.7	75.2	72.4	77.8
70~80 歳未満	1,550	56.8	61.6	58.8	64.2
80 歳以上	710	37.7	47.6	43.0	52.1

III 期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0~40 歳未満	52	63.2	63.4	48.2	75.2
40~50 歳未満	221	63.7	64.1	57.2	70.1
50~60 歳未満	755	53.3	54.1	50.4	57.6
60~70 歳未満	2,413	43.1	44.6	42.5	46.6
70~80 歳未満	2,644	33.5	36.2	34.2	38.2
80 歳以上	1,241	17.8	22.5	19.8	25.2

IV 期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0~40 歳未満	100	24.7	24.7	16.6	33.7
40~50 歳未満	406	25.7	25.8	21.6	30.2
50~60 歳未満	1,217	17.7	18.0	15.8	20.2
60~70 歳未満	4,157	16.7	17.2	16.0	18.4
70~80 歳未満	4,519	11.3	12.1	11.1	13.1
80 歳以上	2,920	5.6	7.0	6.0	8.2



女性乳房

女性乳房では、60歳代が26.1%と最も多かった。年齢階級別に総合ステージの分布をみると、若干ではあるが80歳以上でI期(38.6%)よりII期(40.0%)が多かった。年齢・総合ステージ別に生存率をみると、I期ではほぼどの年代も相対生存率は99~100%であった。II期では、どの年代も相対生存率は96%を超えていた。III期でも全ての年代において相対生存率は83%を超えているが、80歳以上では実測生存率が69.3%と他の年代よりも低くなっている点に留意する必要がある。IV期では、80歳以上を除き、相対生存率は50%以上であった。

表 17-5-1 年齢・UICC TNM 分類総合ステージ別登録数：女性乳房

	I 期	II 期	III 期	IV 期	不明	その他	総数
0~40 歳未満	682	844	305	97	(4-6)	14	1,947
40~50 歳未満	3,263	2,657	791	317	34	33	7,095
50~60 歳未満	3,023	2,461	862	474	14	23	6,857
60~70 歳未満	3,974	2,983	1,028	562	21	17	8,585
70~80 歳未満	2,705	1,979	666	314	23	11	5,698
80 歳以上	1,047	1,086	399	130	51	(1-3)	2,715

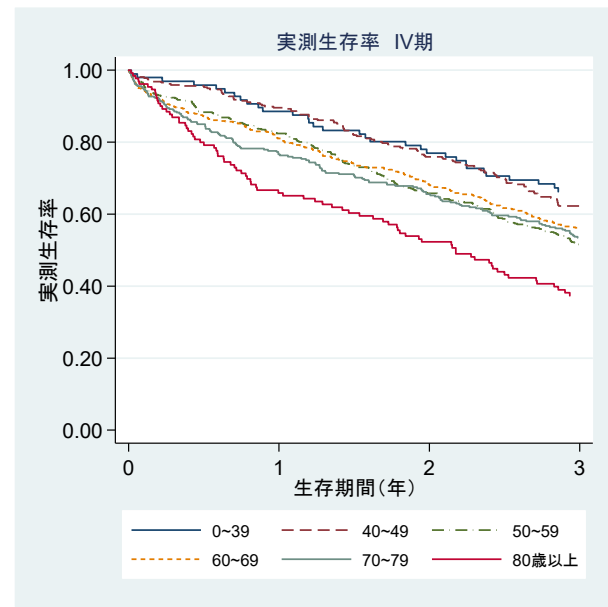
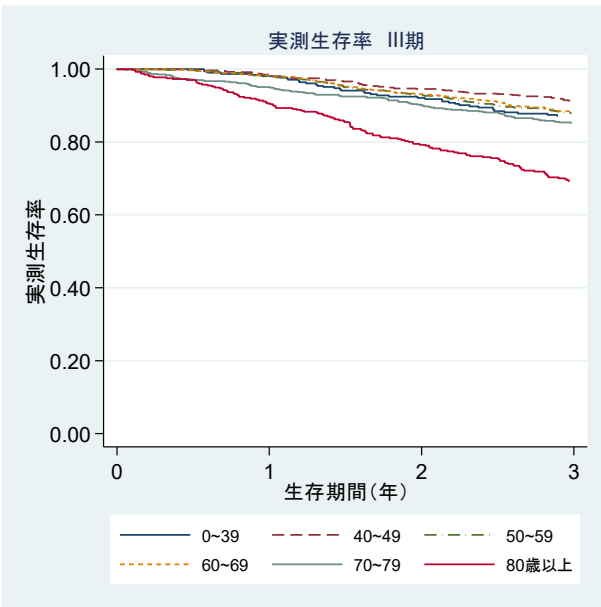
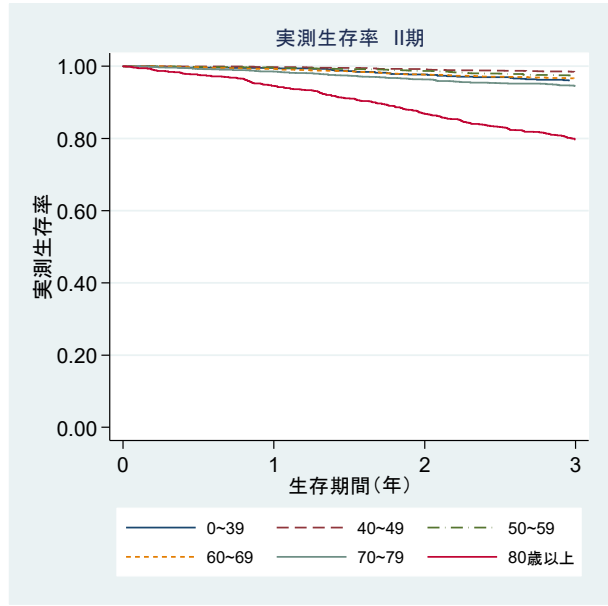
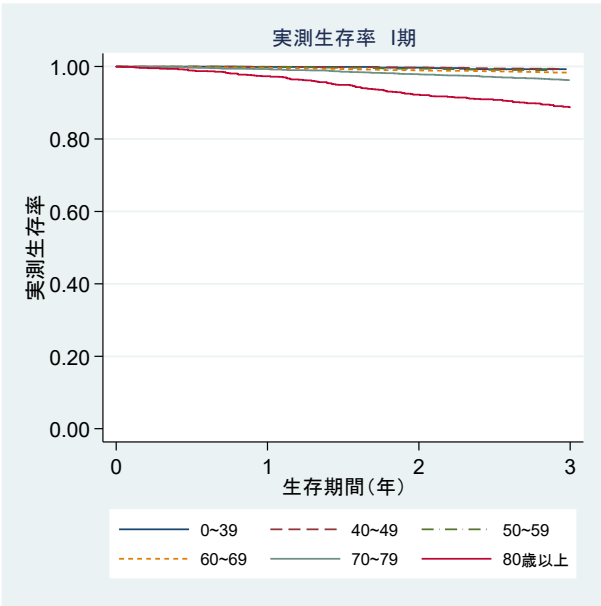
表 17-5-2 年齢・UICC TNM 分類総合ステージ別実測生存率と相対生存率：女性乳房

I 期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0~40 歳未満	682	99.3	99.4	98.4	99.8
40~50 歳未満	3,263	99.3	99.7	99.3	99.9
50~60 歳未満	3,023	98.9	99.6	99.1	99.9
60~70 歳未満	3,974	98.3	99.8	99.4	100.0
70~80 歳未満	2,705	96.3	100.0	99.4	100.0
80 歳以上	1,047	88.7	100.0	100.0	100.0

II 期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0~40 歳未満	844	96.0	96.2	94.6	97.3
40~50 歳未満	2,657	98.4	98.8	98.2	99.2
50~60 歳未満	2,461	97.4	98.1	97.3	98.6
60~70 歳未満	2,983	96.6	98.1	97.4	98.7
70~80 歳未満	1,979	94.6	98.6	97.4	99.5
80 歳以上	1,086	79.7	96.1	93.0	98.9

III 期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0~40 歳未満	305	87.1	87.2	82.9	90.5
40~50 歳未満	791	90.9	91.2	89.0	93.1
50~60 歳未満	862	87.7	88.4	86.0	90.4
60~70 歳未満	1,028	88.1	89.4	87.2	91.3
70~80 歳未満	666	85.2	88.7	85.7	91.3
80 歳以上	399	69.3	83.9	78.0	89.2

IV 期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0~40 歳未満	97	66.3	66.4	55.9	74.9
40~50 歳未満	317	61.9	62.1	56.5	67.3
50~60 歳未満	474	51.4	51.8	47.1	56.2
60~70 歳未満	562	56.1	56.9	52.6	61.0
70~80 歳未満	314	53.4	55.6	49.6	61.2
80 歳以上	130	37.5	45.3	35.1	55.4



2) 精度管理指標（自施設の治療実施の有無）

2006年版標準登録様式では、院内がん登録におけるがん治療とは、1) 原発巣・転移巣のがん組織に対して行われた治療と、2) がん組織に対するものではなくても、がんによる症状の緩和・軽減のために行われた特異的な治療の両者を指すと定義されている。ここでは、自施設において初回治療として行われた外科的治療、体腔鏡的治療、内視鏡的治療、放射線療法、化学療法、免疫療法・BRM、内分泌療法、TAE、PEIT、温熱療法、レーザー等治療、その他の治療に関して、自施設で施行された治療についてどの程度その頻度等を把握されているのかを検討することを目的に集計を行った。

集計対象は、本生存率集計対象とし全がんで集計を行った。

自施設での初回治療開始例における自施設での治療の有無別登録数をみると、不明と登録されている例は1%未満であり、ほぼ自施設での治療の頻度については把握されていると考えられる。しかし、個別に登録状況をみると、不明の割合が対象例の1%を超えている施設が2施設あった。

表 17 自施設での初回治療開始例における自施設での治療の有無別登録数

	有	(%)	無	(%)	不明	(%)	全体	(%)
自施設外科治療								
拠点病院	135,768	38.3	218,640	61.7	(4-6)		354,414	100.0
都道府県推薦病院	6,856	35.9	12,245	64.1	(7-9)		19,108	100.0
全体	142,624	38.2	230,885	61.8	13	0.0	373,522	100.0
自施設体腔鏡的治療								
拠点病院	56,555	16.0	297,852	84.0	(7-9)		354,414	100.0
県推薦	3,698	19.4	15,405	80.6	(4-6)		19,108	100.0
全体	60,253	16.1	313,257	83.9	12	0.0	373,522	100.0
自施設内視鏡的治療								
拠点病院	38,325	10.8	316,077	89.2	12	0.0	354,414	100.0
県推薦	2,213	11.6	16,881	88.3	14	0.1	19,108	100.0
全体	40,538	10.9	332,958	89.1	26	0.0	373,522	100.0
自施設放射線治療								
拠点病院	53,676	15.1	300,725	84.9	13	0.0	354,414	100.0
県推薦	2,166	11.3	16,941	88.7	(1-3)		19,108	100.0
全体	55,842	15.0	317,666	85.0	14	0.0	373,522	100.0
自施設化学療法								
拠点病院	125,982	35.5	228,417	64.4	15	0.0	354,414	100.0
県推薦	6,213	32.5	12,893	67.5	(1-3)		19,108	100.0
全体	132,195	35.4	241,310	64.6	17	0.0	373,522	100.0
自施設免疫療法・BRM								
拠点病院	2,073	0.6	352,330	99.4	11	0.0	354,414	100.0
県推薦	152	0.8	18,951	99.2	(4-6)		19,108	100.0
全体	2,225	0.6	371,281	99.4	16	0.0	373,522	100.0
自施設内分泌療法								
拠点病院	37,214	10.5	317,190	89.5	10	0.0	354,414	100.0
県推薦	2,193	11.5	16,913	88.5	(1-3)		19,108	100.0
全体	39,407	10.6	334,103	89.4	12	0.0	373,522	100.0
自施設 TAE								
拠点病院	4,920	1.4	349,486	98.6	(7-9)		354,414	100.0
県推薦	361	1.9	18,746	98.1	(1-3)		19,108	100.0
全体	5,281	1.4	368,232	98.6	(7-9)		373,522	100.0
自施設 PEIT								
拠点病院	319	0.1	354,083	99.9	12	0.0	354,414	100.0
県推薦	16	0.1	19,089	99.9	(1-3)		19,108	100.0
全体	335	0.1	373,172	99.9	15	0.0	373,522	100.0
自施設温熱療法								
拠点病院	197	0.1	354,209	99.9	(7-9)		354,414	100.0
県推薦	60	0.3	19,044	99.7	(4-6)		19,108	100.0
全体	257	0.1	373,253	99.9	12	0.0	373,522	100.0
自施設レーザー等治療								
拠点病院	3,488	1.0	350,908	99.0	18	0.0	354,414	100.0
県推薦	188	1.0	18,918	99.0	(1-3)		19,108	100.0
全体	3,676	1.0	369,826	99.0	20	0.0	373,522	100.0
自施設その他治療								
拠点病院	5,615	1.6	348,785	98.4	14	0.0	354,414	100.0
県推薦	318	1.7	18,779	98.3	11	0.1	19,108	100.0
全体	5,933	1.6	367,564	98.4	25	0.0	373,522	100.0

付表一覽

1.集計対象施設一覽

付表1 集計対象施設について

都道府県	施設名称
北海道	北海道がんセンター
	JA北海道厚生連旭川厚生病院
	王子総合病院
	JA北海道厚生連帯広厚生病院
	北見赤十字病院
	社会医療法人母恋 日鋼記念病院
	函館厚生院 函館五稜郭病院
	JA北海道厚生連札幌厚生病院
	独立行政法人 労働者健康安全機構 釧路労災病院
	青森
岩手	岩手県立中央病院
	岩手県立二戸病院
	岩手医科大学附属病院
	岩手県立中部病院
	岩手県立磐井病院
宮城	岩手県立大船渡病院
	東北大学病院
	宮城県立がんセンター
秋田	石巻赤十字病院
	大崎市民病院
	独立行政法人労働者健康安全機構 東北労災病院
	秋田大学医学部附属病院
	秋田県厚生農業協同組合連合会 由利組合総合病院
	大曲厚生医療センター
	秋田県厚生農業協同組合連合会平鹿総合病院
	秋田赤十字病院
山形	大館市立総合病院
	秋田県厚生農業協同組合連合会 秋田厚生医療センター
	山形県立中央病院
	山形大学医学部附属病院
	山形市立病院済生館
	置賜広域病院企業団 公立置賜総合病院
福島	日本海総合病院
	福島県立医科大学附属病院
	一般財団法人太田総合病院附属太田西ノ内病院
	竹田総合病院
	一般財団法人 脳神経疾患研究所 附属 総合南東北病院
茨城	会津中央病院
	茨城県立中央病院
	茨城県厚生農業協同組合連合会 総合病院土浦協同病院・茨城県地域がんセンター
	友愛記念病院
	茨城県厚生農業協同組合連合会 茨城西南医療センター病院
	国立大学法人 筑波大学附属病院
	国立病院機構水戸医療センター
株式会社 日立製作所 ひたちなか総合病院	
栃木	地方独立行政法人栃木県立がんセンター
	自治医科大学附属病院
	栃木県済生会宇都宮病院
	獨協医科大学病院
	那須赤十字病院
群馬	伊勢崎市民病院
	群馬県立がんセンター
	国立病院機構沼田病院
	独立行政法人国立病院機構 渋川医療センター
	独立行政法人国立病院機構 高崎総合医療センター
	公立富岡総合病院

都道府県	施設名称
埼玉	桐生厚生総合病院
	前橋赤十字病院
	さいたま赤十字病院
	埼玉県立がんセンター
	春日部市立医療センター
	獨協医科大学埼玉医療センター
	川口市立医療センター
	埼玉医科大学国際医療センター
	社会福祉法人恩賜財団埼玉県済生会川口総合病院
	医療法人社団東光会 戸田中央総合病院
千葉	自治医科大学附属さいたま医療センター
	国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院
	国保旭中央病院
	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
	国保直営総合病院 君津中央病院
	千葉県がんセンター
	船橋市立医療センター
	千葉大学医学部附属病院
	独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター
	東京歯科大学市川総合病院
東京	順天堂大学医学部附属浦安病院
	東京慈恵会医科大学附属柏病院
	松戸市立総合医療センター
	日本医科大学千葉北総病院
	国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院
	東京都立駒込病院
	青梅市立総合病院
	NTT東日本関東病院
	日本赤十字社医療センター
	日本大学医学部附属板橋病院
神奈川	武蔵野赤十字病院
	がん研有明病院
	国立大学法人 東京大学医学部附属病院
	日本医科大学付属病院
	聖路加国際病院
	帝京大学医学部附属病院
	杏林大学医学部付属病院
	順天堂大学医学部附属順天堂医院
	昭和大学病院
	慶應義塾大学病院
東京都立多摩総合医療センター	
神奈川	公立昭和病院
	虎の門病院
	東京医科歯科大学医学部附属病院
	東京都立墨東病院
	神奈川県立がんセンター
	国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院
	横浜市立市民病院
	相模原協同病院
	公立大学法人 横浜市立大学附属病院
	聖マリアンナ医科大学病院
東海大学医学部付属病院	
神奈川	北里大学病院
	昭和大学横浜市北部病院
	横浜市立みなと赤十字病院
	大和市立病院

都道府県	施設名称
新潟	独立行政法人 労働者健康安全機構 関東労災病院
	新潟県立がんセンター新潟病院
	県立中央病院
	長岡赤十字病院
	新潟県厚生農業協同組合連合会長岡中央総合病院
	県立新発田病院
富山	労働者健康安全機構新潟労災病院
	富山県立中央病院
	黒部市民病院
	富山労災病院
	富山大学附属病院
	厚生連高岡病院
	高岡市民病院
石川	市立砺波総合病院
	国立大学法人金沢大学附属病院
	金沢医科大学病院
福井	小松市民病院
	福井県立病院
	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 福井県済生会病院
	福井赤十字病院
	福井大学医学部附属病院
山梨 長野	独立行政法人国立病院機構敦賀医療センター
	山梨大学医学部附属病院
	長野県厚生農業協同組合連合会 佐久総合病院 佐久医療センター
	国立大学法人 信州大学医学部附属病院
	諏訪赤十字病院
	長野市民病院
	長野赤十字病院
	社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院
	伊那中央病院
	長野県厚生農業協同組合連合会 北信総合病院
岐阜	岐阜大学医学部附属病院
	高山赤十字病院
	岐阜県総合医療センター
	岐阜県立多治見病院
	大垣市民病院
	社会医療法人厚生会 木沢記念病院
静岡	静岡県立静岡がんセンター
	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷三方原病院
	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷浜松病院
	順天堂大学医学部附属静岡病院
	静岡市立静岡病院
	藤枝市立総合病院
	浜松医科大学医学部附属病院
	浜松医療センター
磐田市立総合病院	
愛知	愛知県がんセンター中央病院
	安城更生病院
	海南病院
	国立病院機構 名古屋医療センター
	豊橋市民病院
	一宮市立市民病院
	公立陶生病院
	愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院
	名古屋第一赤十字病院
名古屋第二赤十字病院	

都道府県	施設名称
三重 滋賀	藤田保健衛生大学病院
	日本赤十字社 伊勢赤十字病院
	市立長浜病院
	滋賀県立総合病院
	公立甲賀病院
	彦根市立病院
京都	滋賀医科大学医学部附属病院
	京都市立病院
	京都第一赤十字病院
	京都第二赤十字病院
	独立行政法人国立病院機構 京都医療センター
大阪	市立福知山市民病院
	市立岸和田市民病院
	地方独立行政法人市立東大阪医療センター
	市立豊中病院
	大阪国際がんセンター
	地方独立行政法人大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター
	大阪赤十字病院
	独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター
	独立行政法人労働者健康安全機構大阪労災病院
	大阪医科大学附属病院
	大阪市立大学医学部附属病院
	国立病院機構大阪医療センター
	堺市立総合医療センター
	八尾市立病院
兵庫	兵庫県立がんセンター
	神戸大学医学部附属病院
	神戸市立医療センター中央市民病院
	独立行政法人労働者健康安全機構 関西労災病院
	公立学校共済組合近畿中央病院
	姫路赤十字病院
	赤穂市民病院
	公立豊岡病院組合立豊岡病院
	兵庫県立淡路医療センター
	兵庫医科大学病院
	兵庫県立柏原病院
奈良	奈良県立医科大学附属病院
	市立奈良病院
和歌山	紀南病院
	日本赤十字社和歌山医療センター
鳥取	鳥取県立厚生病院
	独立行政法人国立病院機構 米子医療センター
	鳥取県立中央病院
	鳥取市立病院
	鳥取大学医学部附属病院
島根	松江市立病院
	松江赤十字病院
	島根大学医学部附属病院
	島根県立中央病院
	独立行政法人国立病院機構 浜田医療センター
岡山	岡山済生会総合病院
	岡山赤十字病院
	岡山大学病院
	公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院
	岡山医療センター
	川崎医科大学附属病院

都道府県	施設名称
広島	金田病院
	県立広島病院
	地方独立行政法人 広島市立病院機構 広島市立広島市民病院
	広島赤十字・原爆病院
	独立行政法人国立病院機構 呉医療センター
山口	東広島医療センター
	福山市民病院
	山口県立総合医療センター
	国立病院機構 岩国医療センター
	山口県厚生農業協同組合連合会山口周東病院
徳島	独立行政法人地域医療機能推進機構徳山中央病院
	徳島県立中央病院
香川	徳島大学病院
	香川県立中央病院
	独立行政法人労働者健康安全機構香川労災病院
	三豊総合病院
	高松赤十字病院
愛媛	国立大学法人 香川大学医学部附属病院
	市立宇和島病院
	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター
	住友別子病院
	愛媛大学医学部附属病院
高知	愛媛県立中央病院
	社会福祉法人恩賜財団 済生会今治病院
	国立大学法人 高知大学医学部附属病院
	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター
	高知県立幡多けんみん病院
福岡	久留米大学病院
	公立八女総合病院
	地方独立行政法人大牟田市立病院
	社会保険田川病院
	飯塚病院
	独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター
	北九州市立医療センター
	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター
	九州大学病院
	独立行政法人国立病院機構九州医療センター
	福岡県済生会福岡総合病院
	福岡大学病院
	聖マリア病院
独立行政法人地域医療機能推進機構 九州病院	
佐賀	産業医科大学病院
	地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館
	唐津赤十字病院
長崎	独立行政法人国立病院機構 嬉野医療センター
	日本赤十字社 長崎原爆病院
熊本	長崎県島原病院
	熊本大学医学部附属病院
	独立行政法人労働者健康安全機構 熊本労災病院
	人吉医療センター
	国立病院機構 熊本医療センター
大分	済生会熊本病院
	荒尾市民病院
	大分県立病院
	大分赤十字病院
	大分大学医学部附属病院
	大分県済生会日田病院
	中津市立中津市民病院

都道府県	施設名称
宮崎	宮崎県立宮崎病院
	国立病院機構 都城医療センター
	国立大学法人宮崎大学医学部附属病院
鹿児島	鹿児島県立薩南病院
	独立行政法人国立病院機構 南九州病院
	公益社団法人昭和会 今給黎総合病院
	出水郡医師会広域医療センター
	社会医療法人 博愛会 相良病院
沖縄	地方独立行政法人那覇市立病院
	沖縄県立中部病院
	国立大学法人 琉球大学医学部附属病院
	沖縄県立八重山病院

都道府県	施設名称
北海道	社会医療法人製鉄記念室蘭病院 JA北海道厚生連遠軽厚生病院
秋田	中通総合病院 市立秋田総合病院
茨城	独立行政法人国立病院機構茨城東病院
群馬	群馬大学医学部附属病院 公立館林厚生病院 群馬県済生会前橋病院
東京	日本医科大学多摩永山病院
石川	社会医療法人財団董仙会恵寿総合病院 独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院
長野	JA長野厚生連 北アルプス医療センター あづみ病院
岐阜	松波総合病院
三重	松阪市民病院
滋賀	社会医療法人 誠光会 草津総合病院 近江八幡市立総合医療センター
京都	三菱京都病院
大阪	地方独立行政法人 市立吹田市民病院 箕面市立病院 医療法人徳洲会 八尾徳洲会総合病院 ベルランド総合病院 社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会野江病院 独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院 大阪警察病院
島根	松江医療センター
岡山	一般財団法人 倉敷成人病センター
山口	独立行政法人国立病院機構山口宇部医療センター
長崎	独立行政法人地域医療機能推進機構諫早総合病院
熊本	国家公務員共済組合連合会 熊本中央病院 大腸肛門病センター高野病院 天草地域医療センター
大分	独立行政法人国立病院機構大分医療センター
鹿児島	鹿児島市医師会病院
沖縄	社会医療法人仁愛会 浦添総合病院 沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院 社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院

がん診療連携拠点病院等院内がん登録
2013年3年生存率集計 報告書

2019年12月 第1刷発行(非売
品)

編 集 東尚弘 奥山絢子
(分析) (奥山絢子 塚田庸一郎)
発 行 国立研究開発法人 国立がん研究センター
がん対策情報センター がん登録センター
院内がん登録分析室
〒104-0045 東京都中央区築地五丁目1番1号
電話 03-3542-2511